学際基礎科目・人文科学系	
哲学思想史 a	**佐野　好則**
前期・２単位	**＜登録条件＞**　通年(a，b)の履修が望ましい。学部 1，2 年を主な対象学年とする。

＜授業のテーマ＞　西洋古代中世の哲学思想史を概観する。

＜到達目標＞　各哲学者の思想を他の哲学者の思想との関連に注目して理解すること。神学の背景としての哲学の重要性を認識すること。

＜授業の概要＞　講義とディスカッションを通して、各哲学者の思想の特徴や相互の関連性を検討する。

＜履修条件＞　学部 1，2 年を主な対象学年とする。

＜授業計画＞

1. 哲学の始まり
2. ソクラテス以前の哲学者達(1)－イオニアの自然哲学
3. ソクラテス以前の哲学者達(2)－ヘラクレイトス、パルメニデス、ピタゴラス学派
4. ソクラテス以前の哲学者達(3)－エムペドクレス、アナクサゴラス、原子論
5. ソフィスト達とソクラテス
6. プラトンの哲学。イデア論
7. アリストテレスの哲学
8. ストア派、エピクロス派、懐疑主義
9. プロティノス
10. アウグスティヌス(1)－新プラトン主義の影響
11. アウグスティヌス(2)－時間論、内なる教師
12. アンセルムス
13. 唯名論と実名論
14. トマス・アクィナス
15. 神学における哲学の受容

＜準備学習等の指示＞　各哲学者による著作の抜粋を読んでくることが予習として課される。

＜テキスト＞　テキストとなる著作の抜粋を毎回配布する。

＜参考書＞　A.H.アームストロング『古代哲学史』みすず書房、1989 年
内山／中山編『西洋哲学史、古代・中世篇』ミネルヴァ書房、1996 年
熊野純彦『西洋哲学史、古代から中世へ』岩波新書、2006 年

＜学生に対する評価（方法・基準）＞　出席が 2/3 に満たない者は評価の対象としない。評価は授業でのディスカッションへの参加とレポート提出による。

学際基礎科目・人文科学系	
哲学思想史ｂ	田中　敦
後期・２単位	＜登録条件＞　通年（a, b）の履修が望ましい。

＜授業のテーマ＞　西洋哲学を学ぶ上でどうしても知っておくべき代表的哲学者の思想の基礎的な理解と、それぞれの思想を支え、その理解の手引きとなる基本的諸概念の正確な理解。

＜到達目標＞　様々な哲学の主題と考え方を学ぶことを通じて、それらに共通する哲学一般の基礎的な理解を得ること。西洋近世哲学の歴史を学ぶことを通して、現代という時代について、そしてその思想的課題についての問題意識を持ち得るようにする。特に神学、キリスト教思想との関連において現代における哲学の可能な役割と意味を考えることを目標にしたい。

＜授業の概要＞　近世以後の西欧の哲学の諸学説について、特に経験論と合理論の基本的な違い、それぞれの正当な根拠、両者を統合したカント哲学の理解を得た上で、カント以後の哲学の主要な哲学者の考えも辿る。それと共に、哲学の基本的な概念、例えば実体、属性、観念、分析、総合などの意味の正確な理解を期す。

＜履修条件＞特にありません。

＜授業計画＞

１．哲学とはどういうものか。それは信仰、神学の理解にとってどのような意味を持ち得るか。近世ヨーロッパの哲学の概観とその特徴、現代の哲学の状況。
２．過渡期の哲学としてのルネサンス哲学（プラトン主義の復興、アリストテレス哲学の復興、人文主義）。
３．17 世紀の哲学の二大潮流（英国経験論と大陸合理論）。フランシス・ベーコン。学問の革新と認識の方法の探究（イドラ批判と未知の真理探究の方法としての帰納法）。
４．デカルト 1.（生涯、方法の探究と懐疑、実体の意味、普遍的な方法的懐疑と合理的体系）。
５．デカルト 2.（精神と物体の二元論、心身合一の難問、情念と道徳）。
６．パスカル（理性と心情、三つの秩序）と機会原因論（心身の関係について）。
７．スピノザ（感情の奴隷から自由な存在へ、認識の三段階、神即自然の一元論）。
８．ライプニッツ（実体の多元論、モナドと予定調和説、二つの原理と二種類の真理）。
９．イギリス経験論の流れとロック（心は白紙、実体の複雑観念、抽象一般観念）。
10. バークレー（抽象一般観念の否定、物体の存在は知覚されること）、
　ヒューム（因果関係の客観性の否定、二種類の関係と観念連合、知覚の束）。
11. カントの批判哲学（アプリオリな綜合的判断の可能性、コペルニクス的転回、現象と物自体、
　二律背反、実践理性の優位、定言命法）。
12. ドイツ観念論の哲学、フィヒテ（知識学、事行）、シェリング（同一哲学、人間の自由と悪の存在）。
13. ヘーゲル（弁証法、精神現象学、理性の狡知、歴史哲学）。
14. ヘーゲル以後の哲学の展開、キェルケゴール（実存の三段階）とニーチェ（超人と永劫回帰、ニヒリズム）。
15. ニーチェ以後と現代の哲学の展開。特に現象学の有する意味を中心に
　（新カント派、実証主義、プラグマティズム、分析哲学、現象学）。

＜準備学習等の指示＞　授業で用いる資料を予め配布するので、それを授業に先立って読んでおくことが授業内容の理解を助ける。少なくともその資料に目を通して、どのような問題が取り上げられるか、また理解の難しい点、疑問点などを必ずチェックしてから出席して欲しい。

＜テキスト＞　事前に資料を配布し、その内容の理解を中心として講義を進めます。

＜参考書＞

原佑、井上忠、杖下隆英、坂部惠『西洋哲学史 {第三版}』東京大学出版会、1988 年
岡崎文明、日下部吉信他著『西洋哲学史』昭和堂、1994 年
波多野精一著、牧野紀之再話『西洋哲学史要』未知谷、2001 年

＜学生に対する評価（方法・基準）＞

レポートの評価を基にして、授業への積極的な参加態度と発言の評価を加える。
出席が 2／3 に満たない者は評価の対象としない。

学際基礎科目・人文科学系	
キリスト教と世界史ａ	小宮　正安
後期・２単位	＜登録条件＞

＜授業のテーマ＞
「ヴンダーカンマー」（珍品収集室／驚異の部屋）を切り口に、ルネッサンスからバロックにかけてのヨーロッパの諸相を学びます。

＜到達目標＞
ヨーロッパ近世（ルネッサンスからバロック）におけるキリスト教文化の変遷やヨーロッパの文化の特質を理解できることとします。

＜授業の概要＞
ルネッサンスからバロックにかけてヨーロッパを席巻した「ヴンダーカンマー」（珍品収集室／驚異の部屋）の変遷を辿りながら、当時の宗教観や宇宙観について芸術史、科学史、社会史等を織り交ぜることで、近世ヨーロッパの社会や文化の奥底に渦巻くものを学んでゆきます。

＜履修条件＞

＜授業計画＞
1. 博物館とコレクションの歴史について　概論
2. ルネッサンスの再検証とヴンダーカンマーの誕生
3. ルネッサンスの宇宙観とヴンダーカンマーの世界観
4. メディチ家に見るコレクション保護政策
5. マニエリスムの誕生とヴンダーカンマーの変容
6. 皇帝ルドルフの魔術的世界観とヴンダーカンマー
7. アルチンボルドとヴンダーカンマー的コレクション
8. キルヒャーと「キルヒャー博物館」
9. 「自然科学」の萌芽に見る「近代的博物館」の予兆
10. バロックにおけるヴンダーカンマーの瀟洒化
11. 近代の訪れとヴンダーカンマーの解体
12. ヴンダーカンマーと博物館の差異
13. シュールレアリストたちによるヴンダーカンマー再発見
14. ヴンダーカンマーと博物館　各価値観の止揚
15. 総論・まとめ

＜準備学習等の指示＞

＜テキスト＞
愉悦の蒐集　ヴンダーカンマーの謎（小宮正安著　集英社新書）

＜参考書＞

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業への参加度、レポートや試験を総合的に見て評価します。

学際基礎科目・人文科学系、専門教育科目選択換算	
キリスト教と芸術２音楽史ａ	渡辺　善忠
前期・２単位	＜登録条件＞　通年の受講をお勧め致します。

＜授業のテーマ＞
神の救いの御業が音楽によって伝えられてきた歴史を学びます。

＜到達目標＞
旧約聖書時代（ユダヤ教）から初代教会～宗教改革時代の教会にかけて、神の救いの御業が音楽によって伝えられてきた歴史を辿ることによって、日本の教会における音楽の役割を考察することを目標とします。

＜授業の概要＞
ユダヤ教～初代教会～１６世紀の教会の音楽史について、講義とＣＤ鑑賞によって学びます。

＜履修条件＞
礼拝と音楽の関わりを大切に考える方、牧師の基礎的な教養として音楽に親しみたい方、奏楽者や聖歌隊と良き交わりを築きたい方の履修を歓迎致します。

＜授業計画＞

第１回　　キリスト教音楽史概説（定義づけ、神学と音楽の関わり等）

第２回　　旧約聖書時代の音楽①～古代から第一神殿時代にかけてのユダヤ教の音楽～

第３回　　旧約聖書時代の音楽②～第二神殿時代のユダヤ教から初代教会にかけての音楽～

第４回　　グレゴリオ聖歌とプロテスタント教会①～グレゴリオ聖歌の成立～

第５回　　グレゴリオ聖歌とプロテスタント教会②～グレゴリオ聖歌の発展～

第６回　　ミサ曲の成立と発展①～音楽史的側面～

第７回　　ミサ曲の成立と発展②～礼拝様式との関わりについて～

第８回　　オラトリオの成立と発展～音楽史的側面～①

第９回　　オラトリオの成立と発展～聖書朗読から音楽へ～②

第１０回　レクイエムの成立と発展

第１１回　宗教改革直前の時代教会音楽

第１２回　宗教改革時代の教会音楽

第１３回　旧約時代から宗教改革時代の音楽と讃美歌①～聖書と讃美歌の関わり～

第１４回　旧約時代から宗教改革時代の音楽と讃美歌②～現代の教会における讃美歌～

第１５回　旧約聖書の時代から宗教改革時代までの教会音楽の発展と評価

＜準備学習等の指示＞
受講者の方々の理解に応じて参考文献の下調べなどについてその都度指示します。

＜テキスト＞
「礼拝における賛美の役割と課題」（渡辺善忠著）第１回の講義で配布する予定です。

＜参考書＞
図書館のカウンター横の棚に参考図書のコーナーを設けて頂く予定ですので、講義時に説明致します。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業への取り組み方や質問等の平常点を考慮に入れながらレポートで評価致します。

学際基礎科目・人文科学系、専門教育科目選択換算	
キリスト教と芸術２音楽史ｂ	渡辺　善忠
後期・２単位	＜登録条件＞　通年の受講をお勧め致します。

＜授業のテーマ＞
神の救いの御業が音楽によって伝えられてきた歴史を学びます。

＜到達目標＞
宗教改革時代（１６世紀）から現代まで、神の救いの御業が音楽によって伝えられてきた歴史を辿ることによって、日本の教会における音楽の役割を考察することを目標とします。

＜授業の概要＞
１６世紀から現代までの教会音楽史について、講義とＣＤ鑑賞によって学びます。

＜履修条件＞
礼拝と音楽の関わりを大切に考える方、牧師の基礎的な教養として音楽に親しみたい方、奏楽者や聖歌隊と良き交わりを築きたい方の履修を歓迎致します。

＜授業計画＞

第１回　　キリスト教音楽史概説（定義づけ、神学との関わり等）

第２回　　Ｊ．Ｓ．バッハ

第３回　　Ｇ．Ｆ．ヘンデル

第４回　　Ｆ．Ｊ．ハイドンとＭ．ハイドン

第５回　　Ａ．モーツァルト

第６回　　Ｌ．Ｖ．ベートーヴェン

第７回　　Ｆ．シューベルト

第８回　　Ｆ．メンデルスゾーン

第９回　　Ｊ．ブラームス

第１０回　Ｆ．シュミット

第１１回　Ｊ．ラター

第１２回　現代のキリスト教音楽と将来の課題

第１３回　讃美歌の選曲方法①～礼拝における讃美歌の役割～

第１４回　讃美歌の選曲方法②～讃美歌選曲の実践～

第１５回　旧約聖書の時代から宗教改革時代までのキリスト教音楽の発展と評価

＜準備学習等の指示＞
受講者の方々の理解に応じて参考文献の下調べなどについてその都度指示します。

＜テキスト＞
「礼拝における賛美の役割と課題」（渡辺善忠著）第１回の講義で配布する予定です。

＜参考書＞
図書館のカウンター横の棚に参考図書のコーナーを設けて頂く予定ですので、講義時に説明致します。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業への取り組み方や質問等の平常点を考慮に入れながらレポートで評価致します。

学際基礎科目・社会科学系	
社会史 a	早川　朝子
前期・２単位	＜登録条件＞

＜授業のテーマ＞
一般の人々の生きた社会を中心にヨーロッパ中世の歴史を学びます。

＜到達目標＞
中世の初期から末期までのヨーロッパ社会の歴史の流れを理解する。
ヨーロッパの中世史を学ぶ上で重要となる概念を習得する。

＜授業の概要＞
ヨーロッパ中世は、政治制度や行政組織だけでなく、芸術や学問、さらには人々の日常生活にまでキリスト教の影響が及びました。この授業では、キリスト教が浸透し定着していったヨーロッパ中世の歴史を概観したうえで、教会建築、聖人崇敬・巡礼など、人々の日常に関わる具体的な事柄を取り上げます。それぞれにみられるキリスト教の影響や、中世の人々の考え方などを考察します。なお、取り上げる事柄は状況により変更する場合もあります。

＜履修条件＞
特にありません。

＜授業計画＞
第 1 回：「ヨーロッパ」、「中世」について
第 2 回：中世初期のヨーロッパ社会とキリスト教
第 3 回：中世盛期～後期のヨーロッパ社会とキリスト教
第 4 回：修道院
第 5 回：教会建築
第 6 回：聖人崇敬・巡礼
第 7 回：農村の生活
第 8 回：都市の生活
第 9 回：結婚・家族・衣食住
第 10 回：教会暦と時間
第 11 回：死生観、救貧制度
第 12 回：ユダヤ人
第 13 回：病気と医療
第 14 回：12 世紀ルネサンス、ヨーロッパ中世の「世界」
第 15 回：まとめ

＜準備学習等の指示＞
配付したプリントを見るなど前回の復習をしてくることが望ましいです。

＜テキスト＞
指定しません。プリントを配付します。

＜参考書＞
神崎忠昭『ヨーロッパの中世』（慶應義塾大学出版会、2015 年）。
堀越宏一・甚野尚志編著『15 のテーマで学ぶ中世ヨーロッパ史』（ミネルヴァ書房、2013 年）。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
出席状況、授業への積極的参加、練習問題や課題への取り組みにより評価します。

学際基礎科目・社会科学系	
社会史ｂ	早川　朝子
後期・２単位	＜登録条件＞

＜授業のテーマ＞
宗教改革を中心に近世ヨーロッパの社会について学びます。

＜到達目標＞
宗教改革の経過とそれがヨーロッパ社会に及ぼした影響についての理解を深める。
ヨーロッパの近世史を学ぶ上で重要となる概念を習得する。

＜授業の概要＞
ルネサンスと宗教改革を経て「近代」の幕が開いたと言われてきました。このような捉え方は相対化されつつありますが、プロテスタントを誕生させた宗教改革が、ヨーロッパやキリスト教の歴史において重要な出来事であることに変わりはありません。そこでこの授業では、まずはルネサンス・宗教改革の時代を迎える前の中世末期の社会を、教会改革を求める様々な動きを中心に概観します。次いで宗教改革のはじまりと経過について概観し、宗教改革が都市や農村の社会に及ぼした影響、識字率の低かった時代に宗教改革思想の伝達に重要な役割を果たした木版画など、具体的な事例をもとに検討します。さらには、宗教改革の経過の中で登場した再洗礼派に焦点を当て、終末論と結びついた彼らの過激な言動や、信仰を守りぬくうえでの苦難について考察します。最後に解剖学、占星術、魔女狩りなどを通して、近世期における科学の進歩や、依然として残る非科学的な側面についてみていきます。なお、授業の各回で扱う内容は状況により変更する場合もあります。

＜履修条件＞
特にありません。

＜授業計画＞
第 1 回：ルネサンス
第 2 回：中世末期のヨーロッパ社会
第 3 回：教会改革運動と異端
第 4 回：マルティン・ルターと宗教改革のはじまり
第 5 回：ドイツにおける宗教改革の経過
第 6 回：宗教改革の影響：都市騒擾・農民戦争
第 7 回：宗教改革思想の伝達：木版画
第 8 回：信仰の分裂、「宗派化」された社会
第 9 回：スイスにおける宗教改革：ウルリヒ・ツヴィングリ、再洗礼派の誕生
第 10 回：再洗礼派：終末論、迫害と殉教の記憶、アーミッシュ
第 11 回：ジャン・カルヴァンの宗教改革、フランスの宗教戦争
第 12 回：イングランドの宗教改革
第 13 回：占星術・解剖学
第 14 回：魔女狩り
第 15 回：まとめ

＜準備学習等の指示＞
配付したプリントを見るなど前回の復習をしてくることが望ましいです。

＜テキスト＞
指定しません。プリントを配付します。

＜参考書＞
中村賢二郎他編訳『原典宗教改革史』（ヨルダン社、1976 年）。
出村彰『再洗礼派 ― 宗教改革時代のラディカリストたち』（日本基督教団出版局、1970 年）。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
出席状況、授業への積極的参加、練習問題や課題への取り組みにより評価します。

学際基礎科目・社会科学系	
法と人権１法学概論	佐々木　高雄
前期・２単位	＜登録条件＞　特になし

＜授業のテーマ＞　法律問題を嫌悪せず「まずは、自分で考えてみよう」との意欲を醸成する。

＜到達目標＞　①身近に起こる法律問題を論理的に捉える訓練を行う。②一見、特別な印象を受けるかもしれない「法学的思考」だが、そうした違和感を緩和する。③日常生活に必要な「法律用語」のいくつかを学習する。

＜授業の概要＞　「人が定めた規則に、なぜ従わなければならないのか」との問題を考えたうえで、日常生活に必要な法律上の知識を――ほんの一部にとどまるが――修得する。そして、その背後に潜む理念を探りたい。

＜履修条件＞特になし

＜授業計画＞

1. 法と法律の違い／正義の女神が持つ「秤と剣」の意味／ノートの取り方
2. 法律解釈の方法／「可能な解釈」と「採るべき解釈」／本の読み方
3. 出生にかかわる法律（権利能力／自然人と法人）／レポートの書き方
4. 基礎的事項（一般法と特別法／年齢の数え方と期間計算法／条件と期限）
5. 未成年者に対する保護法制（行為能力①　未成年者でも出来ること）
6. 老人に対する保護法制（行為能力②　成年後見制度）
7. 婚姻にかかわる法律
8. 離婚にかかわる法律
9. 遺産相続にかかわる法律
10. 物権にかかわる法律①（物権と債権の違い／物権にかかわる原則）
11. 物権にかかわる法律②（所有権の特質／相隣関係）
12. 物権にかかわる法律③（所有権の取得）
13. 債権にかかわる法律①（身分から契約へ／契約にかかわる原則）
14. 債権にかかわる法律②（債権の保全と担保）
15. 犯罪と刑罰について／まとめ

＜準備学習等の指示＞授業には『六法全書』を携行すること。各種の『六法』の特徴については、最初の授業で説明する予定なので、購入するなら、その後にするのが賢明であろう。なお、各自の授業への関わりは、復習中心に願いたい。

＜テキスト＞特に指定せず、ノート中心の授業になる。受講上、必要な資料・教材は、コピーして配布する。

＜参考書＞一般的なものは不要。各授業に関連して「読むべき文献」は、その都度、紹介する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞レポートの提出を求め、それによって評価する。無届けの欠席が１／３を超える者は、評価の対象としない。なお、評価の際は「共通評価指標（1)」の③および⑤を重視する。

学際基礎科目・社会科学系	
法と人権２日本国憲法	佐々木　高雄
後期・２単位	＜登録条件＞　特になし

＜授業のテーマ＞　憲法改正が話題になる時代を迎え、各自が「大きな声」に左右されることなく、問題の本質を、実証的な知識に基づいて冷静に、自分の頭で考えてみる勇気を身に付ける。

＜到達目標＞　わずか 9 日間で起草された日本国憲法の原案なので、「よいところ」については、それを確認し、「問題のあるところ」については、どのように改めるべきなのか、予断を排して、検討する。

＜授業の概要＞　制憲史的手法を活用し、できるかぎり客観的な事実を確認しながら、憲法という規範の解釈に努め、人権問題を中心に、「憲法に盛り込まれた理念」と「現実の姿」とを、対比して検討する。

＜履修条件＞特になし

＜授業計画＞

1. 憲法とは何か？
2. 明治憲法の制定／明治憲法の特徴
3. 日本国憲法の制定①（ポツダム宣言からマッカーサー・ノートまで＝新憲法の基盤・背景）
4. 日本国憲法の制定②（マッカーサー草案＝民主化のための諸項目）
5. 日本国憲法の制定③（日本側の作業＝旧い価値観／議会における審議手続／改正か、制定か）
6. 制定された憲法の特色／国民主権（象徴天皇制との関わりのもとに）
7. 平和主義①（「第九条」の解釈／前文・第２段）
8. 平和主義②（「第九条」をめぐる裁判例／平和的生存権）
9. 人権尊重主義／人権に関わる一般原則
10. 平等権（信条による差別＝憲法の私人間効力／性差別／尊属殺重罰規定／議員定数不均衡問題）
11. 宗教の自由（信教の自由／政教分離原則）
12. 表現の自由（知らせる自由／知る自由／知られたくない自由）
13. 経済的自由権
14. 身体的自由権（法定手続の保障／令状主義）／他の人権（社会権など）
15. 統治機構／まとめ

＜準備学習等の指示＞授業には『六法全書』を携行すること。各種の『六法』の特徴については、最初の授業で説明する予定なので、購入するなら、その後にするのが賢明であろう。なお、各自の授業への関わりは、復習中心に願いたい。

＜テキスト＞特に指定せず、ノート中心の授業になる。受講上、必要な資料・教材は、コピーして配布する。

＜参考書＞一般的なものは不要。各授業に関連して「読むべき文献」は、その都度、紹介する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞レポートの提出を求め、それによって評価する。無届けの欠席が１／３を超える者は、評価の対象としない。なお、評価の際は「共通評価指標（1)」の③および⑤を重視する。

学際基礎科目・自然科学系	
現代の自然観ａ	**松原　郁哉**
前期・２単位	**＜登録条件＞**　通年(a, b)の登録が望ましい。

＜授業のテーマ＞　古典物理学とその発展にともなう自然観の変化を学ぶ。

＜到達目標＞　(1)科学的なものの見方を身につける。(2)ニュートンの力学等によって自然観がどのように変化したかを理解する。(3)ガリレオやニュートンとキリスト教の関わりを理解する。

＜授業の概要＞
主に力学と熱学の基礎とそれに関わる科学者について講義する。平行して簡単な実験を行う。

＜履修条件＞
特になし

＜授業計画＞

1. 力と運動(1)：速度と加速度
2. 力と運動(2)：慣性の法則
3. 力と運動(3)：運動の法則
4. ガリレオの科学と宗教
5. 力と運動(4)：落下運動と放物運動
6. 力と運動(5)：運動量と力積
7. 力と運動(6)：円運動と単振動
8. 力と運動(7)：万有引力
9. ニュートンの科学と宗教
10. 熱とエネルギー(1)：温度と熱膨張
11. 熱とエネルギー(2)：比熱と熱容量
12. 熱とエネルギー(3)：仕事と熱
13. エントロピー(1)：可逆過程と不可逆過程
14. エントロピー(2)：エントロピー増大則
15. 力学と熱学のまとめ

＜準備学習等の指示＞
特になし

＜テキスト＞
プリントを担当者が準備する。

＜参考書＞
授業の中で紹介する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
各授業の最後に書くレポートと期末に行う筆記試験で評価する。評価にあたっては、「共通評価指標（1)」記載項目中(2)、(4)を特に重視する。出席が２／３に満たない者は評価の対象としない。

学際基礎科目・自然科学系	
現代の自然観ｂ	**松原　郁哉**
後期・２単位	**＜登録条件＞**　通年(a, b)の登録が望ましい。

＜授業のテーマ＞現代物理学の考え方とその自然観を学ぶ。

＜到達目標＞(1)現代物理学の考え方の特徴を説明できる。(2)量子力学等によって自然観がどのように変化したかを理解する。(3)ファラデーやアインシュタインと宗教の関わりについて理解する。

＜授業の概要＞
主に、電磁気学、相対論、量子力学とそれに関わる科学者について講義する。並行して簡単な実験を行う。

＜履修条件＞
特になし

＜授業計画＞

1. 電気と磁気(1)：電流
2. 電気と磁気(2)：磁場
3. 電気と磁気(3)：電流と磁場
4. ファラデーの科学と宗教
5. 波動(1)：波の種類と特性
6. 波動(2)：波の重ね合わせと干渉
7. 波動(3)：音と音波
8. 相対論(1)：ガリレオの相対性原理と光速度
9. 相対論(2)：アインシュタインの特殊相対性理論
10. アインシュタインの科学と宗教
11. 量子論(1)：光の粒子性と電子の波動性
12. 量子論(2)：シュレディンガー方程式
13. 量子論(3)：ベルの不等式
14. 素粒子と宇宙
15. 電磁気、波動、相対論および量子論のまとめ

＜準備学習等の指示＞
特になし

＜テキスト＞
プリントを担当者が準備する。

＜参考書＞
授業の中で紹介する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
各授業の最後に書くレポートと期末に行う筆記試験で評価する。評価にあたっては、「共通評価指標（1)」記載項目中(2)、(4)を特に重視する。出席が２／３に満たない者は評価の対象としない。

学際基礎科目・情報科学系	
情報基礎	石部　公男
後期・２単位	＜登録条件＞　特にない
＜授業のテーマ＞　パソコンの基本的仕組みや OS および代表的アプリケーション利用についての知識と技術	
＜到達目標＞　学生がパソコンやタブレット等及びプロジェクターなどの情報機器を使いこなす基本的スキルの修得	
＜授業の概要＞情報についての理解を深め、パソコン及び関連領域の知識についての解説と PC リテラシーの修得	
＜履修条件＞　特にない	
＜授業計画＞ 1、情報と情報処理機器 2、コンピュータとインターネットの歴史 3、パソコン構造の概念 4、bit と byte 及びコードの概念 5、コンピュータ OS とアプリケーションの関係 6、アプリケーションソフトの利用　・・・ワードの利用 1 7、アプリケーションソフトの利用　・・・ワードの利用 2 8、アプリケーションソフトの利用　・・・エクセルの利用 1 9、アプリケーションソフトの利用　・・・エクセルの利用 2 10、アプリケーションソフトの利用　・・・エクセルの利用 3 11、アプリケーションソフトの利用　・・・エクセルの利用 4 12、アプリケーションソフトの利用　・・・エクセルの利用 5 13、アプリケーションソフトの利用　・・・パワーポイントの利用 1 14、アプリケーションソフトの利用　・・・パワーポイントの利用 2 15、アプリケーションソフトの利用　・・・パワーポイントの利用 3、及びその他のソフトの概要	
＜準備学習等の指示＞　タイピングの不得意の人はできるだけ練習をしておくこと	
＜テキスト＞　石部公男他著「情報リテラシー概論：コンピュータの利用とネットワーク環境」ヴェリタス書房	
＜参考書＞　石部公男他著「インターネット時代のプログラミング」ヴェリタス書房 ワード、エクセル、パワーポイントに関する解説書籍	
＜学生に対する評価（方法・基準）＞　スキルの程度に応じた平常点（70%）と提出物（30%）	

神学基礎科目Ａ	
キリスト教通論Ⅰ	須田　拓
前期・２単位	＜登録条件＞　学部１年生は必修

＜授業のテーマ＞
神学の場である教会生活について学び、神学を学ぶための土台を形成する。

＜到達目標＞
教会とは何か、信仰生活でなされていることにどのような意味があるのかについて、神学的に考えることができるようになる。

＜授業の概要＞
教会生活について学ぶと共に、議論することを通して、神学的に考えるとはどのようなことであるかを学ぶ。

＜履修条件＞
特になし

＜授業計画＞

第１回　　オリエンテーション
第２回　　「新しい伝道の時代へ」（はじめに）
第３回　　「教会生活の鍵」
第４回　　「伝道的教会と伝道的信仰」（前半）
第５回　　「伝道的教会と伝道的信仰」（後半）
第６回　　「洗礼」
第７回　　「聖餐」（前半）
第８回　　「聖餐」（後半）
第９回　　「信仰告白と信仰生活」
第１０回　「信仰告白と教会形成」
第１１回　「祈りの意味」
第１２回　「讃美歌の意味」（前半）
第１３回　「讃美歌の意味」（後半）
第１４回　「献金の意味」
第１５回　まとめ

＜準備学習等の指示＞
テキストの該当箇所をよく読んでおき、積極的に議論に参加すること。

＜テキスト＞
近藤勝彦『教会生活の要点』（第二版、東神大パンフレット 38、2010 年）　学生各自で用意すること

＜参考書＞
特にないが、授業の中で必要に応じて指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業での発表、議論への参加状況によって評価する。

神学基礎科目Ａ	
キリスト教通論Ⅱ	須田　拓
後期・２単位	＜登録条件＞学部１年生は必修

＜授業のテーマ＞
キリスト教信仰の基本的内容を確認しつつ、神学をする目的と意義とを理解する。

＜到達目標＞
信仰の各項目について、神学的課題を理解しつつ、説明できるようになる。

＜授業の概要＞
使徒信条および日本基督教団信仰告白の主要項目について、信仰内容を確認しつつ、どのような神学課題が考え得るか考察する。

＜履修条件＞
原則としてキリスト教通論Ⅰを履修していること。

＜授業計画＞

第１回　　オリエンテーション・啓示について
第２回　　聖書について
第３回　　創造について
第４回　　人間について
第５回　　キリストについて(1) 受肉
第６回　　キリストについて(2) 十字架と救済
第７回　　キリストについて(3) 復活
第８回　　聖霊について
第９回　　教会について
第１０回　終末について
第１１回　三位一体について
第１２回　選びについて
第１３回　義認と聖化について
第１４回　聖礼典について
第１５回　まとめ

＜準備学習等の指示＞

＜テキスト＞
授業において、必要に応じて指示する。

＜参考書＞
授業において、必要に応じて指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業への参加状況およびレポートによって評価する。
評価にあたっては、共通評価指標（1）記載項目中の①～③を特に重視する。

神学基礎科目Ａ	
聖書通論１旧約通論	田中　光
前期・２単位	＜登録条件＞　学部１年生

＜授業のテーマ＞
旧約聖書の基礎知識

＜到達目標＞
旧約聖書を実際に読みながら、それに関する基礎的な知識を身につける。また、旧約聖書が今日までにどのように研究され、理解されてきたかということについての基本的な知識をも身につける。

＜授業の概要＞
担当教員が、旧約聖書 39 巻についての総論的説明をし、適宜、実際に聖書テキストのよく知られた箇所を皆で読む。また、授業の中では、旧約聖書各巻にまつわる解釈の歴史に関する諸問題、また聖書学に関する諸問題についても最低限の説明をする。

＜履修条件＞
特になし

＜授業計画＞
１．オリエンテーション＆イントロダクション
２．カノン（正典）としての旧約聖書
３．モーセ五書①　創世記
４．モーセ五書②　出エジプト記
５．モーセ五書③　レビ記、民数記
６．モーセ五書④　申命記、五書のまとめ
７．申命記的歴史著作（ヨシュア記、士師記、サムエル記、列王記）
８．歴代誌的歴史著作（歴代誌、エズラ・ネヘミヤ記）
９．諸文学①　ヨブ記、箴言、コヘレトの言葉
１０．諸文学②　雅歌、詩編
１１．預言書①　イザヤ書
１２．預言書②　エレミヤ書、哀歌
１３．預言書③　エゼキエル書、ダニエル書
１４．預言書④　十二小預言書
１５．まとめと知識の再確認

＜準備学習等の指示＞
授業ごとに、該当する旧約聖書の箇所を自分で読むこと。また、指定されている参考書の説明を事前に読んでくること。

＜テキスト＞
聖書

＜参考書＞
S. ヘルマン、W.クライバー著（泉治典、山本尚子訳）『聖書ガイドブック:　聖書全巻の成立と内容』、教文館、2000年; B. S. Childs, *Introduction to the Old Testament as Scripture* (Philadelphia: Fortress Press, 1979); W. S. LaSor, et al, *Old Testament Survey: The Message, Form, and Background of the Old Testament*, 2nd ed. (Grand Rapids: Eerdmans, 1996).

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業への参加度と、期末の小レポートによって評価する。理由なく授業を三分の一以上欠席した者は、レポートを提出することができない。レポートの課題は夏休み前に提示する。

神学基礎科目Ａ	
聖書通論２旧約時代史	小友　聡
後期・２単位	＜登録条件＞

＜授業のテーマ＞
旧約時代史を概観し、旧約聖書の信仰の特質を考える。

＜到達目標＞
旧約の基本的知識を歴史という軸において通観することによって、旧約を立体的に捉える。

＜授業の概要＞
カナン定着時代からローマ時代に至る旧約の歴史を辿る。テキストを用い、受講者に発表していただく。

＜履修条件＞
学部１年に履修すること。

＜授業計画＞
１．オリエンテーション
２．旧約の歴史を学ぶということ
３．カナン定着以前の歴史
４．カナン定着
５．統一王国時代の前半（サウル、ダビデ）
６．統一王国時代の後半（ソロモン、王国分裂）
７．北王国の歴史（イエフ王朝まで）
８．北王国の歴史（イエフ王朝以後）
９．南王国の歴史（ヨシヤ王まで）
１０．　南王国の歴史（ヨシヤ王以後）
１１．　バビロン捕囚時代
１２．　ペルシア時代
１３．　ヘレニズム時代
１４．　ローマ時代
１５．　まとめ

＜準備学習等の指示＞
授業と並行して自分で旧約聖書を全部通読すること。

＜テキスト＞
樋口進『よくわかる旧約聖書の歴史』、日本キリスト教団出版局、1800 円。各自用意すること。

＜参考書＞
山我哲雄『旧約時代史・旧約篇』（岩波現代文庫）をも併用する。そのほかは授業中に指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
発表と筆記試験で評価する。共通評価指標（1）の①～③を重視する。

神学基礎科目Ａ	
聖書通論３新約通論・歴史	焼山　満里子
後期・２単位	＜登録条件＞

＜授業のテーマ＞
新約聖書 27 文書を概観する。

＜到達目標＞
新約聖書への理解を深め、新約神学への関心を高めより専門的な学習に備える。

＜授業の概要＞
新約聖書 27 文書の背景、テーマ、研究史を概観し、新約聖書への理解を深める。

＜履修条件＞
一年次必修

＜授業計画＞
１．　クラス紹介
２．　パウロの手紙総論、テサロニケの信徒への手紙一、二
３．　コリントの信徒への手紙一
４．　コリントの信徒への手紙二
５．　ガラテヤの信徒への手紙
６．　ローマの信徒への手紙
７．　　同上
８．　フィリピの信徒への手紙、フィレモンへの手紙
９．　コロサイ、エフェソの信徒への手紙、ヘブライ人への手紙
１０．　マルコによる福音書
１１．　マタイによる福音書
１２．　ルカによる福音書、使徒言行録
１３．　ヨハネ福音書
１４．　ヨハネの黙示録
１５．　総括

＜準備学習等の指示＞
各文書を事前に読んでくること

＜テキスト＞
佐藤研『聖書時代史新約篇』岩波現代文庫、2003 年
松永希久夫『歴史の中のイエス像』日本放送出版協会、1989 年（中間ブックレポート）

＜参考書＞
佐竹明『使徒パウロ』新版、新教出版社、2008 年

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
出席状況、授業参加、中間、期末の課題を総合的に評価する

神学基礎科目Ｂ	
神学通論	**神代　真砂実**
前期・２単位	**＜登録条件＞　学部２年生と３年次編入生は必修**

＜授業のテーマ＞　神学とはどのような学問であるか、どのようになされてきたのか、どのような思考を求められているのかを学ぶ。

＜到達目標＞　①神学と教会との関係、②神学の歴史、③神学の思考のかたちをそれぞれ理解することを通して、伝道者として神学を学ぶ姿勢を身に着ける。

＜授業の概要＞　テーマに掲げた内容について、さらには、神学の学問領域全体の概観を講義していく。

＜履修条件＞　学部２年生以上であること。

＜授業計画＞

１．オリエンテーション

序――この授業の目的と課題

第１部　キリスト者と神学者

Ⅰ．霊的な務め・召命

２．Ⅱ．神学と教会奉仕の準備

Ⅲ．神学と信仰の従順

３．第２部　キリスト教神学

Ⅰ．「神学」という言葉の意味

Ⅱ．キリスト教神学の従来の意味

４．Ⅲ．啓蒙主義以降の神学的思考の変化

５．Ⅳ．近代神学（1）――シュライエルマッハーの神学の概要

６．Ⅳ．近代神学（2）――シュライエルマッハーの神学への評価

７．Ⅴ．近代神学の歩み

８．Ⅵ．新たな展開（1）――「近代神学」の「失敗」

９．Ⅵ．新たな展開（2）――カール・バルトおよび「新しい神学」

10．Ⅵ．新たな展開（3）――神の言葉の神学

11．Ⅶ．神学と教会

12．Ⅷ．神学の「学問的」性格（1）――「学問的神学」とは

13．Ⅷ．神学の「学問的」性格（2）――神学と教会

14．Ⅸ．神学諸科の分類

15．まとめ

＜準備学習等の指示＞　ノートをきちんととること。

＜テキスト＞　特になし。

＜参考書＞　神代・川島・西原・深井・森本、『神学とキリスト教学』（キリスト新聞社、2009 年）；フロマートカ、『神学入門』、平野清美訳（新教出版社、2012 年）。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞　学期中の小課題および期末のレポートの総合による。評価にあたっては、共通評価指標（1）の①～④の内容を重視する。

外国語科目必修	
英語ＩＡａ	田中　光
前期・１単位	＜登録条件＞　学部１年生は必修

＜授業のテーマ＞
英文法

＜到達目標＞
基礎的英語力の向上

＜授業の概要＞
基礎的な文法の知識を習得するための学びを、テキストを用いて行う。各授業の最初では、簡単なウォーミング・アップ（英語の聖書を読む）を行う。

＜履修条件＞
特になし

＜授業計画＞
第１回　オリエンテーション、to 不定詞
第２回　to なし不定詞
第３回　分詞
第４回　動名詞
第５回　動名詞と不定詞
第６回　時制
第７回　未来時の表現
第８回　進行形
第９回　完了形
第 10 回　態
第 11 回　仮定法（基礎）
第 12 回　仮定法（条件文その他）
第 13 回　比較
第 14 回　否定
第 15 回　名詞

＜準備学習等の指示＞
復習をしっかりとやること。

＜テキスト＞
Toshinori Tomishige, *A Communicative Grammar of English* (Nan'un-do).

＜参考書＞
英語の聖書（できれば New International Version）があれば望ましい。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
毎回の練習問題の達成度、授業への参加度・貢献度による。

外国語科目必修	
英語ＩＡｂ	田中　光
後期・１単位	＜登録条件＞　学部１年生は必修

＜授業のテーマ＞
英文法

＜到達目標＞
基礎的英語力の向上

＜授業の概要＞
基礎的な文法の知識を習得するための学びを、テキストを用いて行う。各授業の最初では、簡単なウォーミング・アップ（英語の聖書を読む）を行う。

＜履修条件＞
特になし

＜授業計画＞
第１回　代名詞（基礎）
第２回　代名詞（形式主語、慣用表現など）
第３回　形容詞
第４回　冠詞
第５回　数量詞
第６回　副詞
第７回　動詞
第８回　法助動詞（will, shall, would, should）
第９回　法助動詞（can, may, must その他）
第 10 回　場所の前置詞
第 11 回　時間の前置詞
第 12 回　その他の前置詞
第 13 回　接続詞
第 14 回　関係代名詞
第 15 回　関係副詞

＜準備学習等の指示＞
復習をしっかりとやること。

＜テキスト＞
Toshinori Tomishige, *A Communicative Grammar of English* (Nan'un-do).

＜参考書＞
英語の聖書（できれば New International Version）があれば望ましい。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
毎回の練習問題の達成度、授業への参加度・貢献度による。

外国語科目必修	
英語ＩＢａ	須田　拓
前期・１単位	＜登録条件＞　特になし

＜授業のテーマ＞
初歩的な神学的文献を読むことができるように、英語読解力を養成する。

＜到達目標＞
英語の神学用語に慣れ、初歩的な神学的文献が読めるようになること。

＜授業の概要＞
英語でなされた説教を読むことで、基本的な神学用語に慣れると共に、英語の読解力を養成する。

＜履修条件＞
特になし

＜授業計画＞

第１回　　オリエンテーション
第２回　　テキスト講読 Death and the Resurrection pp.101-102
第３回　　テキスト講読 Death and the Resurrection pp.103-104
第４回　　テキスト講読 Death and the Resurrection pp.104-105
第５回　　テキスト講読 Death and the Resurrection pp.106-107
第６回　　テキスト講読 The Resurrection and the Ascension pp.139-140
第７回　　テキスト講読 The Resurrection and the Ascension pp.141-142
第８回　　テキスト講読 The Resurrection and the Ascension pp.143-144
第９回　　テキスト講読 Life and Spirit pp.121-122
第１０回　テキスト講読 Life and Spirit pp.123-124
第１１回　テキスト講読 Life and Spirit pp.125-126
第１２回　テキスト講読 The Trinity and Worship pp.127-128
第１３回　テキスト講読 The Trinity and Worship pp.129-130
第１４回　テキスト講読 The Trinity and Worship pp.131-132
第１５回　まとめ

＜準備学習等の指示＞
テキストの該当箇所を、わからない単語等を辞書で調べつつ、よく読んでおくこと。

＜テキスト＞
Colin E. Gunton, *The Theologian as Preacher*, London and New York: T&T Clark, 2007
テキストは担当者が用意する。

＜参考書＞
授業において、必要に応じて指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業への参加状況及び小テストで評価する。

外国語科目必修	
英語ＩＢｂ	須田　拓
後期・１単位	＜登録条件＞　特になし

＜授業のテーマ＞
初歩的な神学的文献を読むことができるように、英語読解力を養成する。

＜到達目標＞
英語の神学用語に慣れ、初歩的な神学的文献を読むことができるようになる。

＜授業の概要＞
英語の神学的文章に触れることで、神学書を読むための英語読解力を養成する。

＜履修条件＞
特になし

＜授業計画＞

第１回　　オリエンテーション
第２回　　テキスト講読 pp.60-61
第３回　　テキスト講読 pp.61-62
第４回　　テキスト講読 pp.63-64
第５回　　テキスト講読 pp.64-65
第６回　　テキスト講読 pp.66-67
第７回　　テキスト講読 pp.68-69
第８回　　中間総括
第９回　　テキスト講読 pp.70-71
第１０回　テキスト講読 pp.72-73
第１１回　テキスト講読 pp.74-75
第１２回　テキスト講読 pp.76-77
第１３回　テキスト講読 pp.78-79
第１４回　テキスト講読 pp.80-81
第１５回　まとめ

＜準備学習等の指示＞
テキストの該当箇所を、わからない単語等を辞書で調べつつ、よく読んでおくこと。

＜テキスト＞
Alistair McGrath, *Faith and Creeds* (Christian Belief for Everyone), London: SPCK, 2013 テキストは担当者が用意する。

＜参考書＞
授業において、必要に応じて指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業への参加状況及ぶ小テストで評価する。

外国語科目必修	
ドイツ語ＩＡａ（1,2）（初級）	長山　道
前期・２単位	＜登録条件＞　学部１年生は必修。ドイツ語 IAb と通年で登録することが望ましい。

＜授業のテーマ＞　ドイツ語初級文法

＜到達目標＞　ドイツ語の初級文法を身につけ、読みたいテキストを、辞書と文法書を参照しながら何とか読めるようになる。

＜授業の概要＞　ドイツ語初級文法の解説、練習問題。

＜履修条件＞　ドイツ語未習であることが望ましい。

＜授業計画＞
1　オリエンテーション、アルファベート、発音、基数詞
2　動詞の現在人称変化
3　定冠詞、不定冠詞
4　複数形
5　不規則動詞
6　定冠詞類、不定冠詞類
7　否定文
8　命令形
9　人称代名詞
10　前置詞
11　前置詞と定冠詞の融合
12　話法の助動詞、未来形
13　分離動詞、非分離動詞
14　形容詞
15　序数詞
16　再帰代名詞、再帰動詞
17　接続詞
18　es の用法、zu 不定詞
19　比較級
20　最上級
21　三基本形
22　過去形
23　現在完了形
24　過去完了形
25　受動文
26　分詞
27　関係代名詞
28　関係副詞
29　接続法
30　総括

＜準備学習等の指示＞　課された練習問題を必ず解いてくること。初回に指示する独和辞典と単語カードを、第２回以降持参すること。

＜テキスト＞　柴田隆他『ヴィッテンベルクでドイツ語・文法』同学社、2015 年。学生各自で購入すること。

＜参考書＞　中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧『改訂版必携ドイツ文法総まとめ』白水社、[15]2013 年。
『クラウン独和辞典』三省堂、[5]2014 年。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞　学期末に筆記試験を課す。

外国語科目必修	
ドイツ語ＩＡｂ（1,2）（初級）	長山　道
後期・２単位	＜登録条件＞　学部１年生は必修。

＜授業のテーマ＞　初級テキスト講読

＜到達目標＞　平易なテキストを読み、初級文法を定着させる。

＜授業の概要＞　テキストの和訳。文法の復習、練習問題を適宜行う。

＜履修条件＞　初級文法を一とおり終えていること。

＜授業計画＞

1　オリエンテーション
2　Von einem Bauern
3　Von einem Advokaten
4　Von einer hübschen Frau
5　Von einem Ehebrecher, der wie ein Schwein grunzte
6　Von dem Testament eines Kranken
7　Von einem, der im Ehebruch ergriffen ward
8　Von einem Mägdlein
9　Von einem Edelmann und einem Maler zu Augsburg
10　Der verlorene Esel
11　Urteil am Jüngsten Tag
12　Wett
13　Ein Mann und eine Frau lebten ewig im Streit miteinander
14　Zweimal zahlen
15　Eines Bauern Sohn begehrt Geld von seinem Vater
16　Eine Köchin versalzt alle Suppen
17　Die rußigen Kinder
18　Von einem Schwaben, der das Leberlein gefressen
19　Von dem Narren im Sack
20　Namensänderung
21　Guter Rat
22　Eine Bitte
23　Ein Schaffhausener Barbier
24　Eine quecke Lüge
25　Ein Einäugiger heiratet
26　Ein Mönch predigt
27　Übermütige Wette
28　Auch eine Totenklage
29　Sanftmut eines Weibes
30　総括

＜準備学習等の指示＞　必ず予習してくること。独和辞典、単語カードを持参すること。

＜テキスト＞　森昌弘、Schwänke aus der Reformationszeit（宗教改革期の笑い）　同学社、1988 年。学生各自で入手すること。

＜参考書＞　必要に応じて指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞　学期末に筆記試験を課す。

外国語科目必修	
ドイツ語ＩＢａ（ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ）	福嶋　揚
前期・１単位	＜登録条件＞　通年(a,b)の登録が望ましい。

＜授業のテーマ＞
神学生にとって有意義な、ドイツ語による「キリスト教的コミュニケーション」を学ぶ。

＜到達目標＞
プロテスタンティズムの伝統に基づき、現代も用いられる生きた日常ドイツ語の表現を用いる力を習得する。

＜授業の概要＞
様々なテキスト、音声教材を用いて、重要なドイツ語表現を習得する。また平易なドイツ語テキストを併せて読むことにしたい。

＜履修条件＞
学部 2 年に履修。

＜授業計画＞

1. 主の祈り、ニカイア信条、使徒信条
2. 十戒その他の重要な戒め
3. 詩編に基づく祈り
4. 聖書に基づく賛美の祈り
5. 子供と共に祈る
6. 日常の中の祈り
7. 日曜日から土曜日までの日ごとの祈り
8. その他の様々な場面での祈り
9. ローズンゲン(日々の聖句集)の用い方
10. カテキズム(ルター小教理問答)
11. カテキズム(ハイデルベルク信仰問答より、序論と第一部)
12. カテキズム(ハイデルベルク信仰問答より、第二部前半)
13. カテキズム(ハイデルベルク信仰問答より、第二部後半)
14. カテキズム(ハイデルベルク信仰問答より、第三部前半)
15. カテキズム(ハイデルベルク信仰問答より、第三部後半)

＜準備学習等の指示＞
毎回十分な予習復習が必要。独和辞典を持参。ルター訳ドイツ語聖書も各自持参することが望ましい。

＜テキスト＞
ドイツ語訳聖書、ドイツ語のローズンゲン、ドイツ語賛美歌集等。必要に応じてコピーを配布。

＜参考書＞
必要に応じて配布する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
十分な出席、積極的な授業参加、期末試験によって評価する。

外国語科目必修	
ドイツ語ＩＢｂ（ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ）	福嶋　揚
後期・１単位	＜登録条件＞　通年(a,b)の登録が望ましい。

＜授業のテーマ＞
前期に引き続いて、現代も用いられる生きたドイツ語のキリスト教的な表現を出来るだけ幅広く学ぶ。

＜到達目標＞
プロテスタンティズムの伝統に基づき、現代も用いられる生きた日常ドイツ語の表現を用いる力を習得する。

＜授業の概要＞
前期に引き続いて、様々なテキストや音声教材を用いて、重要なドイツ語表現を習得する。

＜履修条件＞
学部 2 年に履修。

＜授業計画＞

1. 礼拝の言葉
2. アンダハトの言葉(家庭で)
3. アンダハトの言葉(教会暦にあわせて)
4. 賛美歌のテキストに学ぶ(アドベント)
5. 賛美歌のテキストに学ぶ(クリスマス)
6. 賛美歌のテキストに学ぶ(受難節)
7. 賛美歌のテキストに学ぶ(復活祭)
8. 賛美歌のテキストに学ぶ(昇天祭)
9. 賛美歌のテキストに学ぶ(ペンテコステ)
10. 賛美歌のテキストに学ぶ(その他の様々な季節、テーマ)
11. 現代キリスト教音楽のテキスト(歌集 Feiert Jesus から)
12. 現代キリスト教音楽のテキスト(歌集 In Love with Jesus から)
13. ラジオ講演を聞く(カール・バルト)
14. 礼拝説教を聞く(カール・バルト)
15. 礼拝説教を聞く(現代の説教例から)

＜準備学習等の指示＞
毎回十分な予習復習が必要。独和辞典を持参。ルター訳ドイツ語聖書も各自持参することが望ましい。

＜テキスト＞
必要に応じて配布する。

＜参考書＞
必要に応じて配布する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
十分な出席、積極的な参加、および期末試験によって評価する。

外国語科目選択	
英語Ⅱａ	高砂　民宣
前期・１単位	＜登録条件＞　学期ごとの登録可

＜授業のテーマ＞　ヨハネ福音書に関して英文で記された注解書を読み、内容について考察する。

＜到達目標＞　①英文の注解書に慣れ親しむ。②英文の読解能力を高める。③神学用語や慣用表現を習得する。

＜授業の概要＞　英文の注解書を読みつつ、神学用語等についても解説をし、福音書記者の意図について考察する。

＜履修条件＞　おもに学部２年生が対象。

＜授業計画＞

第１回：Unit 4: John 6:1～8:11　Jesus Himself as Sign
　　Feeding of the Five Thousand and Walking on the Water (6:1-24)　pp. 41-43
第２回：　　〃
第３回：Bread from Heaven (6:22-59)　pp.44-45
第４回：　　〃
第５回：The Responses to Jesus (6:60-71)　p.46
第６回：The Tabernacles Controversies (7:1-52)　p.47-49
第７回：　　〃
第８回：The Adulterous Woman (7:53-8:11)　p.50
第９回：Questions for Reflection　p.51

第 10 回：Unit 5: John 8:31-9:41　Growing Opposition to Jesus　p.52
第 11 回：Jesus and Abraham (8:31-59)　pp.53-54
第 12 回：The Man Born Blind (9:1-41)　p.55
第 13 回：　A. The Healing Itself　p.56
第 14 回：　B. The Relationship between Sin and Disability　pp.57-58
第 15 回：　　〃

＜準備学習等の指示＞　毎回該当する箇所を予習して出席すること。

＜テキスト＞　Matson, Mark A., John., Westminster John Knox Press, Louisville, Kentucky, 2002.　（担当者が用意する）

＜参考書＞　授業の中で教員が指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞　出席および授業参加状況、期末試験など、総合的に評価する。
※出席が２／３に満たない者は、評価の対象としない。

外国語科目選択	
英語Ⅱｂ	高砂　民宣
後期・１単位	＜登録条件＞　学期ごとの登録可

＜授業のテーマ＞　ヨハネ福音書に関して英文で記された注解書を読み、内容について考察する。

＜到達目標＞　①英文の注解書に慣れ親しむ。②英文の読解能力を高める。③神学用語や慣用表現を習得する。

＜授業の概要＞　英文の注解書を読みつつ、神学用語等についても解説をし、福音書記者の意図について考察する。

＜履修条件＞　おもに学部２年生が対象。

＜授業計画＞

第１回：Unit 5: John 8:31-9:41　Growing Opposition to Jesus
The Man Born Blind (9:1-41)
C. The Examination of the Healed Man　pp.58-59
第２回：　〃
第３回：　D. The Response of Faith　p.60
第４回：　E. The Historical setting of the Story　p.61
第５回：The Growing Conflict between “the Jews” and Jesus　p.62
第６回：Questions for Reflection　p.63

第７回：Unit 6: John 10-11
I Am the Good Shepherd; I Am the Resurrection and the Life　pp.64-65
第８回：The True Shepherd and the Thief (10:1-6)　pp.65-66
第９回：Jesus as the Gate (10:7-10)　p.67
第10回：Jesus as the Good Shepherd (10:11-21)　pp.68-70
第11回：　〃
第12回：At the Feast of the Dedication (10:22-42)　pp.71-72
第13回：Jesus and Lazarus　p.73
第14回：The Final Judgment of “the Jews” (11:45-57)　pp.74-75
第15回：Questions for Reflection　p.76

＜準備学習等の指示＞　毎回該当する箇所を予習して出席すること。

＜テキスト＞　Matson, Mark A., John., Westminster John Knox Press, Louisville, Kentucky, 2002.　（担当者が用意する）

＜参考書＞　授業の中で教員が指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞　出席および授業参加状況、期末試験など、総合的に評価する。
※出席が２／３に満たない者は、評価の対象としない。

外国語科目選択	
英語実践Ｉ	ウェイン・ジャンセン
前期・１単位	＜登録条件＞

＜授業のテーマ＞
日常的に英語を使うこと。

＜到達目標＞
英語を実際に使うようになることによって、より深く理解できるようになり、英語で学ぶこともよりできるようになる。

＜授業の概要＞
英語を実際に使うことによって簡単な会話ができるようになり、そして、英語で書かれた文献をより容易に用いることができること。ビデオを使用することもある。

＜履修条件＞

＜授業計画＞

英語による比較的平易な英会話教材を用いることで、英語の話す力と読解力を養う。

第１回　About Myself
第２回　About Myself
第３回　About My Family
第４回　About My Family
第５回　About Time
第６回　About Time
第７回　About Transportation
第８回　About Transportation
第９回　About Meeting Others
第１０回　About Meeting Others
第１１回　About Drinks
第１２回　About Drinks
第１３回　About Snacks
弟１４回　About Snacks
第１５回　Overall Review

必要に応じて、英会話の力を養う。

＜準備学習等の指示＞
休まないこと。会話に参加すること。

＜テキスト＞
必要に応じて教室で配布する。

＜参考書＞

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
出席、ディスカッションの参加、ミニ・テストなど。
出席が２／３に満たない者は評価の対象としない。

外国語科目選択	
英語実践Ⅱ	ウェイン・ジャンセン
後期・１単位	＜登録条件＞

＜授業のテーマ＞
日常的に英語を使うこと。

＜到達目標＞
英語を実際に使うようになることによって、より深く理解できるようになり、英語で学ぶこともよりできるようになる。

＜授業の概要＞
英語を実際に使うことによって簡単な会話ができるようになり、そして、英語で書かれた文献をより容易に用いることができること。ビデオを使用することもある。

＜履修条件＞

＜授業計画＞

英語による比較的平易な英会話教材を用いることで、英語の話す力と読解力を養う。

第１回　About The Weather
第２回　About The Weather
第３回　About Money
第４回　About Money
第５回　About Shopping
第６回　About Shopping
第７回　About Birthdays
第８回　About Birthdays
第９回　About Clothes
第１０回　About Clothes
第１１回　About Directions
第１２回　About Directions
第１３回　About Home
弟１４回　About Home
第１５回　Overall Review

必要に応じて、英会話の力を養う。

＜準備学習等の指示＞
休まないこと。会話に参加すること。

＜テキスト＞
必要に応じて教室で配布する。

＜参考書＞

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
出席、ディスカッションの参加、ミニ・テストなど。
出席が２／３に満たない者は評価の対象としない。

外国語科目選択	
ドイツ語Ⅱａ	福嶋　揚
前期・１単位	＜登録条件＞

＜授業のテーマ＞
ドイツ語神学書の講読

＜到達目標＞
この科目を履修することで、学生は神学的な諸概念と思考法に慣れ親しみ、自主的にドイツ語で神学書を読む力を習得する。

＜授業の概要＞
現代ドイツの代表的な福音主義神学者の一人であるエバーハルト・ユンゲルの著書『キリスト教信仰の中心としての、神なき者の義認についての福音』を原書で読む。ユンゲルは本書において、二十世紀のエキュメニズムの動向をふまえつつ、宗教改革の伝統である信仰義認論の本質を解説する。西洋思想の「正義」論の系譜の中で、キリスト教的な「正義」論としての義認論が持つ独自の現代的意義を明らかにした、必読の書である。
前期の前半においては、信仰義認論をめぐる聖書その他の基本的なテキストをドイツ語で読み、準備をととのえる。それからユンゲルの著書をドイツ語で丁寧に読み進めていきたい。

＜履修条件＞
初級文法を習得していること。

＜授業計画＞
1. 序論　ユンゲルの著書への入門など
2. 信仰義認論をめぐる、ドイツ語聖書テキスト(1)　旧約聖書より
3. 信仰義認論をめぐる、ドイツ語聖書テキスト(2)　新約聖書より
4. 信仰義認論をめぐる、宗教改革時代のテキスト(1)　ルター
5. 信仰義認論をめぐる、宗教改革時代のテキスト(2)　メランヒトン
6. 信仰義認論をめぐる、宗教改革時代のテキスト(2)　和協信条
7. 信仰義認論をめぐる、宗教改革時代のテキスト(3)　トリエント公会議の教令
8. 信仰義認論をめぐる、現代のテキスト(1)　カール・バルト
9. 信仰義認論をめぐる、現代のテキスト(2)　ハンス・キュンク
10. Jüngel, 1-4. （頁数。以下同様。）
11. 4-11.
12. 43-48.
13. 48-52.
14. 52-58.
15. 58-65.

＜準備学習等の指示＞
毎回十分な予習復習が必要。独和辞典を持参。ルター訳ドイツ語聖書も各自持参することが望ましい。

＜テキスト＞
Eberhard Jüngel, Das Evangelium von der Rechtfertigung des Gottlosen als Zentrum des christlichen Glaubens, Tübingen ^{3}1999. その他のテキストは必要に応じて配布する。

＜参考書＞
特に指定しないが、必要に応じて参考資料を配布する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
十分な出席、毎回の十分な予習復習を前提として、筆記試験によって評価する。

外国語科目選択	
ドイツ語Ⅱｂ	福嶋　揚
後期・１単位	＜登録条件＞

＜授業のテーマ＞
ドイツ語神学書の講読

＜到達目標＞
神学的な諸概念と思考法を習得する。

＜授業の概要＞
ドイツ語Ⅱa(前期)を参照。前期に続いて、現代ドイツの代表的な福音主義神学者の一人であるエバーハルト・ユンゲルの著書『キリスト教信仰の中心としての、神なき者の義認についての福音』を原書で読み進める。

＜履修条件＞
初級文法を習得していること。

＜授業計画＞

1. Jüngel, 65-74.(頁数。以下同様。)
2. 75-86.
3. 86-97.
4. 97-106.
5. 106-114.
6. 114-125.
7. 126-143.
8. 143-155.
9. 156-169.
10. 169-180.
11. 180-190.
12. 191-201.
13. 201-209.
14. 210-220.
15. 221-234.

＜準備学習等の指示＞
毎回十分な予習復習が必要。独和辞典を持参。ルター訳ドイツ語聖書も各自持参することが望ましい。

＜テキスト＞
Eberhard Jüngel, Das Evangelium von der Rechtfertigung des Gottlosen als Zentrum des christlichen Glaubens, Tübingen ^{3}1999. その他の資料は必要に応じて配布する。

＜参考書＞
特に指定しないが、必要に応じて参考資料を配布する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
十分な出席、毎回の十分な予習復習を前提として、筆記試験によって評価する。

保健体育科目	
体育Ⅰ	高橋　伸
前期・２単位	＜登録条件＞

＜授業のテーマ＞
自らの日常生活における諸活動を有意義に過ごすための各自の体力維持・向上の運動方法と、生活を豊かにするためのレクリエーション活動の基礎的な知識、態度，技術を身につけるとともに、卒業後の活動に役立てるための指導方法も学ぶ。

＜到達目標＞
1. 体を動かす楽しさと喜びを再認識するとともに、各自の体力に合わせた健康体力作りの理論と実践を習得する。
2. 宣教・教会活動などに役立つレクリエーション活動の理論と各種活動、及び指導法の習得を目指す。

＜授業の概要＞
主に身体活動を中心とした実技を行う。
各自の体力に合わせたエアロビクス運動、他者と楽しむニュースポーツなどのレクリエーション活動を実践し、合わせて具体的な指導方法を学ぶ

＜履修条件＞
各自の参加できるレベル、方法で行います。

＜授業計画＞
1. オリエンテーション （クラスの進め方、体育の考え方、レクリエーションの考え方）
2. 準備体操、ストレッチ、ウォーキングの理論と実際１ （準備体操の意義、正しい体操の方法、ウォーキングフォーム、脈拍を使った体力、運動強度の見極め方）
3. 準備体操、ストレッチ、ウォーキングの理論と実際２ （同上）
4. ソフトボール１ ＊東神大運動会に向けて （用具の知識と安全、キャッチボール・バッティングの基本）
5. ソフトボール２（試合へ向けての基礎技術／キャッチ＆スロー、ピッチング、連係プレー）
6. ソフトボール３（基本ルールの理解、模擬試合）
7. ニュースポーツ１（フライングディスク／投げ方の基本、取り方の基本、ディスクゴルフの楽しみ方）
8. ニュースポーツ２（ガガ、ユニホック／ルール・安全管理の理解、指導法、実習）
9. ニュースポーツ３（クッブ／ルール・安全管理の理解、指導法、実習）
10. ニュースポーツ４（ペタンク／ルール・安全管理の理解、指導法、実習）
11. ニュースポーツ５（クロッケー／ルール・安全管理の理解、指導法、実習）
12. キャンプ・クラフト１（火起し／用具の理解、火起こしの基本、お湯沸かし）
13. キャンプ・クラフト２（飯盒炊飯／飯盒炊飯の方法、焚き火の管理法）
14. レクリエーション指導法（集団をリードするための具体的指導法）
15. まとめ

＜準備学習等の指示＞
1. 運動できる服装、又は活動相応の服装で参加すること。
2. 体調に留意すること。

＜テキスト＞
適時、講師が準備する

＜参考書＞

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
1. 全授業回数の２／３以上出席したものに対して評価を行う。
2. 技術（60%）・知識（20%）・態度（20%）について評価する。

保健体育科目	
体育Ⅱ	岡田　光弘
後期・２単位	＜登録条件＞

＜授業のテーマ＞
身体を動かす楽しさと喜びを認識し、各自の体力に合わせながら、生涯スポーツの基礎を獲得します。

＜到達目標＞
庭球と卓球について、練習法、ルール、試合に必要な技術について学ぶことで、その基礎を獲得します。

＜授業の概要＞
庭球、卓球の試合が行えるようになるために、以下の事柄について学びます。
１．ゲームを構成するすべての技術について、その技術を習得します。
２．ゲームを構成するすべてのルールを習得します。
３．学期が終わったあとも自己学習ができるように練習の仕方を学びます。

＜履修条件＞
特にありません。

＜授業計画＞
１．オリエンテーション
２．コオーディネーション・トレーニングの理論と実践
３．テニスのルールと用具の歴史（以下、テニス）
４．フォアハンドボレー、バックハンドボレー
５．フォアハンド・ストローク
（トップスピン打法の習得）
６．バックハンド・ストローク．ミニゲーム
７．サービスとレシーブ
８．ダブルス・ゲーム
９．シングルス・ゲームとテニスのまとめ
10. ピンポン、卓球のルールと用具の歴史（以下、卓球）
11. バックハンド・ショート（またはハーフボレー）
（ドライブサーブとカットサーブ）
12. フォアハンド・ストローク
（ドライブ打法の習得）
13. 多球練習による分習法、制限付きゲームによる全習法
14. シングルスとダブルスの試合
15. まとめ

＜準備学習等の指示＞
１．運動に適した服装に着替えること。
２．それぞれの種目に適した靴を用意すること。
３．体調に十分留意すること。

＜テキスト＞
井上俊・菊幸一（編）『よくわかるスポーツ文化論』ミネルヴァ書房（購入の必要はありません。）

＜参考書＞橋本純一（編）『現代メディアスポーツ論』世界思想社（購入の必要はありません。）
その他、授業でお伝えします。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
技能：60%　時間ごとの観察により評価します。
知識：20%　実際にゲームを進行していく知識を評価します。
態度：20%　運動に適した服装などの用意ができているか、授業に積極的に参加しているかを評価します。出席が 2/3 に満たない場合、成績評価の対象にしません。

専門教育科目必修・聖書神学関係	
旧約聖書神学Ⅰ	小友　聡
前期・２単位	＜登録条件＞

＜授業のテーマ＞
旧約緒論の総論と五書問題について考察する。

＜到達目標＞
旧約聖書とは何かという根本問題に歴史的文献学的見地から取り組み、旧約聖書の全体像をつかむ。

＜授業の概要＞
正典としての旧約聖書の成立過程と歴史的背景、さらに本文伝承の歴史を概観する。そのあと、五書批判の諸問題について考察する。

＜履修条件＞
旧約聖書神学ⅡおよびⅢより先に受講することが望ましい。

＜授業計画＞
１．オリエンテーション
２．旧約聖書入門
３．近代の旧約聖書学研究史（ヴェルハウゼンまで）
４．近代の旧約聖書学研究史（ヴェルハウゼン以降）
５．正典とは何か
６．旧約正典形成史
７．正典と本文
８．本文伝承の歴史
９．古代語訳概観
１０．　モーセ五書批判（総論）
１１．　モーセ五書批判（研究史の諸問題）
１２．　ヤーウィスト
１３．　エローヒスト
１４．　祭司文書
１５．　まとめ

＜準備学習等の指示＞
旧約聖書を通読していることを前提としている。教科書をよく読むこと。聖書学の学術的な議論に戸惑う人がいるかも知れないが、旧約聖書を理解したいという意欲を持って授業を聴き、わからないことは質問すること。

＜テキスト＞
左近淑（大住編）『旧約聖書緒論講義』教文館（2004 年増補版）を各自購入すること。

＜参考書＞
レジュメと文献表を授業中に配布する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
学期末に筆記試験をして評価する。出席重視。また、共通評価指標（1）の①～③を重視する。

専門教育科目必修・聖書神学関係	
旧約聖書神学Ⅱ	小友　聡
後期・２単位	＜登録条件＞

＜授業のテーマ＞
旧約聖書の申命記および申命記的歴史、歴代誌的歴史、また詩文学を旧約学的に考察する。

＜到達目標＞
五書と申命記的歴史の繋がり、また申命記的歴史と歴代誌的歴史の緊張関係を理解し、さらに詩文学の全体像を把握する。

＜授業の概要＞
申命記および申命記的歴史、歴代誌的歴史、詩文学について、テキストに従って概観する。

＜履修条件＞
旧約聖書神学Ⅰを履修済みであることが望ましい。

＜授業計画＞
１．オリエンテーション
２．申命記的歴史（総論およびM.ノート以前の研究史）
３．申命記的歴史（M.ノート以降の研究史）
４．申命記的歴史（各論）
５．申命記（総論）
６．申命記（各論）
７．歴代誌的歴史（総論）
８．歴代誌的歴史（各論）
９．知恵文学（総論）
１０．　知恵文学（ヨブ記）
１１．　知恵文学（箴言、コヘレトの言葉）
１２．　詩編（総論）
１３．　詩編（各論）
１４．　その他の詩文学
１５．　まとめ

＜準備学習等の指示＞
教科書をよく読むこと。旧約聖書をよく理解したいという意欲をもって講義に臨むこと。

＜テキスト＞
左近淑（大住編）『旧約聖書緒論講義』教文館（2004年増補版）を各自用意すること。

＜参考書＞
レジュメと文献表を授業中に配布する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
学期末に筆記試験をし、評価する。出席重視。また共通評価指標（1）の①～③を重視する。

専門教育科目必修・聖書神学関係	
旧約聖書神学Ⅲ	大住　雄一
前期・２単位	＜登録条件＞

＜授業のテーマ＞
預言者概論および「預言書」各書の緒論的解説を行う。

＜到達目標＞
預言者とは何かという全ての人が持つ関心に答えられるようになる。

＜授業の概要＞　預言「者」とは何か、預言「書」とは何か、預言者はどのようにして他に比べるものない神の言葉の伝承を生み出したのか、「預言」とは何か、これらの諸問題を明らかにする。また、近年盛んに議論されている預言書の形成の問題を考察する。

＜履修条件＞
旧約聖書神学Ⅰ履修済みまたは並行して履修中であること

＜授業計画＞

1. 「預言者」という書物群（正典第二部）と預言書：　課題の設定とレジュメの配付
2. 預言者とは何か：　Ｇ・フォン・ラートおよび彼以降の預言者論を概観する。
3. 預言者と伝承史：フォン・ラートらの預言者論を可能にした伝承史的テキスト理解を説明する
4. イザヤ書と８世紀の預言者イザヤ：イザヤ書が描き出す８世紀の預言者イザヤの預言の特質を論じる。しかし、イザヤ書から預言者イザヤの姿は、どの程度読み取れるのであろうか。
5. 「第二イザヤ」とイザヤ書成立史：「第二イザヤ」とは何者か。なぜイザヤ書の中にあるのか
6. 預言と黙示：イザヤ書の編集の枠組みとなっている黙示文学的テキストを概観する。
7. 十二小預言書：十二人の預言者の預言と物語を概観する。
8. アモスとホセア：十二預言者のうち8世紀北王国の二人の預言者の預言の特質を考察する。
9. エレミヤ書の構造：エレミヤ書の文学的構造を理解する。原マソラ本文のエレミヤ書と七十人訳エレミヤ書の構造の違いを考察する。
10. 預言と預言者物語：預言書に含まれる預言者物語の意味を論じる。また、「前の預言者」（歴史書）と「後の預言者」（いわゆる預言書）の関係を考察する。なぜそこにヨナ書があるのか
11. 申命記史家の預言書編集：エレミヤ書は申命記史家の編集になると言われる。学説を吟味する
12. エゼキエルの幻：エゼキエル書の構造と、その背後にある歴史を理解する。
13. 審判預言と救済預言：エルサレムの破壊と預言者の使信の転回をあとづける。
14. ダニエル書：黙示文学の特徴を解説する。
15. まとめおよび知識の再確認

＜準備学習等の指示＞
聖書の預言書および歴史書（とくにその）預言者物語を熟読すること。

＜テキスト＞
左近淑『旧約聖書緒論講義』（２００４年増補版）教文館。各自で準備すること。

＜参考書＞
授業中にレジュメを配付し、その中で参考文献を指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞　授業への参加と期末の小レポートによって成績をつける。理由なく授業の三分の一以上欠席した者は、レポートを提出することができない。レポートの課題は、夏休み前に提示する。

専門教育科目必修・聖書神学関係	
旧約聖書釈義ａ	大住　雄一
前期・２単位	＜登録条件＞　当年度中にａｂとも登録すること

＜授業のテーマ＞　旧約聖書に基づく説教を目指して釈義の課題を考え、また、その思想と手法を学ぶ。

＜到達目標＞　釈義の手法の概略を知る

＜授業の概要＞　言語学的、文献学的、文学的、歴史学的な方法と知見を土台とする釈義が、どのようにして神学的営為となりうるか、神学的に考えるとはどのようなことであり、釈義においてどのように位置づけられるかを論じる。また神学辞典や注解書など、第二次文献の使い方を解説する。今回は人間の創造テキストに方法をあてはめてみる。

＜履修条件＞　旧約聖書神学Ｉを履修済みであることが望ましい。

＜授業計画＞

１．　釈義の道具立て
２．　聖書翻訳の問題
３．　注解書ガイド
４．　本文批判　何を知らねばならないか
５．　文献批判　合理的分析
６．　伝承史　もともとどういうテキストであったか
７．　編集史　文献発展の歴史
８．　様式史の思想的基盤と問題点
９．　テキストの最終形態
１０．歴史的文脈と釈義
１１．テキストの神学的考察
１２．正典批判と影響史　今日までどう理解されてきたか
１３．釈義の手順
１４．釈義と説教
１５．まとめと知識の再確認

＜準備学習等の指示＞

＜テキスト＞　普段出席している教会で使っている日本語訳聖書。また、授業内容のレジュメを毎回配付する。

＜参考書＞　第一回授業の中で釈義方法論の教科書とその入手方法を紹介する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞　授業への参加と期末の小レポートによって成績をつける。理由なく授業の三分の一以上欠席した者は、小レポートを提出することができない。レポートの課題は、夏休み前に提示する。

専門教育科目必修・聖書神学関係	
旧約聖書釈義ｂ	大住　雄一
後期・２単位	＜登録条件＞　当年度中にａｂとも登録すること

＜授業のテーマ＞　旧約聖書に基づく説教を目指して釈義の課題を考え、また、その思想と手法を学ぶ。bでは特に実際に手続きを自分で用いてみる。

＜到達目標＞　釈義の手法を身に付ける

＜授業の概要＞　旧約聖書釈義ａで学ぶ釈義方法を、具体的な旧約テキストに適用して釈義を試みる。本年度は人間の創造に関するテキストを読む。

＜履修条件＞　本年度に旧約聖書釈義ａを履修したことを前提とするが、ｂのみの履修可。

＜授業計画＞

１．　人間の創造に関するテキストはどこにあるか
２．　諸翻訳の読み比べ
３．　注解書ガイド
４．　本文
５．　テキストの形
６．　伝承史
７．　宗教史
８．　旧約における人間の創造
９．　ユダヤ教における人間の創造
１０．釈義レポートの書き方
１１．創造物語の歴史
１２．人間創造の神学
１３．正典批判
１４．釈義と説教
１５．まとめ

＜準備学習等の指示＞　授業は演習形式で行うので、各回の授業に先立って、扱われる方法をテキストに適用してみること。

＜テキスト＞　普段出席している教会で使っている日本語訳聖書。また、授業内容のレジュメを毎回配付する。

＜参考書＞

＜学生に対する評価（方法・基準）＞　授業最終日に人間の創造に関する釈義レポートを提出する。理由なく授業の三分の一以上欠席した者は、レポートを提出することができない。

専門教育科目必修・聖書神学関係	
新約聖書神学Ⅰ	中野　実
前期・２単位	＜登録条件＞　新約聖書神学Ⅱと通年で履修すること

＜授業のテーマ＞　新約聖書神学の諸課題について学ぶ。

＜到達目標＞　新約聖書を学問の対象とすることの神学的意義が理解できるようになる。

＜授業の概要＞　新約聖書神学Ⅰでは、おもに講義を通して、まず序論として、聖書とは何か？聖書学、聖書神学とは何か？聖書正典とは何か、などについて学ぶ。次に各論に入り、福音書研究の基礎的事柄について学ぶ。

＜履修条件＞おもに学部２-３年生のクラス

＜授業計画＞
①聖書を学問的に読むとは？　聖書とは何か？
②聖書を学問的に読むとは？　聖書を学問の対象にするとは？
③聖書を学問的に読むとは？　聖書学とは？聖書の批判的研究。
④聖書を学問的に読むとは？　近代、現代聖書学のルーツとその展開
⑤新約聖書とは何か？　新約聖書という名称について
⑥新約聖書とは何か？　旧約聖書について
⑦新約聖書とは何か？　新約聖書の文学、初期キリスト教文学としての新約聖書
⑧新約聖書とは何か？　正典としての新約聖書①正典とは？
⑨新約聖書とは何か？　正典としての新約聖書②正典化プロセス
⑩新約聖書とは何か？　新約聖書の写本について
⑪新約聖書とは何か？　新約聖書の時代史について
⑫福音書とは何か？　　福音と福音書
⑬福音書文学：　福音書は伝記か？
⑭共観福音書問題１　共観福音書とは何か？それらをめぐる諸仮説
⑮共観福音書問題２　マルコ優先説、二資料仮説、Q 資料などについて

＜準備学習等の指示＞聖書を日頃からよく読むこと。

＜テキスト＞旧・新約聖書。旧約聖書も必ず持ってくる事。

＜参考書＞樋口、中野『聖書学用語辞典』日本基督教団出版局、およびタイセン『新約聖書：歴史、文学、宗教』教文館。その他、必要に応じてクラスで指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞出席が三分の二に達しない場合は、原則として評価の対象にしない。評価は、期末のレポート（および小テスト）に基づいてなされる。レポートにおいては、課題やテクストを正しく理解しつつ、主体的な思考がなされ、全体として論理的であるかどうかが評価の指標となる。

専門教育科目必修・聖書神学関係	
新約聖書神学Ⅱ	中野　実
後期・２単位	＜登録条件＞　新約聖書神学Ｉと通年で履修すること
＜授業のテーマ＞　新約聖書を学問的に読むことの神学的意義を理解しつつ、福音書について学ぶ。	
＜到達目標＞　新約聖書正典に含まれる四福音書に関する学問的基礎知識を身につけることができる	
＜授業の概要＞　新約聖書神学Ｉでの学びを前提にしつつ、四福音書それぞれが有している歴史的、文学的、神学的特徴について学ぶ。	
＜履修条件＞おもに学部２-３年生のためのクラス	
＜授業計画＞ ⑴マルコ福音書：緒論的歴史的諸問題 ⑵マルコ福音書：文学的諸問題　構成、物語展開 ⑶マルコ福音書：神学的諸問題 ⑷マタイ福音書：緒論的歴史的諸問題 ⑸マタイ福音書：文学的諸問題　構成、物語展開 ⑹マタイ福音書：神学的諸問題 ⑺ルカ福音書：緒論的歴史的諸問題 ⑻ルカ福音書：文学的諸問題　構成、物語展開 ⑼ルカ福音書：神学的諸問題 ⑽ヨハネ福音書：歴史的諸問題 ⑾ヨハネ福音書：文学的諸問題　構成、物語展開 ⑿ヨハネ福音書：神学的諸問題 ⒀ルカ文書について ⒁ヨハネ文書について ⒂まとめ	
＜準備学習等の指示＞新約聖書神学Ｉの項目を参照	
＜テキスト＞旧、新約聖書。ギリシャ語新約聖書も持参すること。	
＜参考書＞必要に応じて、クラスで指示する。	
＜学生に対する評価（方法・基準）＞出席が三分の二に達しない場合、原則として評価の対象にしない。評価は、期末レポートを中心になされる。レポートにおいては、課題やテクストに対する適切な理解に基づきつつ、主体的な思考がなされ、全体として論理的であることが求められる。	

専門教育科目必修・聖書神学関係	
新約聖書神学Ⅲ	焼山　満里子
前期・２単位	＜登録条件＞

＜授業のテーマ＞
使徒パウロの伝道活動と神学をコリントの信徒への手紙一を通して学ぶ。

＜到達目標＞
コリントの信徒への手紙一が書かれた状況、パウロの神学を理解する。

＜授業の概要＞
パウロの活動、書簡の概観の後、コリントの信徒への手紙一を毎回一章ずつ読み、検討する。

＜履修条件＞
ギリシャ語履修ずみのこと。

＜授業計画＞
１．パウロの伝道旅行　使徒言行録とパウロ真正書簡の比較による概観
２．コリント一１章、１６章　手紙の始まりと終わり
３．コリント一２章、十字架の言葉
４．コリント一３章、霊の人と肉の人
５．コリント一４章、パウロの使命
６．コリント一５章、６章、教会内での紛争の処理
７．コリント一７章、結婚について
８．コリント一８章、偶像に供えられた肉
９．コリント一９章、使徒の権利とパウロの権利放棄
１０．コリント一１０章、悪霊とは
１１．コリント一１１章、礼拝における秩序の問題
１２．コリント一１２章、１３章、愛
１３．コリント一１４章、異言と預言
１４．コリント一１５章、キリストの復活
１５．総括

＜準備学習等の指示＞

＜テキスト＞
R.B.ヘイズ『現代聖書注解　コリントの信徒への手紙一』日本基督教団出版局、２００１年
各自準備のこと。

＜参考書＞
適宜紹介する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
出席状況、授業参加、課題、期末試験を総合的に評価する。

専門教育科目必修・聖書神学関係	
新約聖書釈義ａ	中野　実
前期・２単位	＜登録条件＞　学部４年生を中心としたクラス
＜授業のテーマ＞　新約聖書に関する学問的な釈義の方法について学ぶクラス	
＜到達目標＞　このクラスを通して、釈義の方法論を身につけ、より主体的に新約聖書の解釈にたずさわることができるようになる。	
＜授業の概要＞　前期は、概論ののち、フィー『新約聖書の釈義』を主として用いつつ、釈義の方法について学ぶ。	
＜履修条件＞ギリシア語初級文法をすでに履修済みであること。通年で履修する事。	
＜授業計画＞ ① オリエンテーション：クラスの目標と課題について ② 釈義とは何か？　釈義の具体的課題について ③ フィー『新約聖書の釈義』序論および第１章「釈義の全過程についての手引き」 ④ ステップ１　歴史的脈略の概観 ⑤ ステップ２　章句の区切りの確認 ⑥ ステップ３　段落・ペリコーペの熟知：説明 ⑦ ステップ３　段落・ペリコーペの熟知：実践：暫定訳の作成、他の翻訳との比較など。 ⑧ ステップ４　文の構成と統語的関係の分析：説明 ⑨ ステップ４　文の構成と統語的関係の分析：実践、文の流れの図式化 ⑩ ステップ５　本文の確定：本文批評の説明 ⑪ ステップ５　本文批評の実際 ⑫ ステップ６　文法の分析：説明 ⑬ ステップ６　文法の分析：実践 ⑭ 説教のための釈義とは？ ⑮ 説教の準備について 顔ぶれや進み具合などを勘案しながら、スケジュールを変更する場合もある。	
＜準備学習等の指示＞釈義は、ただ講義を聴いているだけでは身に付かない。実際に自分で試みて見る事が必要。釈義はある意味で職人芸。苦労して身につけるしか道はない！	
＜テキスト＞ゴードン・フィー『新約聖書の釈義』教文館、1998 年、および中野ほか『新約聖書解釈の手引き』日本基督教団出版局、2016 年をクラスの初回までに各自で購入しておくこと。ギリシャ語の新約聖書も毎回持参すること。	
＜参考書＞必要に応じて、クラスで指示する。	
＜学生に対する評価（方法・基準）＞出席が三分の二に達していない場合、原則として評価の対象としない。毎回のクラスでの姿勢、期末のレポートなどによって総合的に評価する。レポートにおいては、テクストに対する適切な理解に基づきつつ、主体的な思考がなされ、全体として論理的であるかどうかが評価の指標となる。	

専門教育科目必修・聖書神学関係	
新約聖書釈義ｂ	中野　実
後期・２単位	＜登録条件＞学部４年生を中心としたクラス
＜授業のテーマ＞新約聖書の釈義の方法と実践を学ぶ。	
＜到達目標＞このクラスを通して、基本的な釈義の技術を身につけ、より主体的に新約聖書の解釈にたずさわることができるようになる。	
＜授業の概要＞後期も引き続き、フィーの教科書を用いるが、『新約聖書解釈の手引き』などを通して、新しい方法論についても学びを進める。	
＜履修条件＞ギリシア語初級文法をすでに履修済みであること。通年で履修する事。	
＜授業計画＞ ① フィーの教科書の続き、ステップ７　語の分析：その説明 ② ステップ７　語の分析：その実践 ③ ステップ８　歴史的文化的背景の探求：その説明と文献紹介 ④ ステップ８　歴史的文化的背景の探求：具体例 ⑤ 書簡の釈義、ステップ９　書簡文学の特徴と形式について ⑥ 書簡の釈義、ステップ９　書簡文学の修辞的分析について ⑦ 書簡の釈義、ステップ 10　小区分、読者、キーワードなどの分析 ⑧ 書簡の釈義、ステップ 11　文学的コンテクストの確定 ⑨ 福音書の釈義、福音書テクストの性質、福音書をめぐる諸仮説 ⑩ 福音書の釈義、ステップ９　福音書の文学類型 ⑪ 福音書の釈義、ステップ９　福音書の分テク的様式、伝承 ⑫ 福音書の釈義、ステップ 10　共観表の用い方 ⑬ 福音書の釈義、ステップ 11　史的イエス研究 ⑭ 歴史批評学的方法論の限界、それを乗り越える方法論。 ⑮ まとめ	
＜準備学習等の指示＞新約釈義 a の同項目を参照。	
＜テキスト＞新約釈義 a の同項目を参照。	
＜参考書＞必要に応じて、クラスで指示する。	
＜学生に対する評価（方法・基準）＞出席が三分の二に達していない場合、原則として評価の対象としない。毎回のクラスでの姿勢、期末のレポートなどによって総合的に評価する。レポートにおいては、テクストに対する適切な理解に基づきつつ、主体的な思考がなされ、全体として論理的であるかどうかが評価の指標となる。	

専門教育科目必修・聖書神学関係	
ギリシャ語Ⅰ（1,2）	三永　旨従
前期・４単位	＜登録条件＞

＜授業のテーマ＞　聖書のギリシャ語文法の基礎的理解を身につけ、その基本的読解能力を養う。

＜到達目標＞　ギリシャ語新約聖書を正確に読む力をつける。基本的ギリシャ語文法、およびコンコーダンス・辞書の使い方を修得する。

＜授業の概要＞　前期は基本的文法を中心とする。
新約聖書のギリシャ語理解のために、テキストに則して基本文型を身につけていく。目的はあくまで新約文書群の読解にあるために練習問題は、ギリシャ語の日本語訳に限定する。授業の合間に、少しずつ、ギリシャ語新約聖書に慣れることも同時に行なう。前後期を通じ、特に原典で新約文書群を読むことの具体的な意義、及びそこから生じる違いについても学んでゆく。

＜履修条件＞　ギリシャ語Ⅱと通年で履修する。

＜授業計画＞
1.　新約聖書を原典で読むことについて
2.　写本について
3.　新約聖書のギリシャ語の特色
4.　文字と発音
5.　単語と音節
6.　ギリシャ語のアクセントの特色
7.　句読点
8.　ギリシャ語動詞の活用について
9.　動詞活用－現在形
10.　ギリシャ語名詞の特色
11.　名詞の変化－男性形
12.　名詞の変化－女性形
13.　ギリシャ語前置詞の特色
14.　前置詞の用法
15.　受動形能動態について
16.　中動形動詞のいろいろ
17.　動詞活用－中動形
18.　動詞活用－受動形
19.　ギリシャ語人称代名詞の特質
20.　人称代名詞
21.　未完了形動詞の特質
22.　動詞活用－未完了形
23.　ギリシャ語の過去時制について
24.　アオリスト形動詞の特質
25.　動詞活用－第一アオリスト形
26.　動詞活用－第二アオリスト形
27.　ギリシャ語の形容詞の特質
28.　ギリシャ語の形容詞の性、数、格
29.　形容詞の変化－男性形
30.　形容詞の変化－女性形

＜準備学習等の指示＞　暗記するべき課題の多い教科である故、予習、復習とは別に各自さらにはグループ学習で反復練習する時間を取ることが望ましい。

＜テキスト＞
・J. G. メイチェン著　田辺滋訳『新約聖書　ギリシャ語原典入門』新生宣教団（学生各自で用意する。）
・“A CONCORDANCE TO THE GREEK TESTAMENT: According to the Texts of Westcott and Hort, Tishendorf and the English Revisers” W.F. Moulton, A.S. Geden, T&T Clark. Ltd.（各自で購入することを強く勧める。

＜参考書＞　なし

＜学生に対する評価（方法・基準）＞　各授業時間に行なわれる練習問題、及び学期末の試験（口頭試問）

専門教育科目必修・聖書神学関係	
ギリシャ語Ⅱ	三永　旨従
後期・２単位	＜登録条件＞

＜授業のテーマ＞　新約聖書原典を辞書その他の手段を用いながらも一人で読解できる能力を養う。

＜到達目標＞　ギリシャ語文法の理解を深め、読解能力を習得する。

＜授業の概要＞　ギリシャ語Ⅰに続けて基礎文法を終わらせ、具体的な新約文書群の読解に入る。
各授業毎にギリシャ語特有の文法体系に由来する特徴を具体的にテキストにあたって学ぶ。基本文法を終わらせると同時に、実際に新約文書群を読む際に、大きな障害となり易い点（分詞構文、不定詞構文等）にも焦点をあてる。上記の留意点を考慮しつつ、より平易な新約文書を実際に読んでいく。

＜履修条件＞　ギリシャ語Ⅰの履修

＜授業計画＞

1.　動詞の変化－分詞
2.　母音融合動詞
3.　流音動詞
4.　動詞の変化－不定法
5.　動詞の変化－希求法
6.　疑問代名詞
7.　関係代名詞
8.　動詞の変化－命令法
9.　特殊形動詞
10.　冠詞とその用法
11.　動詞の変化－接続法
12.　数詞
13.　独立属格の構文
14.　不定詞+名詞の目的格の構文
15.分詞の述語的用法

＜準備学習等の指示＞　暗記するべき課題の多い教科である故、予習、復習とは別に各自反復練習する時間を取ることが望ましい。

＜テキスト＞
・J. G. メイチェン著　田辺滋訳『新約聖書　ギリシャ語原典入門』新生宣教団（学生各自で用意する。）
・Nestle-Aland, NOVUM TESTAMENTUM GRAECE または UBS 版 Greek New Testament（学生各自で用意する。）
・“A CONCORDANCE TO THE GREEK TESTAMENT: According to the Texts of Westcott and Hort, Tishendorf and the English Revisers” W.F. Moulton, A.S. Geden, T&T Clark. Ltd.（各自で購入することを強く勧める。）

＜参考書＞　なし

＜学生に対する評価（方法・基準）＞　各授業時間に行なわれる練習問題、及び学期末の試験（筆記試験）

専門教育科目必修・組織神学関係	
組織神学Ｉａ	神代　真砂実
前期・２単位	＜登録条件＞　組織神学Ｉｂと通年で履修すること

＜授業のテーマ＞　組織神学の一分野としての教義学の概説として、教義学とは何かについて、さらには、キリスト教の信仰内容の体系を学ぶ。

＜到達目標＞　①教義学という学問の特徴、②教義学上の基本的な用語とその意味、③キリスト教の信仰内容の体系的な姿を理解する。

＜授業の概要＞　伝統的な順序を踏まえて、教義学の内容を順に講義する。前期は序説から創造論まで。

＜履修条件＞　学部２年生以上であること。

＜授業計画＞

第一回　Ｉ．序説

　　１．神学と教会

第二回　２．伝統の問題

第三回　３．教義学的な語り①象徴

第四回　３．教義学的な語り②神話

第五回　４．聖書の権威①正典として

第六回　４．聖書の権威②神の言葉として

第七回　５．啓示

第八回　６．キリスト教と諸宗教

第九回　Ⅱ．神論

　　７．三位一体

第十回　８．神の本質と属性

第十一回　９．選びの信仰

第十二回　Ⅲ．創造論

　　10．創造

第十三回　11．摂理

第十四回　12．人間

第十五回　前期のまとめ

＜準備学習等の指示＞　よくノートを取ること。

＜テキスト＞　特になし。

＜参考書＞　Ｈ・Ｇ・ペールマン、『現代教義学総説』、新版、蓮見和男訳（新教出版社）；Ａ・Ｅ・マクグラス、『キリスト教神学入門』、神代真砂実訳（教文館）。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞　学期中の小課題とレポートの総合による。評価にあたっては、共通評価指標（1）の①～④の内容を重視する。

専門教育科目必修・組織神学関係	
組織神学Ｉｂ	神代　真砂実
後期・２単位	＜登録条件＞　組織神学Ｉａと通年で履修すること。

＜授業のテーマ＞　前期と同じ。

＜到達目標＞　前期と同じ。

＜授業の概要＞　前期と同じ。後期は創造論の続きに始まり、終末論まで。

＜履修条件＞　学部２年生以上であること。

＜授業計画＞

第一回　Ⅲ．創造論（続き）
　　13．罪
第二回　14．悪の問題
第三回　Ⅳ．和解論
　　15．受肉①永遠と時間
第四回　15．受肉②両性論
第五回　16．十字架①必然性
第六回　16．十字架②意味
第七回　17．復活
第八回　18．救済論①義認
第九回　18．救済論②聖化
第十回　19．キリスト教的生活
第十一回　20．聖霊
第十二回　21．教会①キリストのからだ
第十三回　21．教会②教会の標識
第十四回　Ⅴ．終末論
　　22．終末
第十五回　後期のまとめ

＜準備学習等の指示＞　前期と同じ。

＜テキスト＞　前期と同じ。

＜参考書＞　前期と同じ。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞　学期中の小課題とレポートの総合による。評価にあたっては、共通評価指標（1）の①～④の内容を重視する。

専門教育科目必修・組織神学関係	
組織神学Ⅱａ	須田　拓
前期・２単位	＜登録条件＞

＜授業のテーマ＞
組織神学の中の倫理学について扱う。

＜到達目標＞
倫理学の基礎的な知識を身につけ、倫理学の諸課題について、信仰的・神学的に考えることができるようになる。

＜授業の概要＞
倫理学とは何か、倫理がどのような根拠によって、どのような方向性をもって考えられるべきであるのかを講義し、その上で、人格を形成する倫理学について検討する。

＜履修条件＞
組織神学Ⅰを履修済みか、並行して履修していること。

＜授業計画＞
第１回　　オリエンテーション
第２回　　倫理学とは何か
第３回　　組織神学における倫理学の位置
第４回　　倫理学の基礎づけ(1) 自然法による基礎づけの問題
第５回　　倫理学の基礎づけ(2) 啓示への基礎づけとその方法
第６回　　人間論と倫理
第７回　　終末論と倫理
第８回　　中間総括
第９回　　倫理学の方向性 主観的倫理と客観的倫理
第１０回　人格形成の倫理学(1) 概要
第１１回　人格形成の倫理学(2) 徳とその形成
第１２回　人格形成の倫理学(3) 習慣(habitus)とその形成の可能性
第１３回　人格形成の倫理学(4) 義務と責任
第１４回　人格形成の倫理学(5) 愛と勇気
第１５回　まとめ

＜準備学習等の指示＞

＜テキスト＞
特になし。授業の中で必要に応じて指示する。

＜参考書＞
授業において、必要に応じて指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業への参加状況およびレポートによって評価する。
評価にあたっては、共通評価指標（1）記載項目中の①，③，④を特に重視する。

専門教育科目必修・組織神学関係	
組織神学Ⅱｂ	須田　拓
後期・２単位	＜登録条件＞

＜授業のテーマ＞
組織神学の中の倫理学について扱う。

＜到達目標＞
倫理学の諸分野について、基礎的な知識を身につけ、信仰的・神学的に考えることができるようになる。

＜授業の概要＞
前記の内容を踏まえて、共同体論について、また文化を形成する倫理学について検討する。

＜履修条件＞
組織神学Ⅰを履修済みか、並行して履修していること。

＜授業計画＞
第１回　　オリエンテーション
第２回　　個人と共同体
第３回　　新しい共同体の倫理
第４回　　文化形成の倫理学(1) 概要
第５回　　文化形成の倫理学(2) 信仰と文化
第６回　　文化形成の倫理学(3) 近代世界の形成とプロテスタンティズム
第７回　　文化形成の倫理学(4) 近代的文化価値
第８回　　中間総括
第９回　　文化形成の倫理学(5) 「ポストモダン」とその問題
第１０回　文化形成の倫理学(6) 国家と社会
第１１回　文化形成の倫理学(7) 家庭
第１２回　文化形成の倫理学(8) 生命倫理
第１３回　文化形成の倫理学(9) 平和について
第１４回　倫理学の現代的課題
第１５回　まとめ

＜準備学習等の指示＞

＜テキスト＞
特になし。授業の中で、必要に応じて指示する。

＜参考書＞
授業の中で、必要に応じて指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業への参加状況及びレポートによって評価する。
評価にあたっては、共通評価指標（1）記載項目中の①，③，④を特に重視する。

専門教育科目必修・組織神学関係	
組織神学Ⅲａ	芳賀　力
前期・２単位	＜登録条件＞ 通年(a, b)の登録が望ましい。

＜授業のテーマ＞
弁証学とは、教会の信仰にしっかり立ち、福音の真理性を同時代に向かって明証する学問である。

＜到達目標＞
主として無神論、多神論、神義論の三大テーマを中心に、福音伝道に必要な基礎理論と考え方を身につける。

＜授業の概要＞
前期では信仰と理性、信仰と科学、無神論、宗教批判、世俗化論のテーマに取り組む。

＜履修条件＞
組織神学 I、II を履修していること。

＜授業計画＞
第１回：弁証学の課題と方法について、序論的な考察を行う。

第２回：福音と文化の関係について考察する。

第３回：信仰と理性の関係について考察する。

第４回：知解を求める信仰について考察する。

第５回：信仰と科学をめぐって、近代以降の見解を考察する。

第６回：信仰と科学をめぐって、T.F.トーランス、A.マクグラスの見解を考察する。

第７回：無神論の立場からなされた宗教批判を考察する。

第８回：神学的な立場からなされた有神論批判を考察する。

第９回：P.ティリッヒと H.R.ニーバーによる宗教批判を考察する。

第 10 回：カール・バルトの宗教批判を考察する。

第 11 回：ゴーガルテンとコックスの世俗化論を考察する。

第 12 回：T.ルックマンの世俗化論を考察する。

第 13 回：P.バーガーの世俗化論を考察する。

第 14 回：K.レーヴィット、H.ブルーメンベルク、D.リースマン、N.ボルツの近代化論を考察する。

第 15 回：これまでの議論を総括する。

＜準備学習等の指示＞　ノートを取って、よく復習しておくこと。

＜テキスト＞　芳賀力『神学の小径Ⅰ』教文館、2008 年。『神学の小径Ⅱ』2012 年。『神学の小径 III』2015 年。
希望者には著者割引で頒布する。

＜参考書＞　授業の中で指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞　出席を重視する。総括としてレポートをまとめてもらう。

専門教育科目必修・組織神学関係	
組織神学Ⅲｂ	芳賀　力
後期・２単位	＜登録条件＞通年(a, b)の登録が望ましい。

＜授業のテーマ＞
弁証学とは、教会の信仰にしっかり立ち、福音の真理性を同時代に向かって明証する学問である。

＜到達目標＞
主として無神論、多神論、神義論の三大テーマを中心に、福音伝道に必要な基礎理論と考え方を身につける。

＜授業の概要＞
後期では宗教的多元主義、多元的社会における共同体論、神義論的諸問題のテーマに取り組む。

＜履修条件＞
組織神学 I、II を履修していること。

＜授業計画＞
第１回：J.ヒック、D.ベイリー、G.ランプらの宗教的多元主義を考察する。

第２回：宗教的排他主義、包括主義、多元主義を考察する。

第３回：宗教の共通主題と多元主義、原理と人格の問題を考察する。

第４回：多元主義と A.マッキンタイアーの共同体論を考察する。

第５回：多元主義と R.ベラーの共同体論を考察する。

第６回：多元主義と M.ウォルツァーの共同体論を考察する。

第７回：G.ローフィンクと使徒的共同体論を考察する。

第８回：パラクレーシスと使徒的共同体論を考察する。

第９回：神義論的問いを神学的に取り扱う方法論を考察する。

第 10 回：悪の認識をめぐる問題を考察する。

第 11 回：悪の由来をめぐる問題を考察する。

第 12 回：悪の理由をめぐる問題を考察する。

第 13 回：悪の克服 I をめぐって、義認論と復活論を考察する。

第 14 回：悪の克服 II をめぐって、聖霊論と終末論を考察する。

第 15 回：これまでの議論を総括する。

＜準備学習等の指示＞ ノートを取って、よく復習しておくこと。

＜テキスト＞拙著『使徒的共同体』教文館、2004 年。『自然、歴史そして神義論』日本基督教団出版局、1991 年。

＜参考書＞　授業の中で指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞　出席を重視する。総括としてレポートをまとめてもらう。

専門教育科目必修・歴史神学関係	
教会史Ⅰ	本城　仰太
前期・２単位	＜登録条件＞　特になし

＜授業のテーマ＞　古代教会（教会のはじまりからアウグスティヌスの時代まで）の歴史と諸問題を学ぶ。

＜到達目標＞　①古代教会史の知識を身に着けるだけでなく、古代教会の歴史を整理して概観できる力を養う。
②歴史史料（一次史料、二次史料）を用いて、諸問題を論じる力を養う。

＜授業の概要＞　古代教会史を、毎回、一次史料と二次史料にあたりながら、テーマごとに講義する。

＜履修条件＞　特になし。

＜授業計画＞

１．　ガイダンス、教会のはじまりと地中海世界
２．　教会と国家：教会への迫害
３．　使徒教父たち
４．　弁証家たち
５．　正統と異端①：エイレナイオス
６．　正統と異端②：テルトゥリアヌスとキプリアヌス
７．　アレクサンドリア学派：クレメンスとオリゲネス
８．　コンスタンティヌス帝とキリスト教公認
９．　修道院運動
１０．キリスト論論争①：アレイオス主義とニカイア信条
１１．キリスト論論争②：アタナシオスとニカイア・コンスタンティノポリス信条
１２．カッパドキア三教父
１３．4～5 世紀の教会①：アンブロシウス、クリュソストモス、ヒエロニュモス
１４．4～5 世紀の教会②：アウグスティヌスとその神学
１５．総括

＜準備学習等の指示＞　ノートをとり、講義内容を自分で整理していくこと。世界史の知識の補足が必要な場合は、木下他『詳説世界史研究』（山川出版社）などを合わせて用いること。

＜テキスト＞　特に定めない。毎回プリントを配布する。

＜参考書＞　１．J.ゴンザレス『キリスト教史（上巻）』（新教出版社）　２．W.ウォーカー『キリスト教史①古代教会』（ヨルダン社）　３．ブロックス『古代教会史』（教文館）

＜学生に対する評価（方法・基準）＞　全講義の出席を前提とし、①期末試験　および　②レポートによって総合的に評価する。３分の１以上欠席した者は評価の対象としない。

専門教育科目必修・歴史神学関係	
教会史Ⅱ	棚村　重行
前期・２単位	＜登録条件＞　教会史他の諸科目と併せて履修する。

＜授業のテーマ＞　学生が、西欧中世史を学ぶことで、その後の教会の生活に残した歴史遺産を理解する。

＜到達目標＞　学生は、①教会史Ⅱにかかわる事件や神学思想、霊的生活の用語を覚える。②中世教会史と中世文明の関連意義を把握すること。③それにより、現代の教会生活や霊的生活への歴史的な意義も理解する。

＜授業の概要＞　学生は、レジメと資料プリントに基づく講義を通して、西欧中世教会史の流れと中世文明史の相関関係を理解する。併せて二冊の参考書を読み、理解を深める。

＜履修条件＞　学生は、教会史Ⅰ、Ⅲ、Ⅳおよび日本教会史も前後に履修して、理解を深めること。

＜授業計画＞

1. 序論　中世文明史と教会史との関連について。
2. 初期中世（１）　伝道と古代末期文明世界のキリスト教化の進展
3. 同上　（２）　初期中世における国家と教会の関係
4. 同上　（３）　霊的生活、とくにベネディクト修道会運動
5. 同上　（４）　教理神学の形成（啓示、聖書と伝統、救済、秘跡、教会論）
6. 盛期中世（１）　中世文明の転換点：グレゴリウス改革運動の原因とその意義
7. 同上（２）　国家と教会の関係の変革
8. 同上（３）　霊的生活、とくに新しい托鉢修道会運動の発生
9. 同上（４）　異端運動の発生とその意義
10. 同上（５）　教理神学の形成（a）（啓示、聖書と伝統、救済、秘跡、教会論）
11. 同上（６）　教理神学の形成（b）：トマス・アクィナスの神学思想
12. 後期中世（１）後期中世の文明と教会
13. 同上（２）　国家と教会の関係の逆転
14. 同上（３）　後期中世の神学と宗教改革神学の連続と非連続
15. まとめ

＜準備学習等の指示＞　講義をよく聴き、参考文献で予習し、授業中に質問すること。

＜テキスト＞　① 棚村重行 『現代人のための教理史ガイド』（教文館、200１年）　② 木下他 『詳説世界史研究増補・改訂版』（山川出版社）

＜参考書＞　授業中に個別的に指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞　①世界史用語についての小テストを行う。②期末筆記試験を行う。③到達目標で掲げた達成度で評価を与える。

専門教育科目必修・歴史神学関係	
教会史Ⅲ	本城　仰太
後期・２単位	＜登録条件＞　特になし

＜授業のテーマ＞　宗教改革期（改革前史、ルターの改革から各地の宗教改革まで）の歴史と諸問題を学ぶ。

＜到達目標＞　①宗教改革史の知識を身に着けるだけでなく、宗教改革の歴史を整理して概観できる力を養う。
②歴史史料（一次史料、二次史料）を用いて、諸問題を論じる力を養う。

＜授業の概要＞　宗教改革史を、毎回、一次史料と二次史料にあたりながら、テーマごとに講義する。

＜履修条件＞　特になし。

＜授業計画＞

１．　宗教改革前史①：教会改革の必要性
２．　宗教改革前史②：エラスムスと人文主義
３．　ドイツの改革①：改革者ルター
４．　ドイツの改革②：ルターの神学
５．　ドイツの改革③：ルター派教会の形成
６．　スイスの改革①：ツヴィングリ
７．　再洗礼派
８．　スイスの改革②：カルヴァンと改革派
９．　改革派教会の形成
１０．改革者たちの神学：聖餐論、洗礼論、教会論
１１．イングランドの改革
１２．スコットランドの改革
１３．諸信条・信仰告白・問答
１４．カトリック教会の改革
１５．総括

＜準備学習等の指示＞　ノートをとり、講義内容を自分で整理していくこと。

＜テキスト＞　特に定めない。毎回プリントを配布する。

＜参考書＞　１．J.ゴンザレス『キリスト教史（下巻）』（新教出版社）　２．出村彰『総説　キリスト教史２　宗教改革篇』（日本キリスト教団出版局）

＜学生に対する評価（方法・基準）＞　全講義の出席を前提とし、①期末試験　および　②レポートによって総合的に評価する。３分の１以上欠席した者は評価の対象としない。

専門教育科目必修・歴史神学関係	
教会史Ⅳ	棚村　重行
後期・２単位	＜登録条件＞　教会史の他の科目と併せ履修する。

＜授業のテーマ＞　近代・現代教会史の動向と諸問題を概観的に理解する。

＜到達目標＞　学生は、①教会史Ⅳの内容にかかわる基礎データと基本用語を覚える。②「近代性」という中心運動をめぐり、諸教会と諸国家、日本文明の諸変化を理解する。③近・現代文明の中の教会の実践的課題を考える。

＜授業の概要＞　学生は、参考書を授業に沿って読み、講義を通して総合的にこの時代の意義を理解する。

＜履修条件＞　教会史Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを必ず履修し、また日本教会史もなるべく履修して教会史の総合把握をめざす。

＜授業計画＞

1, 序論（１）　「近代性」という文明変革運動の挑戦と世界諸文明の関連を学ぶ。
2. 同上（２）　講義の展開で重要な神学、哲学、芸術などに関わる概念を整理する：例　啓蒙主義、ロマン主義、信仰復興運動、その他。
3. 盛期近代（1600-1850：１）フランスにおける宗教と社会（ローマ・カトリック教会）
4. 同上（２）　イギリスにおける宗教と社会（英国国教会とピューリタン、メソジスト教会）
5. 同上（３）　ドイツ、オーストリアにおける宗教と社会（カトリック教会、ルター派教会）
6. 同上（４）　イタリアにおける宗教と社会（カトリック教会）
7. 同上（５）　北米における宗教と社会（ピューリタン、カトリック、その他）
8. 後期近代（1850-1910：１）ドイツ帝国における宗教と社会（ルター派、改革派、カトリック、その他）
9. 同上（２）　フランス、イタリアにおける宗教と社会（カトリック教会）
10. 同上（３）　イギリスにおける宗教と社会（英国国教会、ピューリタン、メソジストその他）
11. 同上（４）　アメリカ合衆国における宗教と社会（カトリック、プロテスタント諸派）
12. 現代（1910-現在：１）現代カトリック教会の刷新と動向
13. 同上（２）　現代のプロテスタント諸教会の動向（ヨーロッパ、北米の諸教会）
14. 同上（３）　現代のプロテスタント教会の神学思想と日本の教会
15. 　まとめ

＜準備学習等の指示＞　テキストをあらかじめ読むこと。基本用語を覚えること。

＜テキスト＞　①棚村重行　『現代人のための教理史ガイド』（教文館、2001）　②小笠原政敏　『教会史　下』（オンデマンド）　③『詳説世界史研究　増補・改訂版』（山川出版社）

＜参考書＞　授業中に指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞　学生は授業中に講義を聴き、あらかじめテクストを読む。成績は、基本用語の理解度と、学期末の筆記試験を総合し、到達目標①～③にそって、各自の成長を判定する。

専門教育科目必修・歴史神学関係	
教会史Ｖ	小室　尚子
後期・２単位	＜登録条件＞

＜授業のテーマ＞
　日本におけるキリスト教宣教開始（１６世紀）以来の、教会形成の歴史を学ぶ。

＜到達目標＞
異教社会での多くの試練を越えて、教会がどのように形成、展開されて来たのかを学ぶことによって、現代において宣教に遣わされる者が、歴史的視点に立って、何を受け継ぎ、どのように伝えて行くのかの指針を見出すことを目標とする。

＜授業の概要＞
　キリシタンの時代から現代までの教会史／教会と日本の伝統的思想との緊張関係／現代日本において教会が抱える問題と課題（日本基督教団の問題と課題を中心に）と３つのテーマによって講義を進める。

＜履修条件＞
　条件ではないが、宗教史 II を履修済であることが望ましい。

＜授業計画＞
第１回　序論：教会史を学ぶ意義
第２回　キリスト教伝来前史
第３回　キリシタンの歴史（1549～1873）
第４回　キリシタンの教会形成
第５回　プロテスタント・キリスト教の移入と展開
第６回　教会の形成期（1859～1912）
第７回　（１）日本基督公会時代とその後
第８回　（２）福音主義の理解
第９回　（３）教育史における貢献と弾圧
第１０回　聖書の翻訳
第１１回　教会の発展期（1912～1926）
第１２回　教会の試練と解放（1926～現代）
第１３回（１）戦時下、日本基督教団の成立
第１４回（２）戦後から現代へ：日本基督教団が抱えた問題
第１５回（３）日本の教会の課題

＜準備学習等の指示＞

＜テキスト＞
鵜沼裕子『史料による日本キリスト教史』聖学院大学出版会
『日本キリスト教史年表[改訂版]』日本キリスト教歴史大事典編集委員会編　教文館

＜参考書＞
初回講義において文献表配布とともに紹介する

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
レポート（期末に提出）によって評価する。
授業への参加意識

専門教育科目必修・歴史神学関係	
宗教史Ⅰ	棚村　重行
前期・２単位	＜登録条件＞宗教史Ⅱと併せて履修するのが望ましい。

＜授業のテーマ＞　歴史神学の一分野である世界宗教史の研究方法・理論を学び、世界の諸宗教と文明生活の基礎知識を習得する。

＜到達目標＞　学生は、①世界宗教史研究の基礎理論を学ぶ。②世界諸宗教の霊的生活を、各文明史の背景を踏まえ相関的に理解する思考を養う。③日本と世界伝道のために、宗教史の知識をどう活用したらよいかを考える。

＜授業の概要＞　学生は配布されたレジメと資料のコピーをもとに講義を聴く。並行して指定されたテクストを読み、講義の内容理解を深める。

＜履修条件＞　なるべく宗教史Ⅱを併せて履修し、日本と世界宗教の双方の知識を深めること。

＜授業計画＞

1. 序論（１）　宗教史を学ぶ意義について
2. 同上（２）　諸宗教の研究の歴史と研究の方法論の形成の歩み。本講義で採用するワック/エリアーデ複合理論について
3. 同上（３）　文明史的考察を踏まえた世界諸宗教理解の意義
4. 同上（４）　国家と宗教との関係に関する諸理論の紹介と意義
5. 世界の唯一神教（１）　ユダヤ教の霊的生活と文明のなかの歴史
6. 同上（２）　キリスト教（a）　正教会とローマ・カトリック教会の霊的生活と文明のなかの歴史
7. 同上（３）　キリスト教（b）　プロテスタント諸教会の霊的生活と文明のなかの歴史（ルター派教会；改革派教会；聖公会とメソジスト教会）
8. 同上（４）　イスラム教　　イスラム教の諸派の霊的生活と文明のなかの歴史
9. 世界の多神教（１）　ヒンドゥー教の霊的生活と文明のなかの歴史
10. 同上（２）　南アジア、東アジアの仏教の霊的生活と文明のなかの歴史
11. 同上（３）　中国の諸宗教の霊的生活と文明のなかの歴史
12. 同上（４）　朝鮮・韓国の諸宗教の霊的生活と文明のなかの歴史
13. 同上（５）　日本の諸宗教の霊的生活と文明のなかの歴史（a）
14. 同上（６）　日本の諸宗教の霊的生活と文明のなかの歴史（b）
15. まとめ

＜準備学習等の指示＞ 学生は、授業をよく聴き、質問をすること。

＜テキスト＞　岸本英夫　『世界の宗教』（原書房、2008）

＜参考書＞　J. ヴァッハ、渡辺訳　『宗教の比較研究』（京都：法蔵館、1999）

＜学生に対する評価（方法・基準）＞ ①宗教史用語についての小テストを受ける。②期末筆記試験を受ける。③到達目標事項の達成度を重視する。

専門教育科目必修・実践神学関係	
実践神学概論ａ	小泉　健
前期・２単位	＜登録条件＞　通年で登録すること

＜授業のテーマ＞
実践神学の四大領域の概略に触れつつ、実践神学的思考について学ぶ。

＜到達目標＞
神学の全体構造の中に実践神学を正しく位置づけられるようになること。実践神学の主要なテーマについて、基本的な考え方を身につけること。

＜授業の概要＞
前期は実践神学全体を概観した上で、実践神学基礎論としての教会論と説教学を扱う。

＜履修条件＞
学部最終学年において履修のこと。

＜授業計画＞

第１回　　神学とは何か、実践神学とは何か
第２回　　実践神学とは何か（その１）実践神学の歴史
第３回　　実践神学とは何か（その２）「実践」と「神学」
第４回　　実践神学とは何か（その３）さまざまな実践神学
第５回　　実践神学とは何か（その４）伝道論としての実践神学
第６回　　教会建設論（その１）教会建設論の歴史
第７回　　教会建設論（その２）さまざまな教会建設論
第８回　　教会建設論（その３）実践神学基礎論としての教会論
第９回　　教会建設論（その４）伝道する教会の建設
第１０回　説教学（その１）説教とは何か
第１１回　説教学（その２）誰が説教するのか　説教者論
第１２回　説教学（その３）誰に説教するのか　聴衆論
第１３回　説教学（その４）どこで説教するのか　説教と礼拝
第１４回　説教学（その５）何を説教するのか　説教と聖書
第１５回　説教学（その６）いかに説教するのか　説教と修辞学

＜準備学習等の指示＞
教室で配布される資料をていねいに読むこと。

＜テキスト＞
必要に応じて教室でプリントを配布する。

＜参考書＞
加藤常昭『教会とは何か』東神大パンフレット 2
山口隆康『アブラハムと実践神学』東神大パンフレット 27
R. ボーレン『神が美しくなられるために』教文館
R. ボーレン『説教学Ⅰ』『説教学Ⅱ』日本基督教団出版局
その他については授業中に文献表を配布する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
出席態度とレポートによって評価する。

専門教育科目必修・実践神学関係	
実践神学概論ｂ	小泉　健
後期・２単位	＜登録条件＞　通年で登録すること

＜授業のテーマ＞
実践神学の四大領域の概略に触れつつ、実践神学的思考について学ぶ。

＜到達目標＞
教会で実践され、経験的に知っている行為に対して、神学的に把握し反省するための実践神学的な考え方を身につけること。

＜授業の概要＞
実践神学諸科から、とくに礼拝学と牧会学の基礎を扱う。

＜履修条件＞
学部最終学年において履修のこと。

＜授業計画＞

第１回　　礼拝学（その１）礼拝を考える
第２回　　礼拝学（その２）１、２世紀の教会の礼拝
第３回　　礼拝学（その３）３、４世紀の教会の礼拝
第４回　　礼拝学（その４）宗教改革の教会の礼拝
第５回　　礼拝学（その５）宗教改革以後の教会の礼拝
第６回　　礼拝学（その６）わたしたちの礼拝再考
第７回　　礼拝学（その７）聖礼典、礼拝堂
第８回　　礼拝学（その８）教会暦、主日聖書日課、讃美歌
第９回　　牧会学（その１）牧会とは何か
第１０回　牧会学（その２）さまざまな牧会の理解
第１１回　牧会学（その３）牧会の課題
第１２回　牧会学（その４）牧会の場（結婚、病、死別）
第１３回　牧会学（その５）牧会の方法（祈り、指導、訪問、手紙）
第１４回　牧会学（その６）告解と相互牧会
第１５回　牧会学（その７）教会法・戒規

＜準備学習等の指示＞
教室で配布される資料をていねいに読むこと。

＜テキスト＞
必要に応じて教室でプリントを配布する。

＜参考書＞
レイモンド・アバ『礼拝　その本質と実際』教団出版局
E. トゥルナイゼン『牧会学Ｉ』教団出版局
その他については授業中に文献表を配布する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
出席態度とレポートによって評価する。

専門教育科目必修・実践神学関係	
キリスト教教育概論ａ	朴　憲郁
前期・２単位	＜登録条件＞　できるだけ通年で履修すること

＜授業のテーマ＞
世界キリスト教教育史

＜到達目標＞
キリスト教教育の歴史、特色、理論を学ぶ。

＜授業の概要＞
二千年のキリスト教史における種々の教育形態の機能と意義を考察しながら、キリスト教教育の本質と特色と目的を明らかにし、それを今日の教育的業に資するものとしたい。

＜履修条件＞
特にない

＜授業計画＞

１．キリスト教教育とは何か？　一般教育との関連と相違

２．キリスト教教育と神学

３．聖書における「教育」の理解　-- ﾊﾟｳﾛ神学の場合

　　神学的人間理解に基づくキリスト教教育

４．原始キリスト教時代-1.使徒時代

５．原始キリスト教時代-2.使徒後時代

６．古ｶﾄﾘｯｸ教会時代

７．中世の学校：修道院（または僧院）学校（monastic school)、他

８．中世の教育の特徴としての象徴主義－その意義と問題

９．近世社会の諸特徴 2)教育史上の特徴:ルネサンスと宗教改革

10. ルターとカルヴァンの教育思想と実践　4)ｶﾄﾘｯｸ教会の教育改革

11. プロテスタンティズムの教育運動 6)近世後期ヨーロッパのキリスト教

12. 東北アジアのキリスト教教育

13. 現代

14. 現代的人間の特性とキリスト教教育

15. 伝道とキリスト教教育

＜準備学習等の指示＞
随時、必要に応じて課題を課す。

＜テキスト＞
特に指定はせず、その都度ﾌﾟﾘﾝﾄ配布する。

＜参考書＞
John L.Elis, A History of Christian Education, Florida, 2002
その他、随時、紹介する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
定期試験の結果で評価する。
出席を２／３以上満たした者を評価の対象とする。

専門教育科目必修・実践神学関係	
キリスト教教育概論ｂ	朴　憲郁
後期・２単位	＜登録条件＞できるだけ通年で履修すること

＜授業のテーマ＞
日本キリスト教教育史

＜到達目標＞
日本におけるプロテスタント・キリスト教の教会、家庭、学校の歴史的経緯と実態を把握する。

＜授業の概要＞
日本におけるプロテスタント・キリスト教教育史を概観しつつ、教会、学校、家庭におけるキリスト教教育の意義と課題を明らかにする。

＜履修条件＞
特にない

＜授業計画＞

１．教会学校史(序、第一期～第五期)

２．教会学校の意義と使命

３．教会論的基礎づけ

４．キリスト教幼児教育について

５．その歴史的経緯

６．幼児園のキリスト教教育

７．初等･中等教育－公教育の一環としてのキリスト教教育

８．欧米におけるキリスト教学校の展開、他

９．大学教育：１）キリスト教大学のヴィジョン

10. 日本の大学の意義と課題

11. 聖書の家庭教育

12. 教会史上の家庭教育

13. 家庭の教育的役割、

14. 家庭のキリスト教教育確立のために

15. キリスト教家庭教育の方策

＜準備学習等の指示＞
随時、必要に応じて課題を課す。

＜テキスト＞
『日本における教会教育の歩み』(１８５８～２００６)、NCC 教育部歴史編纂委員会編、教文館、２００７年、(５月発行)　各自注文して用意すること。

＜参考書＞
随時、授業の中で諸資料を紹介していく。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
定期試験の結果で評価する。
出席を２／３以上満たした者を評価の対象とする。

専門教育科目選択必修・学部演習	
旧約聖書学部演習 a	田中　光
前期・２単位	＜登録条件＞　a, b 両方とも登録すること

＜授業のテーマ＞
旧約聖書が解釈されてきた歴史を主なテーマとする。

＜到達目標＞
旧約聖書が解釈されてきた歴史を学ぶことで、旧約聖書に秘められた福音の深みを把握する。

＜授業の概要＞
各回の授業の中では、まず担当教員が総論的な説明を行う。その後、学生に指定された文献の要約を発表して頂き、それをもとにディスカッションを行う。

＜履修条件＞
英語の研究論文･研究書を読むための知識があることが望ましい。

＜授業計画＞
1.　オリエンテーション＆イントロダクション
2.　旧約聖書神学登場の前史①:　新約聖書における旧約解釈
3.　旧約聖書神学登場の前史②:　古代教父における旧約解釈　その１（アレキサンドリア学派を中心に）
4.　旧約聖書神学登場の前史③:　古代教父における旧約解釈　その２（アンティオキア学派を中心に）
5.　旧約聖書神学登場の前史④:　古代教父における旧約解釈　その３（アウグスティヌス）
6.　旧約聖書神学登場の前史⑤:　修道院における旧約解釈
7.　旧約聖書神学登場の前史⑥:　中世と宗教改革の時代における旧約解釈　その１（ルターを中心に）
8.　旧約聖書神学登場の前史⑦:　中世と宗教改革の時代における旧約解釈　その２（カルヴァンを中心に）
9.　旧約聖書神学における最初期の発展（宗教改革後から 17 世紀まで）
10. 18 世紀における旧約聖書神学（ガープラーなどを中心に）
11. 19 世紀における旧約聖書神学①　（主要な神学的諸思想とそれらの旧約解釈への影響）
12. 19 世紀における旧約聖書神学②　（宗教史学派の台頭を中心に）
13. 20 世紀における旧約聖書神学①　（旧約神学の復活: バルト、アイヒロッド、アイスフェルト他を中心に）
14. 20 世紀における旧約聖書神学②　（宗教史研究の継続と発展）
15. 総括

＜準備学習等の指示＞
指示された聖書の箇所、テキスト、参考書等の該当箇所を学生皆が事前に読み、ディスカッションの準備をすること。

＜テキスト＞
各授業ごとに、読む必要のある文献は異なる。具体的には、オリエンテーションの時に指示する。

＜参考書＞
聖書解釈の歴史を学ぶために、例えば右のような文献が参考になる。R.M. グラント著（茂泉昭男、倉松功訳）『聖書解釈の歴史』新教出版社、1966 年; M. Simonetti, *Biblical Interpretation in the Early Church: A Historical Introduction to Patristic Exegesis* (Edinburgh: T & T Clark, 1994);　John H.Hayes & Frederick C. Prussner, *Old Testament Theology: Its History and Development*(London: SCM Press, 1985); B. S. Childs, *The Struggle to Understand Isaiah as Christian Scripture* (Grand Rapids: Eerdmans, 2004).

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業への参加度と発表、そして期末のレポートによって評価する。欠席が 3 分の 1 を超えた者はレポートを提出できない。

専門教育科目選択必修・学部演習	
旧約聖書学部演習 b	田中　光
後期・２単位	＜登録条件＞a, b 両方とも登録すること

＜授業のテーマ＞
聖書学の論文の執筆

＜到達目標＞
前期の学びから得たインサイトを用いて、聖書学の方法論を用いて論文を作成する。

＜授業の概要＞
前半において、論文の執筆の仕方や文献収集の方法について学び、後半において、学生による論文の途中経過の発表を行う。

＜履修条件＞
ヘブライ語テキスト、英語の研究論文･研究書を読むための知識があることが望ましい。

＜授業計画＞
1. オリエンテーション＆イントロダクション
2. 聖書学の論文の書き方①　論文を書く際の心得
3. 聖書学の論文の書き方②　文献の収集と文献の読み方について（図書館ツアー）
4. 論文執筆実習①　本文批評、聖書の古代語訳について
5. 論文執筆実習②　イザヤ書 61 章 1-11 のマソラからの翻訳　（テキストの前半）
6. 論文執筆実習③　イザヤ書 61 章 1-11 節のマソラからの翻訳　（テキストの後半）
7 論文執筆演習④　関連する箇所のマソラからの翻訳（イザ 42:1-9）
8. 論文執筆実習⑤　上記聖書テキストに関する注解書・論文の読解
9. 学生による発表①:　論文の方向性　第一グループ
10. 学生による発表②:　論文の方向性　第二グループ
11. 学生による発表③:　論文の方向性　第三グループ
12. 学生による発表④:　論文の中間報告　第一グループ
13. 学生による発表⑤:　論文の中間報告　第二グループ
14. 学生による発表⑥:　論文の中間報告　第三グループ
15. 総括

＜準備学習等の指示＞
指示された聖書の箇所、テキスト、参考書等の該当箇所を学生皆が事前に読み、ディスカッションの準備をすること。

＜テキスト＞
Biblia Hebraica Stuttgartensia, ヘブライ語辞書。

＜参考書＞
授業の中で適宜指示することとする。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業への参加度と発表、そして期末のレポートによって評価する。欠席が 3 分の 1 を超えた者はレポートを提出できない。

専門教育科目選択必修・学部演習	
新約聖書学部演習 a	焼山　満里子
前期・２単位	＜登録条件＞

＜授業のテーマ＞
学部論文を書くことを念頭に、新約聖書学の研究書を読む。各テキストの内容と共に新約聖書学の議論の仕方を学び、史的イエス研究、共観福音書、中でもマルコ福音書の理解を深める。

＜到達目標＞
新約聖書学の研究方法と具体例に親しむ。

＜授業の概要＞
テキストを分担して読む。担当を決め、発表と議論によって理解を深める。

＜履修条件＞
学部 4 年の新約専攻および他専攻の希望する学生。

＜授業計画＞

１．オリエンテーション

２.『歴史の中のイエス像』　松永希久夫、日本放送出版協会、1989 年

３.『史的イエスと「ナザレのイエス」』　上智大学キリスト教文化研究所編、リトン、2010 年、1－47 頁。

４.『イエス・キリスト下』　荒井献、講談社学術文庫、2001 年、3－101 頁。

５．同上、102－210 頁。

６．同上、211－333 頁。

７．同上、334-473 頁。

８.『受難物語の起源』E・トロクメ、加藤隆訳、教文館、1998 年、3－90 頁。

９.『原始キリスト教の一断面』（新装版）田川建三、勁草書房、2006 年、1－115 頁。

１０．同上、116－199

１１．同上、200－318 頁。

１２．同上、319－354 頁。

１３.『新約学と文学批評』ノーマン・ピーターセン、宇都宮秀和訳、教文館、1986 年、3－71 頁。

１４．　同上、72－132 頁。

１５．まとめ

ただし、受講者の関心によって適宜調整する。

＜準備学習等の指示＞
担当箇所を予め指定するので内容を紹介し、意見を述べる。また担当しない時は他の学生の発表を聞いて議論に参加する。

＜テキスト＞
上記。各自準備すること。

＜参考書＞
適宜紹介する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
出席状況、授業参加、期末の課題によって総合的に評価する。

専門教育科目選択必修・学部演習	
新約聖書学部演習ｂ	中野　実
後期・２単位	＜登録条件＞　学部４年生
＜授業のテーマ＞　学部論文として釈義レポートを準備するためのクラス	
＜到達目標＞　このクラスを通して、論文の書き方や釈義の方法、手続きを身につけることができる。	
＜授業の概要＞　論文の書き方を学びつつ、釈義を進めていく。一つの聖書テクストを共同で釈義し、それぞれが論文にまとめていく。	
＜履修条件＞新約専攻者のみならず、ほかの学部４年生にも開かれている。	
＜授業計画＞ （１）オリエンテーション （２）一般的論文、レポートの書き方 （３）釈義レポートの書き方 （４）問題発見、問題設定 （５）自らの問題意識を学問的に表現してみる （６）先行研究の発見 （７）先行研究から学ぶ （８）釈義の手続き （９）注解書を読む （10）研究書を読む （11）テクストの選定 （12）テクストの釈義 （13）自らのテーゼを発見 （14）見直し （15）まとめ	
＜準備学習等の指示＞とにかくコツコツ聖書テクストや研究書と取り組ながら、自分自身の議論を組み立てることに努める。	
＜テキスト＞中野ほか『新約聖書解釈の手引き』（日本基督教団出版局、2016 年）。	
＜参考書＞適宜紹介する。	
＜学生に対する評価（方法・基準）＞授業への参加度、努力、その実りとしての釈義レポートを通して総合的に評価する。出席が三分の二に達しない場合は、評価の対象としない。レポートにおいては、適切な方法論に基づきつつ、主体的な思考がなされ、全体として論理的であることが求められる。	

専門教育科目選択必修・学部演習	
組織神学学部演習 a	**須田　拓**
前期・２単位	**＜登録条件＞** 組織神学学部演習 b と通年で履修・登録することを原則とする

＜授業のテーマ＞
卒業論文の作成に向けて、組織神学的に考え叙述する技法を学ぶ。

＜到達目標＞
組織神学的に考えることができるようになる。

＜授業の概要＞
後期における卒業論文作成の準備

＜履修条件＞
学部４年生で卒業を予定している者

＜授業計画＞

第１回　　オリエンテーション
第２回　　卒業論文の主題について
第３回　　論文の書き方(1) 論文の構成
第４回　　論文の書き方(2) パラグラフの書き方
第５回　　組織神学の考え方(1)　文章の読解
第６回　　組織神学の考え方(2)　内容の検討
第７回　　組織神学の考え方(3)　批評とその書き方
第８回　　中間総括
第９回　　卒業論文の主題と文献について
第１０回　組織神学の論じ方(1) 神学的文章の読解
第１１回　組織神学の論じ方(2) 神学的文章の検討
第１２回　組織神学の論じ方(3) 神学的文章の批評
第１３回　卒業論文主題の検討
第１４回　卒業論文主題の最終決定
第１５回　まとめ

＜準備学習等の指示＞

＜テキスト＞
泉忠司『90 分でコツがわかる！論文&レポートの書き方』（青春出版社）

＜参考書＞
特になし

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業への参加状況と学期中の課題によって評価する。

専門教育科目選択必修・学部演習	
組織神学学部演習ｂ	須田　拓
後期・２単位	＜登録条件＞組織神学学部演習ａと通年で履修・登録することを原則とする

＜授業のテーマ＞
学部卒業論文を作成する。

＜到達目標＞
学部卒業論文を作成する。

＜授業の概要＞
受講者を３つのグループに分け、順に中間発表を重ねながら、卒業論文を作成する。

＜履修条件＞
前期と同じ。

＜授業計画＞

第１回　　オリエンテーション
第２回　　文献表・主要文献の内容概観の発表（第１グループ・第２グループ前半）
第３回　　文献表・主要文献の内容概観の発表（第２グループ後半・第３グループ）

＜第１サイクル＞（1,000 字程度を執筆してくる）
第４回　　第１グループのメンバー各自の発表
第５回　　第２グループのメンバー各自の発表
第６回　　第３グループのメンバー各自の発表

＜第２サイクル＞（2,000 字程度を執筆してくる）
第７回　　第１グループのメンバー各自の発表
第８回　　第２グループのメンバー各自の発表
第９回　　第３グループのメンバー各自の発表

＜第３サイクル＞（3,000 字程度を執筆してくる）
第１０回　第１グループのメンバー各自の発表
第１１回　第２グループのメンバー各自の発表
第１２回　第３グループのメンバー各自の発表

＜第４サイクル＞（4,000 字程度を執筆してくる）
第１３回　第１グループのメンバー各自の発表
第１４回　第２グループのメンバー各自の発表
第１５回　第３グループのメンバー各自の発表

＜準備学習等の指示＞
論文作成に積極的に取り組むこと

＜テキスト＞
なし

＜参考書＞
なし

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
最終的に提出された卒業論文によって評価する。

専門教育科目選択必修・学部演習	
歴史神学学部演習ａ	**関川　泰寛**
前期・２単位	**＜登録条件＞**　歴史神学学部演習ａを履修していること

＜授業のテーマ＞
歴史神学学習の方法論の習得と学部論文作成の手順を学ぶ。

＜到達目標＞
一次史料、二次史料の読み方、歴史神学方法論を修得することを目標とする。

＜授業の概要＞
歴史神学の学問研究のために必要な基礎概念、史料の扱い方、論文作成の方法等を学ぶ。テキストを割り当てて発表して内容をつかむ。各自の発表やクラスでの貢献を重視する。

＜履修条件＞
特になし

＜授業計画＞

Ⅰ　歴史神学の論文を書くための基礎知識
1　　歴史神学とは
2　　一次史料と二次史料　テキスト発表①
3　　一次史料を読む　　テキスト発表②
4　　一次史料を読む　テキスト発表③
5　　二次史料を読む　テキスト発表④
6　　二次史料を読む　テキスト発表⑤
7　　歴史神学論文を読む　テキスト発表⑥
8　　歴史神学論文を読む　テキスト発表⑦

Ⅱ　学部論文作成
9　　作成の注意と準備
１０　論文の計画と執筆、注のつけ方
１１　論文計画発表①
１２　論文計画発表②
１３　論文計画発表③
１４　ディカッション
１５　まとめ

＜準備学習等の指示＞
特になし

＜テキスト＞
澤田昭夫『論文の書き方』(講談社学術文庫１５３)。このテキストは、各自購入しておくこと。加えて N.Cantor, How to Study History を部分的に読む。こちらは、該当箇所を関川が配布する。

＜参考書＞
その都度指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
分担発表とクラスでの討議の貢献度、レポート、出席状況によって総合的に評価する。

専門教育科目選択必修・学部演習	
歴史神学学部演習ｂ	関川　泰寛
後期・２単位	＜登録条件＞

＜授業のテーマ＞
歴史神学論文を書くための基礎作業、ならびに各個教会史を批判的に読み解く訓練をする。

＜到達目標＞
一次史料、二次史料の読み方、歴史神学方法論を修得することを目標とするとともに、日本の教会史を読み的確に評価する力をつける。

＜授業の概要＞
歴史神学の学問研究のための実践的な研究を行う。また将来牧師として関わるであろう教会史を執筆することを想定して、各個教会史を読み、論評するという実践的準備も兼ねる。最後に学部論文作成を行う。各自の発表やクラスでの貢献を重視する。

＜履修条件＞
特になし

＜授業計画＞

Ⅰ　歴史神学の論文を書くための実践的研究
1　　歴史神学と歴史学の流れ講義
2　　論文作成の用いる一次史料と二次史料の内容紹介と分析
3　　一次史料を読む　内容紹介と評価
4　　二次史料を読む　内容紹介と評価
5　　歴史神学論文を書くⅠ　論文の構想と参考文献
6　　歴史神学論文を書くⅡ　　目次と主題

Ⅱ　教会史を書くための実践的研究
7　　各個教会史を読む　発表　i
8　　各個教会史を読む　発表　ii
9　　各個教会史を読む　発表　iii
１０　その批判的検討
１１　教会史と日本の教会の諸問題・教会の制度と神学
１２　教会史を書く
１３　論文中間発表　i
１４　論文中間発表　ii
１５　まとめ

＜準備学習等の指示＞
特になし

＜テキスト＞
引き続き**澤田昭夫『論文の書き方』（講談社学術文庫１５３）**を用いる。

＜参考書＞
その都度指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
分担発表とクラスでの討議の貢献度、レポート、出席状況によって総合的に評価する。

専門教育科目選択必修・神学書講読	
英語神学書講読・聖書Ⅰ	焼山　満里子
前期・２単位	＜登録条件＞

＜授業のテーマ＞
新約聖書学の研究書を読み新約聖書の理解を深める。

＜到達目標＞
新約聖書学の研究書を読む力を養う。

＜授業の概要＞
授業では各自あらかじめ準備した日本語訳を検討する。

＜履修条件＞
英語Ⅱ履修済みか同程度の英語読解力のレベルの学生が履修するのが望ましい。

＜授業計画＞
１．　オリエンテーション　（英和辞書持参のこと）
２．　テキスト　第一章　Paul and the Corinthians　p.　1
３．　テキスト　第一章　Paul and the Corinthians　p.　2
４．　テキスト　第一章　Paul and the Corinthians　p.　3
５．　テキスト　第一章　Paul and the Corinthians　p.　4
６．　テキスト　第一章　Paul and the Corinthians　p.　5
７．　テキスト　第一章　Paul and the Corinthians　p.　6
８．　１－７回までのまとめ
９．　テキスト　第一章　Paul and the Corinthians　p.　7
１０．テキスト　第一章　Paul and the Corinthians　p.　8
１１．テキスト　第一章　Paul and the Corinthians　p.　9
１２．テキスト　第一章　Paul and the Corinthians　p.　１０
１３．テキスト　第一章　Paul and the Corinthians　p.　１１
１４．テキスト　第一章　Paul and the Corinthians　p.　１２
１５．テキスト　第一章　Paul and the Corinthians　まとめ
進度は受講者の関心によって適宜調整する。

＜準備学習等の指示＞毎授業講読担当箇所を指定するので、各自あらかじめ日本語訳を準備の上で出席のこと。

＜テキスト＞Victor Furnish, The Theology of the First Letter to the Corinthians, Cambridge: Cambridge University Press, 1999.　初回の授業時に配布する。

＜参考書＞英和辞書、英文法書は各自使いやすいものを選び準備する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
出席状況、授業参加、中間、期末の課題を総合的に評価する。

専門教育科目選択必修・神学書講読	
英語神学書講読・聖書Ⅱ	焼山　満里子
後期・２単位	＜登録条件＞

＜授業のテーマ＞
新約聖書学の研究書を読み新約聖書の理解を深める。

＜到達目標＞
新約聖書学の研究書を読む力を養う。

＜授業の概要＞
授業では各自あらかじめ準備した日本語訳を検討する。

＜履修条件＞
英語Ⅱ履修済みか同程度の英語読解力のレベルの学生が履修するのが望ましい。

＜授業計画＞
１．　オリエンテーション　（英和辞書持参のこと）
２．　テキスト　第２章　Knowing God, belonging to Christ　p. 28
３．　テキスト　第２章　Knowing God, belonging to Christ　p. 29
４．　テキスト　第２章　Knowing God, belonging to Christ　p. 30
５．　テキスト　第２章　Knowing God, belonging to Christ　p. 31
６．　テキスト　第２章　Knowing God, belonging to Christ　p. 32
７．　テキスト　第２章　Knowing God, belonging to Christ　p. 33
８．　１－７回のまとめ
９．　テキスト　第２章　Knowing God, belonging to Christ　p. 34
１０．テキスト　第２章　Knowing God, belonging to Christ　p. 35
１１．テキスト　第２章　Knowing God, belonging to Christ　p. 36
１２．テキスト　第２章　Knowing God, belonging to Christ　p. 37
１３．テキスト　第２章　Knowing God, belonging to Christ　p. 38
１４．テキスト　第２章　Knowing God, belonging to Christ　p. 39
１５．　９－１４回のまとめ
進度は受講者の関心によって適宜調整する。

＜準備学習等の指示＞

＜テキスト＞
Victor Furnish, The Theology of the First Letter to the Corinthians, Cambridge: Cambridge University Press, 1999.　初回の授業時に配布する。

＜参考書＞
英和辞書、英文法書は各自使いやすいものを選び準備する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
出席状況、授業参加、中間、期末の課題を総合的に評価する。

専門教育科目選択必修・神学書講読	
独語神学書講読・聖書I	大住　雄一
前期・２単位	＜登録条件＞

＜授業のテーマ＞　聖書学論文においても、ドイツ語だからできる議論があり、また、もちろん議論がドイツ語の制約を受ける場合がある。ドイツ語で書かれた聖書学論文を読むという体験を共有したい。

＜到達目標＞　旧約聖書学研究に必須のドイツ語文献の考え方の背景を知る。

＜授業の概要＞　Hans-Joachim Kraus, Geschichte der historisch-kritischen Erforschung des Alten Testaments, Neukirchen-Vluyn, 3. erweiterte Auflage, 1982. から、1章 3. Ansätze der Kritik, 4. Das Alte Testament als Zeugnis von Jesus Christus を読む。

＜履修条件＞

＜授業計画＞

オリエンテーション
1.　p.16
2.　p.16
3.　p.17
4.　p.18
5.　p.18
6.　p.19
7.　p.20
8.　p.20
9.　p.21
10. p.21
11. p.22
12. p.22
14. p.23
15. p.24

＜準備学習等の指示＞　取り扱う箇所を出来る限り正確に和訳して授業に臨むこと

＜テキスト＞　授業に関係する箇所のコピーを第一回授業時に配付する。

＜参考書＞

＜学生に対する評価（方法・基準）＞各授業での翻訳と文法的説明の発表を評価する。

専門教育科目選択必修・神学書講読	
英語神学書講読・組織Ⅰ	神代　真砂実
前期・２単位	＜登録条件＞　特になし（学期毎で履修可）。

＜授業のテーマ＞　英語による組織神学関係の文書を講読することを通して、英語の専門書をひもといていくための能力を高める。併せて当該文書が扱う主題についての理解を深める。Ⅰでは、比較的に平易なものを読む。

＜到達目標＞　①一般的な英語の能力の向上、②組織神学にかかわる英語の語彙の習得、③テキストの内容について自分の言葉で説明出来るようになること。

＜授業の概要＞　宗教改革五百周年にあたり、二つの事典のルターについての項目、およびルターについての一つの入門的論考を読む。一人ずつあてて、訳してもらう。

＜履修条件＞　英語Ⅱを履修済みか、それと同等以上の学力を有していること。

＜授業計画＞
扱われるのは、①J. Pelikan, *The Melody of Theology*、②P. McEnhill and G. Newlands, *Fifty Key Christian Thinkers*、③D. Johnston, *A Brief History of Theology* である。これらを以下のように読み進める。

第１回　オリエンテーション
第２回　テキスト①、pp. 154-155。
第３回　同、pp. 155-157。
第４回　テキスト②、pp. 180-181。
第５回　同、pp. 182-183。
第６回　同、pp. 184-185。
第７回　同、pp. 186-187。
第８回　同、pp. 188-189。
第９回　テキスト③、pp. 76-78。
第10回　同、pp. 78-82。
第11回　同、pp. 82-84。
第12回　同、pp. 84-87。
第13回　同、pp. 87-89。
第14回　同、pp. 89-91。
第15回　同、pp. 91-93。

＜準備学習等の指示＞　予習してくること。（英和辞典は紙ベースの中辞典を使うことを強く勧める。）

＜テキスト＞　担当者が用意する、上記〈授業計画〉中に挙げた三つの文献のプリント。

＜参考書＞　特になし。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞　授業中の和訳の出来と小テストによる。

専門教育科目選択必修・神学書講読	
英語神学書講読・組織Ⅱ	神代　真砂実
後期・２単位	＜登録条件＞　特になし（学期毎で履修可）。

＜授業のテーマ＞　英語による組織神学関係の文書を講読することを通して、英語の専門書をひもといていくための能力を高める。併せて当該文書が扱う主題についての理解を深める。Ⅱでは、Ⅰよりも高度なものを読む。

＜到達目標＞　①一般的な英語の能力の向上、②組織神学にかかわる英語の語彙の習得、③テキストの内容について自分の言葉で説明出来るようになること。

＜授業の概要＞　ラヴィンによるヒトラー政権下のドイツにおけるキリスト教倫理についての研究を学ぶ。一人ずつあてて、訳してもらう。

＜履修条件＞　英語Ⅱを履修済みか、それと同等以上の学力を有していること。

＜授業計画＞

第１回　オリエンテーション

第２回　テキスト、pp. 101-103。

第３回　同、pp. 103-105。

第４回　同、pp. 105-107。

第５回　同、pp. 107-109。

第６回　同、pp. 109-110。

第７回　同、pp. 110-112。

第８回　同、pp. 112-114。

第９回　同、pp. 114-116。

第 10 回　同、pp. 116-118。

第 11 回　同、pp. 118-120。

第 12 回　同、pp. 120-123。

第 13 回　語彙に関する復習とまとめ

第 14 回　文法に関する復習とまとめ

第 15 回　ヒトラー政権下ドイツでのキリスト教倫理の展開についてのまとめ

＜準備学習等の指示＞　予習してくること。（英和辞典は紙ベースの中辞典を使うことを強く勧める。）

＜テキスト＞　Robin W. Lovin, *Christian Faith and Public Choices* (Philadelphia: Fortress Press, 1984), pp. 101-123.　（担当者が用意する）

＜参考書＞ 特になし

＜学生に対する評価（方法・基準）＞　授業中の和訳の出来と小テストによる。

専門教育科目選択必修・神学書講読	
独語神学書講読・組織Ⅰ	長山　道
前期・２単位	＜登録条件＞

＜授業のテーマ＞　ドイツにおける教会と社会の関係

＜到達目標＞　ドイツ語の神学書を通して教会と社会の関係について考察しつつ、読解力を身につける。

＜授業の概要＞　テキストの翻訳、解釈。論文作成のためにドイツ語文献を読むこつについても適宜触れる。

＜履修条件＞　基本的な文法を修得していること。

＜授業計画＞

1　オリエンテーション
2　*Die Theorie der christlichen Gewißheit*, S. 119
3　S. 120
4　S. 121
5　S. 122
6　S. 123
7　S. 124
8　S. 125
9　*Einleitung in die Systematische Theologie*, S. 250
10　S. 251
11　S. 252
12　S. 253
13　S. 254
14　S. 255
15　S. 256

＜準備学習等の指示＞　予習して出席すること。

＜テキスト＞　Konrad Stock, *Die Theorie der christlichen Gewißheit. Eine enzyklopädische Orientierung*, Tübingen, 2005. Ders., *Einleitung in die Systematische Theologie*, Berlin/New York, 2011.　担当者が用意する。

＜参考書＞　必要に応じて指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞　授業中の発表により評価する。

専門教育科目選択必修・神学書講読	
独語神学書講読・組織Ⅱ	芳賀　力
後期・２単位	＜登録条件＞　学期ごとの登録可

＜授業のテーマ＞
洗礼についてドイツ語で神学書を読む。

＜到達目標＞
ドイツ語の表現に慣れ親しみ、内容を正確に理解する訓練を行う。

＜授業の概要＞
ドイツ福音主義教会の『洗礼 ― その理解と実践のための指針』を読み、訳してゆく。

＜履修条件＞
ドイツ語の基本文法を一応終えていること。

＜授業計画＞
第１回：テキストのまえがきを読み、解説する。

第２回：テキストの 11-14 頁を順番に訳しながら、内容を検討する。

第３回：テキストの 15-18 頁を順番に訳しながら、内容を検討する。

第４回：テキストの 19-22 頁を順番に訳しながら、内容を検討する。

第５回：テキストの 23-26 頁を順番に訳しながら、内容を検討する。

第６回：テキストの 27-30 頁を順番に訳しながら、内容を検討する。

第７回：テキストの 31-34 頁を順番に訳しながら、内容を検討する。

第８回：テキストの 35-38 頁を順番に訳しながら、内容を検討する。

第９回：テキストの 39-42 頁を順番に訳しながら、内容を検討する。

第 10 回：テキストの 43-46 頁を順番に訳しながら、内容を検討する。

第 11 回：テキストの 47-50 頁を順番に訳しながら、内容を検討する。

第 12 回：テキストの 51-54 頁を順番に訳しながら、内容を検討する。

第 13 回：テキストの 55-58 頁を順番に訳しながら、内容を検討する。

第 14 回：テキストの 59-61 頁を順番に訳しながら、内容を検討する。

第 15 回：テキストの内容全体を振り返り、総括する。

＜準備学習等の指示＞
辞書をよく引いて、不明な単語がないようにしておくこと。

＜テキスト＞
Rat der EKD, Die Taufe. Eine Orientierungshilfe zu Verständnis und Praxis der Taufe in der evangelischen Kirche, Gütersloher Verlagshaus, 2008. 各自注文して取り寄せてもよいが、コピーを渡すことも可能。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
出席と授業での読解作業を評価する。

専門教育科目選択・聖書神学関係	
旧約聖書神学Ⅳ	左近　豊
後期・２単位	＜登録条件＞

＜授業のテーマ＞
旧約聖書に見出される神学思想の現代的意義について考察する。

＜到達目標＞
特に旧約聖書の「嘆き」に注目し、教会の礼拝、牧会、祈り、霊的生活において旧約聖書神学的視座に立って思索できるようになること目的とする。

＜授業の概要＞
危機の時代に発せられた言葉として旧約詩編、エレミヤ書、哀歌等を取り上げ、参照すべき文献を精読し、また聖書テキストを文芸学的手法を用いて分析し、その様式や語り口の特徴を理解し、現代の危機に向けて教会が語るべき言葉を探求する。

＜履修条件＞

＜授業計画＞
１、 序　課題の設定：現代の教会に仕える私たちが、旧約聖書に問い、また逆に問われている問題、特に「嘆き」に注目し、授業全体の課題を設定する。
２、 旧約聖書と現代（１）：現代を旧約聖書神学的視点から考察する。
３、 旧約聖書と現代（２）：現代日本を旧約聖書神学的視点から考察する。
４、 証言としての旧約聖書：旧約聖書の証言性に注目し、「嘆き」を通して証しされる神、信仰共同体、歴史について考察する。
５、 聖書における嘆きの神学的考察の可能性を探る
６、 聖書における崩壊期の思想について
７、 日本の霊的生活における崩壊の思想について
８、 旧約聖書　嘆きの詩編（１）：その様式と内容について考察する。
９、 旧約聖書　嘆きの詩編（２）:「嘆きの詩編」の神学的主題について考察する。
１０、　旧約聖書　エレミヤ書:「エレミヤ書」の嘆きの様式と内容について考察する。
１１、　旧約聖書　哀歌（１）:「哀歌」の様式と内容について考察する。
１２、　旧約聖書　哀歌（２）:「哀歌」の神学的主題について考察する。
１３、　信仰共同体の歴史における嘆き：影響史的視点から哀歌解釈について考察する。
１４、　キリストの受難における嘆き：嘆きの礼拝学的意味を考察する。
１５、　現代の嘆きの詩：現代における旧約詩編の展開例として数名の信仰詩人の詩を取り上げて考察する。

＜準備学習等の指示＞
各授業で挙げられる参考文献に事前に目を通しておくこと。

＜テキスト＞
・聖書
・『3・11 以降の世界と聖書』（仮題、日本基督教団出版局、2016 年）
・『現代聖書注解　哀歌』（日本基督教団出版局、2013 年）
その他授業の中で指示する。

＜参考書＞
各回レジュメに参考文献を挙げる。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業参加（発題・コメントシート）　60%
期末レポート　40%

専門教育科目選択（専攻必修）・聖書神学関係	
ヒブル語Ⅰ（1,2）	本間　敏雄
前期・４単位	＜登録条件＞　通年の登録が望ましい。後期登録は前期単位取得者。

＜授業のテーマ＞
聖書ヒブル語の基礎文法を学ぶ。

＜到達目標＞
平易な聖書ヒブル語本文を読み、理解することができる。

＜授業の概要＞
基礎文法の説明、練習問題、小テスト、マソラ本文の入門的事柄。

＜履修条件＞
単位取得者は継続して後期（Ⅱ）も履修すること。原則として学部４年生。旧約専攻者は必修。

＜授業計画＞
１）１課　ヒブル語とは、文字（Alphabet)、書き方
２）１課　写字練習、写本文字(Codex Leningradesnsis)
３）２課　母音記号（Vowel-signs)
４）３，４課　音節、Shewa、母音文字、Mappiq
５）５，６課　Dagesh、Rafe、母音の分類と変化
６）７，８課　喉音、アクセント等諸記号、Ketib・Qere
７）９課　定冠詞、形容詞（１)、接続詞（Conjunction)
８）９課（２）
９）１０課　人称・指示代名詞（Pronoun)、関係代名詞（１)、疑問詞
１０）１１課　前置詞（Preposition)、目的辞（nota accusativi)
１１）１１課（２）人称代名詞語尾（Suffix)（１)：前置詞、目的辞付加形
１２）１２課　動詞：完了態（Perfect)
１３）１３課　未完了態（Imperfect)
１４）１４課　願望形（Jussive、Cohortative)
継続ウァウ（Waw Consecutive)、従属ウァウ
１５）１４課（２）
１６）１５課　命令形（Imperative)、不定詞（Infinitive)
１７）１５課（２）分詞（Participle)
１８）１６課　状態動詞
１９）１７課　名詞：語形変化、分類、独立形、合成形（Construct state)
２０）１７課（２）合成形、形容詞（２）
２１）１８課　名詞の変化（第一類)、不規則変化名詞
２２）１８課（２）
２３）１９課　名詞の変化（第二類)、副詞と形成接辞、所有
２４）２０課　名詞の変化（第三、第四、第五類)、名詞形成と接辞
２５）２１課　人称代名詞語尾（２）－Ⅰ：名詞の～
２６）２１課Ⅰ（２）
２７）２１課　人称代名詞語尾（２）－Ⅱ：動詞の～
２８）２１課Ⅱ（２）
２９）全体復習
３０）総まとめ

＜準備学習等の指示＞
予習大切。

＜テキスト＞
「ヒブル語入門」（改訂増補版　左近／本間）

＜参考書＞
J.Weingreen, A Practical Grammar for Classical Hebrew (Clarendon Press, Oxford)

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
小テスト、筆記試験で評価する。

専門教育科目選択（専攻必修）・聖書神学関係	
ヒブル語Ⅱ	本間　敏雄
後期・２単位	＜登録条件＞前期単位取得者

＜授業のテーマ＞
聖書ヒブル語の基礎文法を学ぶ。

＜到達目標＞
平易な聖書ヒブル語本文を読み、理解することができる。

＜授業の概要＞
基礎文法の説明、練習問題、小テスト、マソラ本文の入門的事柄

＜履修条件＞
ヒブル語Ⅰ単位取得者。原則として学部 4 年生。旧約専攻者は必修。

＜授業計画＞
前期より継続
１）２２課　動詞の語幹、基本語幹：Qal、Nifal
２）２３課　強意語幹：Piel、Pual、Hithpael
３）２３課（２）
４）２４課　使役語幹：Hifil、Hofal
５）２４課（２）
６）２５課　不規則動詞：Pe 喉音動詞
７）２６課　Ayin 喉音、Pe 喉音動詞、関係代名詞（２）
８）２７課　二重 Ayin 動詞、二根字動詞
９）２８課　数詞、年齢表記
１０）２９課　弱 Pe 動詞（１）：Pe Alef、Pe Nun 動詞
１１）２９課（２）
１２）３０課　弱 Pe 動詞：Pe Waw、Pe Yod 動詞３０課
１３）３１課　弱 Lamed 動詞：Lamed Alef、Lamed He 動詞
１４）３２課 二重弱動詞
１５）総まとめ

＜準備学習等の指示＞
予習大切。

＜テキスト＞
「ヒブル語入門」（改訂増補版　左近／本間）

＜参考書＞
J.Weingreen, A Practical Grammar for Classical Hebrew (Clarendon Press, Oxford)

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
小テスト、筆記試験で評価する。

専門教育科目選択・聖書神学関係	
アラム語ａ	佐藤　泉
前期・２単位	＜登録条件＞通年での履修が望ましい。

＜授業のテーマ＞旧約聖書原典の一部はアラム語で書かれており、古代訳の中にはアラム語訳旧約聖書のタルグムがある。そのようなアラム語のテキストを読むためのアラム語文法の基礎を学ぶ。

＜到達目標＞①アラム語文法の基礎を身につける。②身につけたアラム語文法の基礎を生かし、辞書も用いながら、聖書のアラム語のテキストや古代訳の一つであるタルグムを読むことができるようになる。

＜授業の概要＞
聖書のアラム語のテキストを実際に読みながら（創世記３１：４７・エレミヤ１０：１１・エズラ４：８－２４・５：１－１７など)、アラム語文法を学ぶ。

＜履修条件＞
ヒブル語履修済みであることが望ましい。

＜授業計画＞

第 1 回：序　アラム語について、言語グループ、時代区分などを話す。

第 2 回：創世記 31：47 を読みつつ、アラム語の名詞・形容詞を学ぶ。

第 3 回：エレミヤ 10：11 を読みつつ、動詞の Peal 形の完了・未完了を学ぶ。

第 4 回：エズラ 4：8－24 の講読(1)　不規則変化の名詞について学ぶ。

第 5 回：エズラ 4：8－24 の講読(2)　動詞の Hapel 形の完了を学ぶ。

第 6 回：エズラ 4：8－24 の講読(3)　動詞の Peal 形の分詞、Hitpeel 形の完了・未完了を学ぶ。

第 7 回：エズラ 4：8－24 の講読(4)　動詞の Pael 形の完了・未完了、Hapel 形の未完了を学ぶ。

第 8 回：エズラ 4：8－24 の講読(5)　動詞の Hapel 形の分詞を学ぶ。

第 9 回：エズラ 4：8－24 の講読(6)　動詞の Pael 形・Hitpeel 形・Hitpaal 形の分詞を学ぶ。

第 10 回：エズラ 4：8－24 の講読(7)　二根字動詞の Peal 形と動詞の不定詞・命令を学ぶ。

第 11 回：エズラ 5：1－17 の講読(1)　前置詞と代名詞語尾を学ぶ。

第 12 回：エズラ 5：1－17 の講読(2)　二根字動詞の Hapel 形を学ぶ

第 13 回：エズラ 5：1－17 の講読(3)　二根字動詞の Hitpeel 形を学ぶ。

第 14 回：エズラ 5：1－17 の講読(4)　Pê Yôd 動詞の変化を学ぶ。

第 15 回：エズラ 5：1－17 の講読(5)　Pê Nûn 動詞の変化を学ぶ。

＜準備学習等の指示＞
講読箇所として指示されているアラム語テキストについて、できる範囲で準備すること。

＜テキスト＞
Franz Rosenthal, A Grammar of Biblical Aramaic, Harrassowitz Verlag・Wiesbaden, 1995, Sixth, revised edition

＜参考書＞
左近義慈編著、本間敏雄改訂増補『ヒブル語入門』［改訂増補版］教文館、2011
William L. Holladay, A Concise Hebrew and Aramaic Lexicon of the Old Testament, Grand Rapids, 1971

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
予習・復習、積極的な授業参加の状況によって成績をつける。

専門教育科目選択・聖書神学関係	
アラム語ｂ	佐藤　泉
後期・２単位	＜登録条件＞通年での履修が望ましい。

＜授業の及びテーマ＞旧約聖書原典の一部はアラム語で書かれており、古代訳の中にはアラム語訳旧約聖書のタルグムがある。そのようなアラム語のテキストを読むためのアラム語文法の基礎を学ぶ。

＜到達目標＞①アラム語文法の基礎を身につける。②身につけたアラム語文法の基礎を生かし、辞書も用いながら、聖書のアラム語のテキストや古代訳の一つであるタルグムを読むことができるようになる。

＜授業の概要＞聖書のアラム語のテキストを実際に読みながら（ダニエル書）、アラム語文法の学びを継続する。さらに、エレミヤ書などのタルグムの講読もする。（箇所は未定。授業中に指示する。）

＜履修条件＞
ヒブル語履修済みであることが望ましい。

＜授業計画＞

第 1 回：ダニエル書の緒論的知識を確認し、前期の文法の復習をしつつ、ダニエル書の講読に備える。

第 2 回：ダニエル書の講読(1)　Pê ’ ālep 動詞の Peal 形を学ぶ。

第 3 回：ダニエル書の講読(2)　Pê ’ ālep 動詞の Hapel 形を学ぶ。

第 4 回：ダニエル書の講読(3)　動詞の変化で字位転換が起こる場合について学ぶ。

第 5 回：ダニエル書の講読(4)　Lāmed ’ ālep・Lāmed Hê 動詞の変化を学ぶ。

第 6 回：ダニエル書の講読(5)　二重‘ ayin 動詞の Peal 形を学ぶ。

第 7 回：ダニエル書の講読(6)　二重‘ ayin 動詞の Hopal 形を学ぶ。

第 8 回：ダニエル書の講読(7)　代名詞語尾つきの動詞の変化を学ぶ。

第 9 回：ダニエル書の講読(8)　喉音を含む動詞について学ぶ。

第 10 回：ダニエル書の講読(9)　特殊な変化をする動詞について学ぶ。

第 11 回：エレミヤ書の緒論的知識とバビロニア方式の母音記号を確認し、タルグムの講読に備える。

第 12 回：タルグムの講読(1)　バビロニア方式の母音記号で読むことに慣れる。

第 13 回：タルグムの講読(2)　タルグムのアラム語の動詞の変化を学ぶ。

第 14 回：タルグムの講読(3)　アラム語文法を全体的に思い出しつつ読む。

第 15 回：タルグムの講読(4)　原典や七十人訳と比較しつつ読むことを味わう。

＜準備学習等の指示＞
講読箇所として指示されているアラム語テキストについて、できる範囲で準備すること。講読箇所として指示されているアラム語テキストについて、できる範囲で準備すること。

＜テキスト＞
Franz Rosenthal, A Grammar of Biblical Aramaic, Harrassowitz Verlag・Wiesbaden, 1995, Sixth, revised edition

＜参考書＞
左近義慈編著、本間敏雄改訂増補『ヒブル語入門』［改訂増補版］教文館、2011
William L. Holladay, A Concise Hebrew and Aramaic Lexicon of the Old Testament, Grand Rapids, 1971

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
予習・復習、積極的な授業参加の状況によって成績をつける。

専門教育科目選択・聖書神学関係	
イスラエル古代史	大住　雄一
後期・２単位	＜登録条件＞

＜授業のテーマ＞　伝道者に要求される基礎的な知識であるイスラエル古代史への入門である。

＜到達目標＞一般史の中のイスラエル古代史の知識を得る。

＜授業の概要＞　聖書の記述に沿いながら、それが実際はどういう事態であったのかを究明する。

＜履修条件＞日本基督教団の補教師試験を受験しようとする者で、聖書通論２旧約時代史を履修していない者は履修すること。

＜授業計画＞
１．　イスラエル古代史とは何か
２．　考古学の成果と歴史
３．　イスラエルとは何であったか　エジプトの記録から
４．　ハビルとイスラエル
５．　シナイとは何か
６．　征服か農民革命か、あるいは経済変動か
７．　イスラエルの宗教
８．　イスラエルの歴史記述
９．　二つの王国
１０．王国の 文化
１１．宗教と政治
１２．アッシリアとバビロン
１３．バビロン捕囚
１４．ペルシアとの妥協とユダヤ国家建設
１５．知識の確認

＜準備学習等の指示＞

＜テキスト＞諸種の歴史資料を提供する。

＜参考書＞

＜学生に対する評価（方法・基準）＞小レポートを提出していただく。レポートの主題は、冬休み前に提示する。

専門教育科目選択・聖書神学関係	
新約聖書神学Ⅳ	焼山　満里子
後期・２単位	＜登録条件＞

＜授業のテーマ＞
新約聖書の書簡および黙示録を学ぶ。

＜到達目標＞
新約聖書の書簡および黙示録の内容と新約聖書における位置づけを理解する。

＜授業の概要＞
各文書の緒論、神学的課題を講義形式で学ぶ。

＜履修条件＞
新約聖書神学Ⅲ、ギリシア語履修が望ましい。

＜授業計画＞
１．パウロ真正書簡概観
２．コリントの信徒への手紙二
３．ローマの信徒への手紙　総論
４．ローマの信徒への手紙　詳論―律法について
５．ガラテヤの信徒への手紙
６．テサロニケの信徒への手紙一（一との関連で二）
７．フィリピの信徒への手紙、フィレモンへの手紙
８．真正書簡総括
９．コロサイ、エフェソの信徒への手紙
１０．テモテへの手紙一、二、テトスへの手紙
１１．ヘブライ人への手紙
１２．ヤコブの手紙、ペトロの手紙一、二、三
１３．ヨハネの手紙一、二、三、ユダの手紙
１４．ヨハネの黙示録
１５．総括

＜準備学習等の指示＞
当日の聖書箇所を読み、自分なりの理解をもって授業に参加すること。

＜テキスト＞
聖書

＜参考書＞
適宜紹介する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
出席状況、授業参加、中間、期末の課題によって総合的に評価する。

専門教育科目選択（専攻必修）・聖書神学関係	
新約原典講読Ⅰ	三永　旨従
前期・２単位	＜登録条件＞

＜授業のテーマ＞
編集史批判の立場から共観福音書の各文書の特徴を扱う。

＜到達目標＞
編集史を確立したといわれる小論文を読み、学問的傾向を理解する。

＜授業の概要＞
新約聖書における編集史批判の重要性を示した文献を読んだ後、各文書の文体的特徴及び文法を重視しつつ、講読の基礎を学ぶ。

＜履修条件＞
ギリシャ語１、２を修得済みの者

＜授業計画＞

1. 辞書、コンコーダンスの用法について
2. ″The Stilling of The Storm in Matthew″ 講読 P.52-54
3. ″The Stilling of The Storm in Matthew″ 講読 P.54-57
4. 「嵐を鎮める」読解（マルコ）
5. 「嵐を鎮める」読解（マタイ）
6. 「嵐を鎮める」読解（ルカ）
7. 「ゲッセマネの祈り」読解（マルコ）
8. 「ゲッセマネの祈り」読解（マタイ）
9. 「ゲッセマネの祈り」読解（ルカ）
10. 「十字架」読解（マルコ）
11. 「十字架」読解（マタイ）
12. 「十字架」読解（ルカ）
13. 「ガリラヤ宣教」読解（マルコ）
14. 「ガリラヤ宣教」読解（マタイ）
15. 「ガリラヤ宣教」読解（ルカ）

＜準備学習等の指示＞
該当箇所に関して必ず辞書、コンコーダンス等で予習してクラスに出席。

＜テキスト＞
・″The Stilling of The Storm in Matthew″ G. Bornkamn in Tradition & Interpretation in Matthew, G. Bornkamn, G. Barth, H.J. Held (1960)
・Nestle-Aland, NOVUM TESTAMENTUM GRAECE (27版) に基づいた対観福音書（授業にて紹介）
・“A CONCORDANCE TO THE GREEK TESTAMENT: According to the Texts of Westcott and Hort, Tishendorf and the English Revisers” W.F. Moulton, A.S. Geden, T&T Clark. Ltd.（各自で購入することを強く勧める。）

＜参考書＞
ギリシャ語ベースで執筆された各福音書の注解書

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
クラスへの参加あるいは試験による評価

専門教育科目選択・聖書神学関係	
新約原典講読Ⅱ	三永　旨従
後期・２単位	＜登録条件＞

＜授業のテーマ＞
前期に学んだ共観福音書の各文書の文体的特徴をふまえた上で、さらに各文書をギリシャ語で読むことの意味を問う。

＜到達目標＞
具体的なテキストにあたり、原典の読解力をつける。

＜授業の概要＞
前期とは別の聖書箇所における各文書の文体的特徴及び、文法を重視しながら理解を深める。

＜履修条件＞
ギリシャ語１、２を修得済みの者

＜授業計画＞
1.　「盲人の癒し」読解（マルコ）
2.　「盲人の癒し」読解（マタイ）
3.　「盲人の癒し」読解（ルカ）
4.　「悪霊追放」読解（マルコ）
5.　「悪霊追放」読解（マタイ）
6.　「悪霊追放」読解（ルカ）
7.　「山上の変貌」読解（マルコ）
8.　「山上の変貌」読解（マタイ）
9.　「山上の変貌」読解（ルカ）
10.　「エルサレム入城」読解（マルコ）
11.　「エルサレム入城」読解（マタイ）
12.　「エルサレム入城」読解（ルカ）
13.　「復活の言及箇所」読解（マルコ）
14.　「復活顕現」読解（マタイ）
15.　「復活顕現」読解（ルカ）

＜準備学習等の指示＞
該当箇所に関して必ず辞書、コンコーダンス等で予習してクラスに出席。

＜テキスト＞
・Nestle-Aland, NOVUM TESTAMENTUM GRAECE（27 版）に基づいた対観福音書
・“A CONCORDANCE TO THE GREEK TESTAMENT: According to the Texts of Westcott and Hort, Tishendorf and the English Revisers” W.F. Moulton, A.S. Geden, T&T Clark. Ltd.（各自で購入することを強く勧める。）

＜参考書＞
ギリシャ語ベースで執筆された各福音書の注解書

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
クラスへの参加あるいは試験による評価

専門教育科目選択・歴史神学関係	
宗教史Ⅱ	小室　尚子
前期・２単位	＜登録条件＞

＜授業のテーマ＞
日本人の世界観を形成する諸宗教について学ぶことにより、日本における福音宣教の課題を探る。

＜到達目標＞
①日本における諸宗教の歴史、内容、日本的展開について知る。②日本という異教社会の中で福音を伝える方法を考える。

＜授業の概要＞
日本における諸宗教の歴史的・日本的展開、およびその内容・形態の概説と、キリスト教伝来後の、キリスト教とそれらの宗教との関係を学ぶ。また歴史的に培われた日本人の伝統的思想に基づいた現代日本人の宗教観を分析・考察し、福音宣教における諸問題の克服への緒を探る。

＜履修条件＞

＜授業計画＞
１．　序論：キリスト教受容における（日本人の）問題点
２．　宗教と世界観の関係／キリスト教の世界観
３．　日本人の世界観
４．　日本宗教史概観
５．　日本人のカミ観念の形成
６．　仏教伝来と「神道」
７．　日本仏教とその特質
８．　「習合」という形態
９．　中国の宗教の日本的展開
10.　民衆の宗教と「日本宗教」
11.　日本キリスト教史概説
12.　日本とキリスト教：日本人の精神的伝統とキリスト教
13.　日本におけるキリスト教の土着化の問題：宣教における諸問題（１）
14.　日本におけるキリスト教の土着化の問題：宣教における諸問題（２）
15.　まとめ：日本の教会の課題と使命

＜準備学習等の指示＞

＜テキスト＞
担当者がプリント教材・資料を用意する。

＜参考書＞
初回授業において参考文献表を配布する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
レポート（期末に提出）による評価
授業への参加意識

専門教育科目選択・歴史神学関係	
教理史Ⅰ	関川　泰寛
前期・２単位	＜登録条件＞　特になし

＜授業のテーマ＞
古代教理史の概論

＜到達目標＞
古代教理史に関わる項目、概念、人名、著作などを正確に理解し、主要な主題について概説的な理解を得る。

＜授業の概要＞
古代の教理史を概説するが、その際一次資料をできる限り読みながら、教理の歴史をたどる。

＜履修条件＞
特になし

＜授業計画＞

１　教理とは何か。ギリシア語圏とラテン語圏での展開
２　教理史の課題
３　教理史から見た使徒教父文書
４　弁証家とロゴス・キリスト論
５　ユスティノスの神学
６　グノーシス主義の教理的な特色とキリスト教の論駁
７　モンタノス主義とマルキオン主義
８　正典と職制理解とキリスト教
９　アレキサンドリア学派―クレメンスとオリゲネス神学の特色
１０　アレイオス論争
１１　アタナシオス神学の特色
１２　ニカイア論争史と信条の成立
１３　カパドキア教父の神学
１４　カルケドンへの道
１５　総括

＜準備学習等の指示＞
教会史Ⅰをよく復習しておくこと。ウォーカー『キリスト教史・古代教会』（ヨルダン社）、ブロックス『古代教会史』（教文館）などを通読しておくこと。

＜テキスト＞
マクグラス『キリスト教思想史入門―歴史神学概説』（キリスト新聞社）を用いる。該当箇所は第一章。オンデマンド出版で入手可能。ただしテキスト無くても受講は可能。

＜参考書＞
その都度指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
出席を大前提として、小論文によって評価する。

専門教育科目選択・歴史神学関係	
教理史Ⅱ	関川　泰寛
後期・２単位	＜登録条件＞ 特になし

＜授業のテーマ＞
古代末期、中世、宗教改革時代の教理史の概説。

＜到達目標＞
古代末期～宗教改革時代の教理史に関わる事項、人名、著書などを正確に理解し、その時代の教理史の主要問題を概説的に整理できるようにする。

＜授業の概要＞
中世と宗教改革時代の教理史を概説する。

＜履修条件＞
特になし

＜授業計画＞

１　アウグスティヌスの生涯と著作、ドナティスト論争とペラギウス論争
２　アウグスティヌスの神学Ⅰ　サクラメント論、恩恵論
３　アウグスティヌスの神学Ⅱ　歴史の神学
４　中世の聖餐論争
５　アンセルムスの神学
６　トマス・アクィナスとボナヴェントゥーラ
７　宗教改革の教理の形成、聖書と伝統の問題
８　ルターの神学
９　カルヴァンの神学Ⅰ「生涯と神学」
１０　カルヴァンの神学Ⅱ「神論、キリスト論、聖霊論」
１１　宗教改革者の恩恵論
１２　宗教改革者のサクラメント論
１３　宗教改革者の教会論
１４　ディスカッション
１５　総括

＜準備学習等の指示＞
教会史ⅡとⅢをよく復習しておくこと。

＜テキスト＞
マクグラス『キリスト教思想史入門―歴史神学概説』第二～三章（キリスト新聞社）を用いる。
テキストなくても受講は可能。

＜参考書＞
その都度指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
出席を大前提として、小論文によって評価する。

専門教育科目選択・実践神学関係	
教会実習Ⅰ	ウェイン・ジャンセン
前期・２単位	＜登録条件＞

＜授業のテーマ＞
教会と伝道者の存在や働きを具体的に考えて学ぶ。

＜到達目標＞
牧会について深く考える。
牧会者・説教者に必要な対人コミュニケーション能力を身につける。

＜授業の概要＞
神学生として教会の奉仕をしていて、また将来牧会者／説教者になるものにとって重要な対人関係と話し方の訓練になる授業。通年で教会に於ける、また教会によるコミュニケーションを課題にして、講義とロールプレイによる実習からなる。逐語記録で学ぶこともある。

＜履修条件＞
履修登録者が４人に満たない場合は、閉講となる可能性があります。

＜授業計画＞
＊前期は教会の文脈における対人コミュニケーションについての講義である。（第１回から第７回まで）
＊前期の前半は教授の講義、後半は受講者のケース・スタディー方式における発表からなる。（第８回から弟１５回まで）

第１回　言語によるコミュニケーションの定義、コミュニケーションの構成要因
第２回　言語によるコミュニケーションの定義、コミュニケーションの構成要因
第３回　対人コミュニケーションにおける魅力と親しみ
第４回　対人コミュニケーションにおける魅力と親しみ
第５回　対人コミュニケーションにおける信頼と指示不信と防御
第６回　対人コミュニケーションにおける信頼と指示不信と防御
第７回　フィードバックとその意義
第８回　ケース・スタディー
第９回　ケース・スタディー
第１０回　ケース・スタディー
第１１回　ケース・スタディー
第１２回　ケース・スタディー
第１３回　ケース・スタディー
弟１４回　ケース・スタディー
第１５回　まとめ

＜準備学習等の指示＞
教師として期待することは、授業の出席を重んじること、ノートをとること、最初から授業に出て、積極的に参加すること。
出席が2／3に満たない者は評価の対象としない。
（ケース・スタディー方式における）発表、書評で評価する。

＜テキスト＞
ヘンリー・J・M・ナウウェン『差し伸べられる手：真の祈りへの三つの段階』（女子パウロ会）

＜参考書＞

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
（ケース・スタディー方式における）発表、逐語記録、書評で評価する。

専門教育科目選択・実践神学関係	
教会実習Ⅱ	ウェイン・ジャンセン
後期・２単位	＜登録条件＞

＜授業のテーマ＞
教会と伝道者の存在や働きを具体的に考えて学ぶこと。

＜到達目標＞
牧会について深く考える。
牧会者・説教者に必要な対人コミュニケーション能力を身につける。

＜授業の概要＞
神学生として教会の奉仕をしていて、また将来牧会者／説教者になるものにとって重要な対人関係と話し方の訓練になる授業。通年で教会に於ける、また教会によるコミュニケーションを課題にして、講義とロールプレイによる実習からなる。逐語記録で学ぶこともある。

＜履修条件＞
履修登録者が４人に満たない場合は、閉講となる可能性があります。

＜授業計画＞

第１回　　スピーチの定義
第２回　　語り手について
第３回　　語り手について
第４回　　聴衆について
第５回　　聴衆について
第６回　　スピーチや説教の作り方について
第７回　　スピーチや説教の作り方について
第８回　　スピーチの発表
第９回　　スピーチの発表
第１０回　スピーチの発表
第１１回　スピーチの発表
第１２回　スピーチの発表
第１３回　スピーチの発表
弟１４回　スピーチの発表
第１５回　まとめ

＜準備学習等の指示＞
教師として期待することは、授業の出席を重んじること、ノートをとること、最初から授業に出て、積極的に参加すること。
出席が 2／3 に満たない者は評価の対象としない。

＜テキスト＞

＜参考書＞

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
スピーチの発表、逐語記録で評価する。

専門教育科目選択・実践神学関係	
教会教育入門ａ	長山　道
前期・２単位	＜登録条件＞

＜授業のテーマ＞　教会教育の理論、歴史、諸問題について学ぶ。

＜到達目標＞　教会教育の基本的な知識や考え方を身につける。

＜授業の概要＞　教会教育に関する基礎的な理論および歴史を概観する。

＜履修条件＞

＜授業計画＞

1　教会教育とは何か
2　信仰を教えることは可能か
3　教師としてのイエス（1）マルコによる福音書
4　教師としてのイエス（2）マタイによる福音書
5　教師としてのイエス（3）ルカによる福音書
6　教師としてのイエス（4）ヨハネによる福音書
7　福音伝道と教会教育
8　道徳教育と教会教育
9　原始キリスト教における教会教育（1）パラドシス
10　原始キリスト教における教会教育（2）パレネーシス
11　ケリュグマとディダケー
12　古代における教会教育
13　中世における教会教育
14　宗教改革期における教会教育（1）ルター
15　宗教改革期における教会教育（2）カルヴァン

＜準備学習等の指示＞

＜テキスト＞　レジュメを配布する。

＜参考書＞　講義中に適宜指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞　学期末にレポートを課す。

専門教育科目選択・実践神学関係	
教会教育入門ｂ	長山　道
後期・２単位	＜登録条件＞

＜授業のテーマ＞　教会教育の理論、諸形態、諸問題について、特にカテケーシスの視点から学ぶ。

＜到達目標＞　カテケーシスに関する基本的な知識を身につける。

＜授業の概要＞　教会教育に関する基礎的な理論および諸形態を概観する。

＜履修条件＞

＜授業計画＞

1　『大教理問答書』『小教理問答書』
2　『キリスト教綱要』『信仰の手引き』『ジュネーヴ教会信仰問答』
3　『ハイデルベルク信仰問答』
4　『ウエストミンスター大教理問答』『ウエストミンスター小教理問答』
5　教理、敬虔、理性
6　教会の中の子ども
7　幼児洗礼
8　教会学校（1）幼少期
9　教会学校（2）青少年期
10　教会における成人教育
11　教会における高齢者
12　カテケーシスから洗礼、信仰告白へ
13　受洗後教育
14　礼拝と教会教育
15　伝道と教育

＜準備学習等の指示＞

＜テキスト＞　レジュメを配布する。

＜参考書＞　講義中に適宜指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞　学期末にレポートを課す。

専門教育科目選択・実践神学関係	
牧会心理学ａ	**ウェイン・ジャンセン**
前期・２単位	＜登録条件＞

＜授業のテーマ＞
牧会における心理学的課題を学ぶこと。牧会者としてのアイデンティティを養成すること。

＜到達目標＞
牧会で直面する様々なケースに正しく対応できるようになる。

＜授業の概要＞
牧会的／心理学的課題について講義をし、ケース・スタディーで実践的に学ぶ。

＜履修条件＞
履修登録者が４人に満たない場合は、閉講となる可能性があります。

＜授業計画＞

第１回　　牧会カウンセリングの歴史と定義
第２回　　宗教と魂
第３回　　人格関係の重要さ
第４回　　傾聴について
第５回　　癒し
第６回　　認識と洞察
第７回　　受容
第８回　　結婚と家庭におけるカウンセリング
第９回　　ケース・スタディー
第１０回　ケース・スタディー
第１１回　ケース・スタディー
第１２回　ケース・スタディー
第１３回　ケース・スタディー
弟１４回　ケース・スタディー
第１５回　まとめ

＜準備学習等の指示＞

＜テキスト＞
ハワード・ストーム『臨死―そして与えられた二度目の人生』　リーハイバレー・ジャパニーズ・ミニストリーズ（2015）

＜参考書＞

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
出席、書評、ディスカションの参加
出席が 2／3 に満たない者は評価の対象としない。

専門教育科目選択・実践神学関係	
牧会心理学ｂ	ウェイン・ジャンセン
後期・２単位	＜登録条件＞

＜授業のテーマ＞
牧会における心理学的課題を学ぶこと。牧会者としてのアイデンティティを養成すること。

＜到達目標＞
ロールプレイを通して、クライアントや牧師の様々な立場から考えることができるようになる。

＜授業の概要＞
牧会的／心理学的課題について講義をし、ロールプレーで実践的に学ぶ。

＜履修条件＞
履修登録者が４人に満たない場合は、閉講となる可能性があります。

＜授業計画＞

			学習テーマ
第１回	オリエンテーション		
第２回	ロールプレー	（一人対一人）	恋愛
第３回	ロールプレー	（一人対一人）	DV
第４回	ロールプレー	（一人対一人）	ひきこもり問題
第５回	ロールプレー	（一人対一人）	自らを赦す事
第６回	ロールプレー	（一人対一人）	相手を赦す事
第７回	ロールプレー	（一人対一人）	職場でのトラブル
第８回	ロールプレー	（一人対一人）	病名告知
第９回	ロールプレー	（一人対一人）	経済的悩み
第１０回	ロールプレー	（一人対一人）	自殺
第１１回	ロールプレー	（一人対一人）	霊的に乾いている
第１２回	ロールプレー	（一人対二人）	結婚相談
第１３回	ロールプレー	（一人対二人）	非行少年[少女]問題
弟１４回	ロールプレー	（一人対二人）	共に暮らしている親との人間関係
第１５回	まとめ		

＜準備学習等の指示＞

＜テキスト＞

＜参考書＞

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
出席、ロールプレーの参加。
出席が 2／3 に満たない者は評価の対象としない。

専門教育科目選択・実践神学関係	
臨床牧会教育ａ	ウェイン・ジャンセン
前期・２単位	＜登録条件＞

＜授業のテーマ＞
病院での実習により、牧会的な心得を身につけること。

＜到達目標＞
自分の牧会者像を明確にする。

＜授業の概要＞
吉祥寺病院（精神科）を実習のフィールドとして、医師、看護師、
ソーシャルワーカー等の協力を得、患者との面接を行い、講師の
スーパーヴィジョンを受けて、実際的にカウンセリングを学ぶ。

＜履修条件＞
講義は登録者２人以上から６人未満で成立する。

＜授業計画＞

＊オリエンテーション

＊院長による精神病理の講義。病院見学。

＊病棟で患者と面接を行い、ケアを与えることを学ぶ。

＊面接記録をスーパーヴァイザー（担当教員）に提出し、コメントをうける。

＊各学生によるケース提出とディスカションを行う。

第１回から第１５回まで、様々な牧会ケアテーマで学び、自分の牧会者像を明確にする。

＜準備学習等の指示＞
遅刻をしないこと。
休まないこと。

＜テキスト＞

＜参考書＞

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
実習の参加度によって評価する。
期末面談によって評価する。

専門教育科目選択・実践神学関係	
臨床牧会教育ｂ	ウェイン・ジャンセン
後期・２単位	＜登録条件＞

＜授業のテーマ＞
病院での実習により、牧会的な心得を身につけること。

＜到達目標＞
自分の牧会者像を明確にする。

＜授業の概要＞
吉祥寺病院（精神科）を実習のフィールドとして、医師、看護師、
ソーシャルワーカー等の協力を得、患者との面接を行い、講師の
スーパーヴィジョンを受けて、実際的にカウンセリングを学ぶ。

＜履修条件＞
臨床牧会教育ａを終えていること。

＜授業計画＞

＊各回、各病棟におもむき、患者と出会い、カウンセリングを行う。
＊面接記録（逐語記録）をつくり、スーパーヴァイザー（担当教員）に提出し、コメントを得、話し合いをする。
＊各自のケース・リポートをし、ケース・スタディをする。

第１回から第１５回まで、様々な牧会ケアテーマで学び、自分の牧会者像を明確にする。

＜準備学習等の指示＞
遅刻をしないこと。
休まないこと。

＜テキスト＞

＜参考書＞

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
実習の参加度によって評価する。
期末面談によって評価する。

専門教育科目選択・実践神学関係	
説教学入門ａ	小泉　健
前期・２単位	＜登録条件＞

＜授業のテーマ＞
聖書から聞くこと、聞いたことを語ることを、体験的に学ぶ。

＜到達目標＞
自分で説教を準備するための土台を身につけること。

＜授業の概要＞
説教準備の各段階を意識しつつ、学生各自が発表・実演を行い、それを素材として討論を重ねながら学ぶ。

＜履修条件＞
ギリシア語初級履修済み、もしくは履修中であること。

＜授業計画＞

第１回　「説教とは何か」を考え始める
第２回　「わたし」について語る
第３回　「わたし」と「聖書」と「福音」
第４回　「わたし」と「あなた」と「主イエス」
第５回　聖書を読む、朗読する
第６回　聖書朗読と説教
第７回　聖書に聞く、黙想する
第８回　聖書を読む、釈義する
第９回　聖書を語り直す（その１）対話中心の物語として
第１０回　聖書を語り直す（その２）一人称で
第１１回　さらに黙想する（その１）説教と教義学
第１２回　さらに黙想する（その２）説教と牧会
第１３回　説教は何をしているか
第１４回　説教を読む
第１５回　言葉が語る、言語以外のものが語る

＜準備学習等の指示＞
説教学を学ぶ者として、また将来の説教者としての「日々聖書を読む生活」

＜テキスト＞
聖書を持参すること。その他は、必要に応じて教室でプリントを配布する。

＜参考書＞
K. バルト、E. トゥルナイゼン『神の言葉の神学の説教学』日本基督教団出版局、1988 年（オンデマンド）
R. ボーレン『説教学Ⅰ』『説教学Ⅱ』日本基督教団出版局（Ⅱはオンデマンド）
その他については授業中に文献表を配布する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業での発表とレポート（説教）によって評価する。

専門教育科目選択・専攻間共同	
アジア伝道論演習ａ	朴　憲郁
前期・２単位	＜登録条件＞　なるべく通年で履修する

＜授業のテーマ＞
キリスト教伝道論：福音伝道の本質と方法と文脈化

＜到達目標＞
アジア諸国への福音伝道は、誰がどのような展望と使命によって推進されたのか、また伝道された非キリスト教諸国の人々は独自の文化・宗教・言語圏の中でどのように受容し、反応したのかを知る。それをこのたびは、２０世紀後半の代表的宣教学者の伝道理解を学ぶ。

＜授業の概要＞
伝道(宣教)学とは何かを序論として解説した後、ヒンドゥー教国のインドで長年宣教活動にたずさわったイギリス出身の宣教師、レスリー・ニュービギンの「宣教学」を一つ一つ学ぶ。

＜履修条件＞
特になし

＜授業計画＞

１.序説１－伝道（宣教）学とは何か－

２.序説２－アジア・キリスト教伝道論－

３．序説３－キリスト論的三位一論における諸宗教との対話－

４．序説３－韓国におけるキリスト論的三位一論の展開の試みとその批判

（以下、テキストに従って、５～１４まで学生発表と講義）

５．議論の背景

６．権威の問題

７．三位一体の神の宣教

８．御父の御国を宣べ伝えること－信仰としての宣教－

９．御子の生を分かち合うこと－愛としての宣教－

10. 聖霊の証しを担うこと－希望としての宣教－

11. 福音と世界の歴史

12. 神の正義のための行動としての説教

13. 教会成長、改宗、文化

14. 諸宗教の中の福音

15. アジア伝道の反省と展望（講義）

＜準備学習等の指示＞
指定テキストの中から、毎授業で扱う範囲の箇所を事前に読んで理解を深めておくこと。

＜テキスト＞
レスリー・ニュービギン、『宣教学入門』、鈴木脩平訳、日本キリスト教団出版局編、2010 年。

＜参考書＞
1. 朴憲郁(Heon-Wook Park)、Perspective of the Northeast Asian Mission from the Viewpoint of Pauline Theology - Focused on Christology -,『神学』７２号、東京神学大学神学会、2010 年、教文館、143～166 頁

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業時の発表、参加度、学期末レポートなどによって評価する。
出席を２／３以上満たした者を評価の対象とする。

専門教育科目選択・専攻間共同	
アジア伝道論演習ｂ	朴　憲郁
後期・２単位	＜登録条件＞

＜授業のテーマ＞
アジア伝道論の特質とその展開

＜到達目標＞
キリスト教は学問理論として研究・考察され得るが、何よりも歴史の中に働く神の啓示たるイエス・キリストの福音の力として、実践的行為において存続する。それは、キリスト共同体形成と福音伝道の形をとる。この福音伝道を理論的、歴史的に考察し、それを特にアジア的文脈において行うことを目指す。

＜授業の概要＞
アジア伝道論の特質と課題を序論として解説した後、一国に絞らず、むしろテキストに沿って、東北・東南アジア諸国におけるキリスト教と伝道の足跡を、その文化と歴史と共に概観する。そのことが、日本伝道の特色とあり方を自覚・反省する素材となることを願う。

＜履修条件＞
特になし

＜授業計画＞
1. 序説－アジア・キリスト教伝道論－
（以下、３～１４まで学生発表と講義）
2. 韓国のキリスト教　初期とカトリック教会
3. 韓国のキリスト教　プロテスタント教会
4. 中国のキリスト教　初期とカトリック教会
5. 中国のキリスト教　プロテスタント教会
6. 台湾のキリスト教　初期とカトリック教会
7. 台湾のキリスト教　プロテスタント教会
8. 香港のキリスト教
9. フィリピンのキリスト教、その１
10. フィリピンのキリスト教、その２
11. タイのキリスト教
12. マレーシアのキリスト教
13. ミャンマー、カンボジアのキリスト教
14. インドネシアのキリスト教
15. アジア伝道の反省と展望（まとめ）

＜準備学習等の指示＞
指定テキストの中から、毎授業で扱う範囲の箇所を事前に読んで理解を深めておくこと。

＜テキスト＞
『アジア・キリスト教の歴史』、日本基督教団出版局編、1991 年 初版、重版。今絶版のため、プリント配布など、授業時にテキスト使用について指示する。

＜参考書＞
1. 朴論文、「日本プロテスタント伝道の一考察－アジア伝道の視点から－」、『神学』、71 号、2009 年 12 月、89～111 頁、2. 『アジア・キリスト教史[１]』、1989 三版、3. 『アジア・キリスト教史[２]』、1985 年 初版、重版、教文館。その他、授業時に随時紹介する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業時の発表、参加度などによって評価する。
出席を２／３以上満たした者を評価の対象とする。

専門教育科目選択・古典語	
ラテン語Ⅰ	小堀　馨子
前期・２単位	＜登録条件＞　なるべく通年で登録する。

＜授業のテーマ＞
ラテン語文法の修得(I)

＜到達目標＞
①　ラテン語の文法（完了形まで）を修得する。
②　前期で履修した文法と語彙を用いたラテン語の文章が読める（音読及び読解）ようになる。

＜授業の概要＞
・ 教科書に即して､ラテン語文法を説明・解説する。
・ 履修学生には変化表の暗記と練習問題が課題として課される。

＜履修条件＞
・学部 3 年次以上、通年で履修することが望ましい。

＜授業計画＞
・教科書各課の文法事項の概略を授業内に説明し、宿題として課された練習問題を解説する。
・ 各課の変化表の暗記を宿題として課す。
・ 時折確認用の小テストを実施する。

授業回	授業内容（予定）	授業回	授業内容（予定）
1	教科書：第Ⅰ課・第Ⅱ課	9	教科書：第Ⅹ課
2	教科書：第Ⅲ課	10	教科書：第XI 課
3	教科書：第Ⅳ課	11	教科書：第ⅩⅡ課
4	教科書：第Ⅴ課	12	教科書：第ⅩⅢ課
5	教科書：第Ⅵ課	13	教科書：第ⅩⅥ課
6	教科書：第Ⅶ課	14	教科書：第ⅩⅤ課
7	教科書：第Ⅷ課	15	前期のまとめと総括
8	教科書：第Ⅸ課		

＜準備学習等の指示＞
・ 毎回課される変化表の暗記と練習問題に取り組むこと。
・ 宿題以外にも復習に励むこと。

＜テキスト＞
・土岐健治・井坂民子「楽しいラテン語」(教文館)。各自購入すること。

＜参考書＞
・授業内で適宜指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
・毎回の授業での課題への取り組みと期末試験の成績を総合的に考慮して評価する。
・出席回数が 2/3 に満たない場合は最終試験を受験することができない。

専門教育科目選択・古典語	
ラテン語Ⅱ	小堀　馨子
後期・２単位	＜登録条件＞　ラテン語Ⅰを履修済みであること。

＜授業のテーマ＞
ラテン語文法の修得(II)

＜到達目標＞
①　ラテン語の文法を一通り修得する。
②　辞書を用いて、ラテン語の文章が読める（音読及び読解）ようになる。

＜授業の概要＞
・ 教科書に即して､ラテン語文法を説明・解説する。
・ 履修学生には変化表の暗記と練習問題が課題として課される。

＜履修条件＞
・学部３年次以上、通年で履修することが望まれる。
（ただし、以前にラテン語Ⅰを履修済みであれば後期のみの履修も可。）

＜授業計画＞

・教科書各課の文法事項の概略を授業内に説明し、宿題として課された練習問題を解説する。
・ 各課の変化表の暗記を宿題として課す。
・ 時折確認用の小テストを実施する。

授業回	授業内容（予定）	授業回	授業内容（予定）
1	教科書：第 XVI課	9	教科書：第 XXIV課
2	教科書：第 XVII課	10	教科書：第 XXV課
3	教科書：第 XVIII課	11	教科書：第 XXVI課
4	教科書：第 XIX課	12	教科書：第 XXVII課
5	教科書：第 XX 課	13	教科書：第 XXVIII課
6	教科書：第 XXI 課	14	教科書：第 XXIX課
7	教科書：第 XXⅡ課	15	後期のまとめと総括
8	教科書：第 XXⅢ課		

＜準備学習等の指示＞
・ 毎回課される変化表の暗記と練習問題に取り組むこと。
・ 宿題以外にも復習に励むこと。

＜テキスト＞
・土岐健治・井坂民子「楽しいラテン語」(教文館)。各自購入すること。

＜参考書＞
・授業内で適宜指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
・毎回の授業での課題への取り組みと期末試験の成績を総合的に考慮して評価する。
・出席回数が 2/3 に満たない場合は最終試験を受験することができない。

教職課程科目・教職に関する科目	
教職概論	朴　憲郁
後期・２単位	＜登録条件＞

＜授業のテーマ＞
教師とは何か

＜到達目標＞
専門職としての学校教師となるための実践的見識の修得方法、および制度論的課題を正しく把握することを目指す。

＜授業の概要＞
今日の学校教育の課題の一つは、教師の資質と像をめぐる問題であろう。どういう教育理念と教師像を目指すべきかという基本的な主題を、教師に関する理解の歴史的変遷、文化、見識、教育課題などに分類して考察していく。

＜履修条件＞
特にない

＜授業計画＞

1. 教師への関心
2. 教職の専門性をめぐって
3. 教師文化の規範
4. 専門家の文化形成
5. 教師の実践的見識
6. 教師の知識と教育学的推論
7. 事例研究と語りの様式
8. 教師教育の課題
9. 生涯学習
10. 専門職化
11. 教員免許更新の教師養成について
12. 神学大学における教師養成理念
13. キリスト教学校での教師像
14. 神学大学における教師養成理念
15. 今後の課題

＜準備学習等の指示＞
毎回の授業において、前半は担当講師の講義をし、後半は指定テキストの分担箇所の学生発表と意見交換がなされる。次週に扱うテキスト箇所を各自あらかじめ読んで理解しておき、意見を交し合う。

＜テキスト＞
佐藤学、『教師というアポリア＝反省的実践』、世織書房、1996 年

＜参考書＞
１．長尾十三二、『教師教育の課題』、玉川大学出版部、1994 年
２．近藤邦夫、『教師と子どもの関係づくり』、東京大学出版会、1995 年

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業時の発表、参加度、期末レポートなどによって評価する。
出席を２／３以上満たした者を評価の対象とする。

教職課程科目・教職に関する科目	
心理発達と教育	**森　真弓**
前期・２単位	**＜登録条件＞**

＜授業のテーマ＞
人生をライフステージごとに見つめ、教育者として把握しておきたい発達課題について学ぶ。
教育者になるための心理的レジネスや自己対応スキルにつながることをも目的としている。

＜到達目標＞
学生は、人の発達段階における課題を整理し、教育現場における不適応・問題行動の背景にある心理を発達心理学・臨床心理学の視点から理解する力を身につける。思春期（青年期前期）の理解に「乳幼児期の発達の視点」がいかに重要かを学び、生徒理解さらには人間理解・自分理解を深める。また近年学校現場で多く見られる「発達障害」についても基本的知識を獲得する。

＜授業の概要＞
各ステージの課題を学ぶと共に、乳児期では精神病理に、幼児期では土居健郎の甘え理論にもふれる。
青年期の‘理想主義’や‘禁欲主義’の心理から発展させ、「キリスト者の心理特性」についても考察する。
成人期･中年期では、生徒の保護者理解をそのライフステージの視点から深めるとともに、この時期の教育者の側の課題を整理しておく。うつ病と自殺についても学ぶ。老年期では認知症にも触れ、高齢者がよりよく生きるための支援についても共に考える。成人期以降については職場の上司理解、同僚理解にもつながるような内容にしたい。
学生からの質問を含む「レスポンスペーパー」や随時設定する「ディスカッション」等を通じて学習を進めていく。また、教育者自身の自己理解を深めるため、査定・ワークを３回に分けて実施する。

＜履修条件＞　特にない

＜授業計画＞

1　心とは――――――心を学ぶことの意義
2　心理発達基礎理論(1)――――エリクソン 他
3　心理発達基礎理論(2)――――フロイト、ピアジェ　他
4　自分自身を知るⅠ――――――――――――――――エゴグラム他（心理テスト演習）
5　乳児期――――――クライン、精神病理・パーソナリティ障害 等
6　幼児期――――――マーラー、甘え理論 等
7　児童期――――――児童期課題、発達障害
8　思春期――――――乳幼児期との比較をとおして生徒を理解する
9　青年期(1)――――――青年期のライフイベント、現代の青年
10　青年期(2)――――――キリスト者の心理特性、青年ルター
11　自分自身を知るⅡ――――――――――――――――信仰と心理
12　成人期――――――成人期の区分と課題、男性性と女性性（母性と父性）
13　中年期――――――うつと自殺、教師のうつ病 等
14　老年期――――――「統合 対 絶望」、認知症 他
15　自分自身を知るⅢ――――――――――――――――まとめ（ディスカッション）

＜準備学習等の指示＞　なし

＜テキスト＞　授業中に資料を配布する。

＜参考書＞　授業の中で紹介する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
出席と授業への参加状況（レスポンスペーパーやディスカッション）による評価、および期末レポート（1 回）により評価する。

教職課程科目・教職に関する科目	
教育基礎論Ⅰ	長山　道
前期・２単位	＜登録条件＞

＜授業のテーマ＞　教育の理念、教育に関する歴史、思想について学ぶ。

＜到達目標＞　教育原理、教育思想史の基本的な知識を身につける。

＜授業の概要＞　教育本質論を扱った後、その源流となる西洋教育思想史をたどり、さらに日本における西洋教育思想の受容とその後の教育史を概観する。

＜履修条件＞

＜授業計画＞

1　教育とは何か
2　教育の必要性、可能性と限界
3　古代ギリシアの教育観
4　中世からルネサンス、宗教改革にかけての教育観の変遷
5　ルターの教育論
6　コメニウスの教育論
7　ロックの教育論
8　ルソーの教育論
9　カントの教育論
10　ペスタロッチの教育論
11　シュライアマハーの教育論
12　フレーベルの教育論
13　ヘルバルトの教育論
14　デューイの教育論
15　近代以降の日本における教育の展開

＜準備学習等の指示＞

＜テキスト＞　レジュメを配布する。

＜参考書＞　講義中に紹介する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞　学期末にレポートを課す。

教職課程科目・教職に関する科目	
教育基礎論Ⅱ	長山　道
後期・２単位	＜登録条件＞

＜授業のテーマ＞　教育に関する社会的、制度的、経営的事項について学ぶ。

＜到達目標＞　教育社会学、教育制度についての基本的な知識を身につける。

＜授業の概要＞　学校社会学的に見た教育、社会における教育、教育制度の原理と基盤、および学校経営をめぐる基本問題について解説する。

＜履修条件＞

＜授業計画＞

1　学校の社会的機能
2　教育課程
3　学校文化と社会化
4　隠れたカリキュラム
5　地域社会と教育
6　家庭における教育
7　現代社会と教育
8　教育制度
9　教育法、教育行政
10　世界の学校制度
11　現代日本における学校制度
12　教職
13　組織としての学校
14　学校経営
15　学級経営

＜準備学習等の指示＞

＜テキスト＞　レジュメを配布する。

＜参考書＞　講義中に紹介する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞　発表と学期末のレポートにより評価する。

教職課程科目・教職に関する科目	
宗教科教授法Ｂａ	小泉　健
前期・２単位	＜登録条件＞　通年で登録すること

＜授業のテーマ＞
キリスト教学校（中学校・高等学校）における宗教科（聖書科）の指導法を学ぶ。

＜到達目標＞
宗教科（聖書科）の授業指導案を作成し、実際の教授を行えるようになること。

＜授業の概要＞
前期は宗教科における教師の役割、授業の意味と方法を学ぶ。

＜履修条件＞

＜授業計画＞

第１回　キリスト教教育論（その１）神学的人間論
第２回　キリスト教教育論（その２）信仰と教育
第３回　教師論（その１）聖書科教師と教務教師
第４回　教師論（その２）聖書科教師の使命と役割
第５回　聖書科の授業（その１）教科としての聖書科
第６回　聖書科の授業（その２）聖書科の授業
第７回　聖書科の授業（その３）聖書科のカリキュラム
第８回　聖書科の授業（その４）聖書科における聖書
第９回　授業の展開（その１）教理教育と道徳教育
第１０回　授業の展開（その２）問題中心の授業
第１１回　授業の展開（その３）聖書的授業、象徴授業
第１２回　授業の展開（その４）文化形成
第１３回　授業の方法（その１）学習指導案の作成
第１４回　授業の方法（その２）教材の開発
第１５回　授業の方法（その３）学習形態の工夫、授業展開を導く教授行為

＜準備学習等の指示＞

＜テキスト＞

＜参考書＞
学校伝道研究会編『教育の神学』ヨルダン社、1987 年（絶版）
『キリスト教学校教育の理念と課題』キリスト教学校教育同盟、1991 年（絶版）

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
学期末のレポート（学習指導案）によって評価する。

教職課程科目・教職に関する科目	
宗教科教授法Ｂｂ	小泉　健
後期・２単位	＜登録条件＞　通年で登録すること

＜授業のテーマ＞
キリスト教学校（中学校・高等学校）における宗教科（聖書科）の指導法を学ぶ。

＜到達目標＞
宗教科（聖書科）の授業における教授の技能を向上すること。

＜授業の概要＞
後期は学生による模擬授業とそれを踏まえての共同の討論を通して授業の進め方を学ぶ。

＜履修条件＞

＜授業計画＞

第１回　キリスト教学校教育の歴史
第２回　聖書科授業の準備
第３回　模擬授業（その１）　いやし（マルコ 2 章 1～12 節）
第４回　模擬授業（その２）　弟子になる（マタイ 4 章 18～22 節）
第５回　模擬授業（その３）　愛のおきて（マルコ 12 章 28～34 節）
第６回　模擬授業（その４）　タレントを活かす（マタイ 25 章 14～30 節）
第７回　模擬授業（その５）　パン五つと魚二匹（ルカ 9 章 10～17 節）
第８回　模擬授業（その６）　祈り（ルカ 11 章 1～13 節）
第９回　模擬授業（その７）　罪を犯した者へのまなざし（ヨハネ 8 章 1～11 節）
第１０回　模擬授業（その８）　なお一つ欠けているもの（マルコ 10 章 17～31 節）
第１１回　模擬授業（その９）　空の鳥、野の花（マタイ 6 章 25～34 節）
第１２回　模擬授業（その１０）赦す（マタイ 18 章 21～35 節）
第１３回　模擬授業（その１１）クリスマス（ルカ 2 章 1～21 節）
第１４回　模擬授業（その１２）十字架（マルコ 15 章 1～47 節）
第１５回　模擬授業（その１３）復活（マルコ 16 章 1～8 節）

模擬授業においては、毎回一名の学生が 50 分の授業を行う。
その後、行われた授業を素材として、全体で討論を行う。

＜準備学習等の指示＞

＜テキスト＞

＜参考書＞
後藤田典子『ジュニアのための聖書入門』新教出版社、2003 年。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業中の模擬授業発表および授業への参加で評価する。
（受講者が多くて発表できない場合は、授業の展開例のレポートで評価する。）

教職課程科目・教職に関する科目	
道徳指導法	**菱刈　晃夫**
後期・２単位	**＜登録条件＞**

＜授業のテーマ＞　道徳教育の理論を押えたうえで、道徳の指導法や道徳教育と関わる諸問題について学ぶ。

＜到達目標＞　①道徳教育の理論について理解し、説明・記述できる。②道徳の理論に基づいて道徳の授業を立案して授業案を作成し、模擬授業ができる。③道徳教育と関わる諸問題について、説明・記述できる。

＜授業の概要＞　現代日本社会における道徳および人間のあり方を捉えた上で、学校教育における「道徳の時間」(道徳科)にできること、できないことを見極め、その具体的指導法について学ぶ。

＜履修条件＞

＜授業計画＞
第 1 回　道徳への問い（わたしたちにとっての道徳）
　現代社会における道徳のあり方について、その状況を直視する。
第 2 回　道徳と人間
　道徳と人間存在との関係について、古今東西の歴史を振り返る。
第 3 回　道徳の語義
　道徳という言葉のもつ意味について、深く探る。
第 4 回　道徳性の育み
　道徳はモラリティとして教えられるものではなく、育むものであることを理解する。
第 5 回　学校教育のなかの道徳の時間（1）
　学校教育における「道徳の時間」の位置づけを、歴史を振り返りつつ確認する。
第 6 回　学校教育のなかの道徳の時間（2）
　学習指導要領道徳編について、概略を把握し指導案の基本形を学ぶ。
第 7 回　学校教育のなかの道徳の時間（3）
　学習指導要領と指導案に基づいた道徳教育の実践例を検討する。
第 8 回　学校教育のなかの道徳の時間（4）
　学習指導要領に基づいた道徳授業の模擬授業体験をする。
第 9 回　学校教育のなかの道徳の時間（5）
　道徳教育の模擬授業実践をさらに展開する。
第 10 回　心の教育
　心の教育について、理解を深める。
第 11 回　現代の道徳教育（1）
　現代日本における道徳教育のさまざまな実践例を見る。
第 12 回　現代の道徳教育（2）
　世界における道徳教育の実践例を見る。
第 13 回　宗教教育と道徳教育
　宗教教育、とくにキリスト教教育と道徳教育との関係について、理解を深める。
第 14 回　霊性の涵養をめぐって
　スピリチュアリティの涵養について、とくに学習指導要領 4 の視点とのかかわりを考える。
第 15 回　まとめ
　これまでの授業を振り返る。

＜準備学習等の指示＞
下記テキスト、とくに『講義　教育原論』を受講前に全員必ず購入して学習に備えること。

＜テキスト＞
宮野安治・山﨑洋子・菱刈晃夫『講義　教育原論』(成文堂、2011 年)。文科省『中学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編』。各自で購入すること。

＜参考書＞
菱刈晃夫『習慣の教育学――思想・歴史・実践――』(知泉書館、2013 年)

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
学期中の小課題と期末のレポートによる。
評価にあたっては、「共通評価指標（1)」記載項目中の①④⑤を特に重視する。

教職課程科目・教職に関する科目	
特別活動指導法	山口　博
後期・２単位	＜登録条件＞

＜授業のテーマ＞
キリスト教を標榜する中学校・高等学校の教育課程（カリキュラム）における特別活動の位置を学ぶ。

＜到達目標＞　受講生が教育課程（カリキュラム）における特別活動の意義を踏まえ、赴任校において学校礼拝等の実際に当たれることを到達目標とする。

＜授業の概要＞
学習指導要領の主旨に沿った中学校・高等学校の教育課程（カリキュラム）の意義と編成を、現状を踏まえつつ全体的に把握したい。その上で特別活動のあり方を諸局面に即して検討し、それらの集団活動を通して、生徒の個性と人間性を育成する道筋を明らかにしていく。授業後半に学校礼拝奨励のプレゼンを課題とする。

＜履修条件＞
教職免許状取得希望者

＜授業計画＞

１．序論　キリスト教を標榜する中学校・高等学校の教育課程（カリキュラム）における特別活動の位置
２．教育課程（カリキュラム）の意義
３．教育課程（カリキュラム）の編成と現状
４．特別活動の目標
５．ホーム・ルーム活動の意義と特質
６・学校行事の意義と特質
７．学校行事の現状分析
８．学校礼拝の意義と特質　（これ以降の授業後半において学校礼拝奨励のプレゼンを全員に課す）
９．　式典について
10.　生徒会活動について
11.　クラブ活動について
12.　ボランティア活動について
13.　国際交流について
14.　総合的な学習について
15.　総括

＜準備学習等の指示＞

＜テキスト＞
『高等学校学習指導要領解説　特別活動編』文部科学省

＜参考書＞
『キリスト教学校に勤めるということ』―現場の声―　キリスト教学校教育同盟　監修

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
レポート及び試験と授業への参加姿勢によって評価

教職課程科目・教職に関する科目	
教育の方法と情報技術Ⅰ	石部　公男
前期・２単位	＜登録条件＞通年でⅠとⅡの履修が望ましいが学期ごとの登録も可能

＜授業のテーマ＞　学生がパソコンやタブレット等の情報機器を使用し幅の広い授業が展開できるような能力を身につける。

＜到達目標＞　学生が教師となった場合、中学、高校の授業でパソコンやスマートフォンなどの情報機器を適切に使用し、多角的な授業が行える能力が得られるようにする。

＜授業の概要＞　上記目標達成のため、パソコンを利用した授業の教材作成のを行い、その内容について教師だけでなく学生同士の講評も授業中に取り入れ、学生相互の刺激を高める授業の展開。プレゼンテーションソフトを主として使用。一部簡単なプログラム言語も扱う。

＜履修条件＞　特にないが、基本的なパソコン操作、特に office ソフトが一応使用できるか、または「情報基礎」を履修していることを前提とした授業となる。

＜授業計画＞
1、日本の中学校、高等学校教育にほける授業の位置づけ。
2、教育法規と学習指導要領。教科と科目。選択科目と必修科目の位置づけ。
3、学校教育における年間授業計画と指導案。
4、具体的指導案の作成。
5、パソコンと情報機器（スマートフォン、タブレット、プロジェクターについて）
6、プレゼンテーションソフトの概要と HTML
7、パソコンを使用した教材作成　　その 1
8、パソコンを使用した教材作成　　その 2
9、パソコンを使用した教材作成　　その 3
10、パソコンを使用した教材作成　その 4
11、パソコンを使用した教材作成　その 5
12、パソコンを使用した教材作成　その 6
13、パソコンを使用した教材作成　その 7
14、パソコンを使用した教材作成　その 8
15、パソコンを使用した教材作成　その 9　とまとめ

＜準備学習等の指示＞　パソコンのプレゼンテーションソフトを含むオフィスソフトの扱いに慣れていない学生は事前に基本的また基礎的取扱いに習熟しておくように。

＜テキスト＞　特に使用しない・

＜参考書＞　石部公男他著「情報リテラシー概論：コンピュータの利用とネットワーク環境」ヴェリタス書房

＜学生に対する評価（方法・基準）＞　日常の授業での評価と提出物。平常点 50%、提出物 50%

教職課程科目・教職に関する科目	
教育の方法と情報技術Ⅱ	石部　公男
後期・２単位	＜登録条件＞通年でⅠとⅡの履修が望ましいが学期ごとの登録も可能

＜授業のテーマ＞　学生がパソコンやタブレット等の情報機器をつかい幅の広い授業が展開できるような能力を身に着ける。

＜到達目標＞　学生が,中学、高校の授業でパソコンやスマートフォンなどの情報機器を使用して多角的な授業が行える能力を得られるようパソコンを使用した教材作成ができるようにする。

＜授業の概要＞　上記目標達成のため、パソコンを利用した授業の教材作成のを行い、その内容について教師だけでなく学生同士の講評も授業中に取り入れ、学生相互の刺激を高める授業。プレゼンテーションソフトを主として使用。一部簡単なプログラム言語も扱う。

＜履修条件＞　特にないが、基本的なパソコン操作、特に office ソフトが一応使用できるか、情報基礎を履修していることを前提とした授業となる。

＜授業計画＞
1、指導案（教案）の作成と学習指導要領
2、プレゼンテーションソフトを使用した教材作成・・・1
3、プレゼンテーションソフトを使用した教材作成・・・2
4、プレゼンテーションソフトを使用した教材作成・・・3
5、プレゼンテーションソフトを使用した教材作成・・・4
6、ホームページを含む静止画及び動画の取り込みと著作権
7、ネット上のセキュリティ
8、HTML による教材作成・・・1
9、HTML による教材作成・・・2
10、HTML による教材作成・・・3
11、HTML による教材作成・・・4
12、HTML による教材作成・・・5
13、HTML による教材作成・・・6
14、HTML による教材作成・・・7
15、IoT と学校教育およびまとめ

＜準備学習等の指示＞　パソコンのプレゼンテーションソフトを含むオフィスソフトの扱いに慣れていない学生は事前に基本的また基礎的取扱いに習熟しておくように。

＜テキスト＞　特に使用しない

＜参考書＞　石部公男他著「情報リテラシー概論：コンピュータの利用とネットワーク環境」ヴェリタス書房

＜学生に対する評価（方法・基準）＞　日常の授業での評価と提出物。平常点 50%、提出物 50%

教職課程科目・教職に関する科目	
教育的指導と相談の研究Ⅰ	山本　与志春
前期・２単位	＜登録条件＞

＜授業のテーマ＞
生徒指導・進路指導の目的・内容・方法について理解を深め、より良い指導法を探求する。

＜到達目標＞
① 生徒指導・進路指導の目的・内容・方法を覚える。②現在の生徒指導の問題と対応を理解する。③聖書科教師として生徒との関わり方を考察し、あるべき教師像を形成する。

＜授業の概要＞
生徒指導と進路指導の目的・内容・方法をテキストや参考書を通して学び、具体的な事例研究や協議によって生徒理解のあり方とより良い指導法を探求する。キリスト教教育を担う者としての生徒指導・生徒理解・進路指導のあり方を考察する。

＜履修条件＞
教職課程履修者

＜授業計画＞
第 1 回　授業内容のガイダンス/生徒指導の今日的課題
第 2 回　生徒指導の意義と課題キリスト教教育が/目指す人間像
第 3 回　生徒指導と教育課程/道徳教育との関連
第 4 回　生徒指導と組織と計画/児童虐待
第 5 回　生徒理解の意味と内容/摂食障害
第 6 回　生徒指導の方法/集団指導/発達障害
第 7 回　生徒指導の方法/個別指導/自傷・自死
第 8 回　生徒指導の方法/家庭・関係機関との連携
第 9 回　問題行動の理解と指導/いじめ
第 10 回　問題行動の理解と指導/不登校
第 11 回　問題行動の理解と指導/非行
第 12 回　問題行動の理解と指導/暴力
第 13 回　問題行動の理解と指導/性非行
第 14 回　進路指導の目的/生きる目的
第 15 回　総括

＜準備学習等の指示＞

＜テキスト＞
文部科学省『生徒指導提要』　教育図書（本体 276 円）

＜参考書＞
教師養成研究会　教職課程講座 7『生徒指導の理論と方法』３訂版　学芸図書株式会社（本体 1,200 円）

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業後の小レポート 30%　事例研究発表 30%　協議での積極性・貢献度 10%　総括レポート 30%

教職課程科目・教職に関する科目	
教育的指導と相談の研究Ⅱ	森　真弓
後期・２単位	＜登録条件＞

＜授業のテーマ＞
思春期・青年期前期の発達上の特質や悩みの実態に即したカウンセリングの在り方・方法、また現状を学ぶ。
教員としての教育相談・カウンセリングの資質の向上をめざす内容になっている。

＜到達目標＞
学生は、教育相談の具体的なプロセスや教師-生徒の関係性の重要性を理解し、学校現場で直面する様々な問題に対応できる力（知識面・実践面）を身につける。受容・共感・自己一致というカウンセリングの基本を、ロールプレイによって教育場面に活かせるように練習をする。脚本制作や省察によって自分自身の自己一致の状態や獲得した知識の振り返りをする。

＜授業の概要＞
前半は、教育相談について、教師と生徒の関係性について、教師によるカウンセリングの基本について学ぶ。保護者面談の持ち方や対応についても教育相談の視点から学ぶ。キリスト教教育の観点に立ったカウンセリングの在り方もそれぞれの場面で考えたい。
後半（事例研究①～⑥）は、学生によって作成される脚本をもとにロールプレイを実施する。１～７の講義内容が事例（脚本）に活かされることを目指して前半の講義を受けて欲しい。さらにロールプレイに対するディスカッションを通し、実施事例に省察を加えるという形で研究を深める。全員が積極的に意見を出し合っていく。

＜履修条件＞　教職課程履修者

＜授業計画＞
1　講義内容のガイダンスと理想の教師像の発表
2　教育相談とは（その意義と生徒指導との関連）
3　「教師―生徒」の人間関係
4　教師によるカウンセリングの基本 (1)―――カウンセリングマインド 等
5　教師によるカウンセリングの基本 (2)―――受容・共感・自己一致
6　教師によるカウンセリングの基本 (3)―――具体的な技法
7　保護者対応（面談のポイント、脚本の作成例）
8　事例研究①―――不登校
9　事例研究②―――いじめ
10　事例研究③―――暴力行為・非行
11　事例研究④―――依存・自傷・摂食障害
12　事例研究⑤―――発達障害
13　事例研究⑥―――性の問題
14　性教育を考える：ディスカッション
15　まとめ〈事例研究のまとめ〉

＜準備学習等の指示＞
ロールプレイの準備に当たっては、テーマについての下調べと問題意識の高い脚本を期待する。

＜テキスト＞　授業中に資料を配布する。

＜参考書＞　授業の中で紹介する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
レスポンスペーパー（50%）、事例研究の脚本（50%）

教職課程科目・教職に関する科目	
教職実践演習（中・高）	小泉　健
後期・２単位	＜登録条件＞　教職課程の最終段階で履修する

＜授業のテーマ＞
教職課程全体を振り返り、不足している知識、技能を補い、教員として必要な資質能力を養う。

＜到達目標＞
教職に関する科目と教科に関する科目とが統合され、学校教員として必要な資質能力として結実すること。

＜授業の概要＞
各自がで補うべきテーマを設定し、役割演技、事例研究、模擬授業などを行いながら、教員としての資質能力を実践的に確認する。

＜履修条件＞
第１回の授業に、記入済みの「履修カルテ」を持参すること。
教育実習を終えているか、もしくは本年度に教育実習を行う者であること。

＜授業計画＞

第１回　教職課程の振り返りと課題の発見
第２回　キリスト教学校の使命と宗教主任の役割
第３回　カリキュラムの構想
第４回　授業をする力
第５回　教師としての話し方・聞き方
第６回　聖書教育、道徳教育、こころの教育
第７回　教会との協力
第８回　生徒理解
第９回　個々の子どもの特性や状況への対応
第１０回　いじめや不登校への対応
第１１回　学級経営
第１２回　他の教職員との協力
第１３回　保護者会、保護者への伝道
第１４回　学校礼拝の形成
第１５回　学校行事での役割

＜準備学習等の指示＞

＜テキスト＞
必要に応じて、授業時にプリントを配布する。

＜参考書＞

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
演習における発表と参加によって評価する。

教職課程科目・教職に関する科目	
教育実習Ⅰ	朴　憲郁 小泉　健
通年・５単位	＜登録条件＞　通年で登録のこと

＜授業のテーマ＞
聖書科授業の実地研究

＜到達目標＞
聖書科授業を中心とする教師としての実践的教授力、指導力を養う。

＜授業の概要＞
中学校の教員免許状を取得するための最終科目で、キリスト教学校での教育実地研究を行う。

＜履修条件＞
実習年度の前年度の予備登録時に教育基礎論Ⅰ/Ⅱと宗教科教授法と「教科に関する科目」中、所定の科目を履修済みの人だけが登録・履修できる。また、教育実習の実施に伴って、本大学で行う「事前・事後指導」の受講（４月と１１月予定）を欠席すると、単位は取得できない。

＜授業計画＞
１．実習年度に、実習校で４週間（実質３週間)、授業を中心とした教育実習を受ける。

２．実習年度に、実習期間をはさんで、その前後に各６時間に及ぶ「事前指導」と「事後指導」を行う。

＜準備学習等の指示＞
事前と事後に、それぞれ掲示板にて指示を出す。必ず出席すること。

＜テキスト＞
特に指定しない。随時、プリントを配布する。

＜参考書＞
授業時に紹介する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
教育実習成績報告書と「事前・事後指導」出席等を総合的に評価する。

教職課程科目・教職に関する科目	
教育実習Ⅱ	朴　憲郁 小泉　健
通年・３単位	＜登録条件＞　通年で登録のこと

＜授業のテーマ＞
聖書科授業の実地研究

＜到達目標＞
聖書科授業を中心とする教師としての実践的教授力、指導力を養う。

＜授業の概要＞
高等学校の教員免許状を取得するための最終科目で、キリスト教学校での教育実地研究を行う。

＜履修条件＞
実習年度の前年度の予備登録時に教育基礎論Ⅰ/Ⅱと宗教科教授法と「教科に関する科目」中、所定の科目を履修済みの人だけが登録・履修できる。また、教育実習の実施に伴って、本大学で行う「事前・事後指導」の受講（４月と１１月予定）を欠席すると、単位は取得できない。

＜授業計画＞

＜授業計画＞

１．実習年度に、実習校で４週間（実質３週間)、授業を中心とした教育実習を受ける。

２．実習年度に、実習期間をはさんで、その前後に各６時間に及ぶ「事前指導」と「事後指導」を行う。

＜準備学習等の指示＞
事前と事後に、それぞれ掲示板にて指示を出す。必ず出席すること。

＜テキスト＞
特に指定しない。随時、プリントを配布する。

＜参考書＞
授業時に随時、紹介する

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
教育実習成績報告書と「事前・事後指導」の出席・発表等を総合的に評価する。